

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第540集

なりた いわた どうたて
成田岩田堂館遺跡発掘調査報告書

緊急地方道路整備事業成田更木地区関連遺跡発掘調査

2008

岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部
（財）岩手県文化振興事業団

成田岩田堂館遺跡発掘調査報告書

緊急地方道路整備事業成田更木地区関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、緊急地方道路整備事業成田更木地区に関連して平成19年度に発掘調査された成田岩田堂館遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では中世城館、平安時代の墓域、縄文時代の狩猟場であることが明らかになったほか、弥生時代の遺物も多く出土しました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部、北上市教育委員会、北上市埋蔵文化財センターをはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成20年11月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 武田 牧雄

例　　言

- 1 本報告書は、岩手県北上市成田1地割ほかに所在する成田岩田堂館遺跡において、平成19年度に実施した発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、緊急地方道路整備事業成田更木地区に伴う緊急事前調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の調整を経て、岩手県南広域振興局北上総合支局土木部の委託を受けた（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡登録台帳に記載される遺跡番号・遺跡略号は次のとおりである。
ME 46-1221・N T I T -07
- 4 発掘調査期間、発掘調査面積、野外調査担当者、室内整理期間、室内整理担当者は次のとおりである。
発掘調査期間：平成19年7月2日～11月16日／発掘調査面積：4,800 m²
野外調査担当者：杉沢昭太郎・田中美穂
室内整理期間：平成19年11月1日～平成20年3月31日
室内整理担当者：杉沢昭太郎・田中美穂
- 5 本書の執筆は、第Ⅰ章を県南広域振興局北上総合支局土木部が、それ以外を杉沢昭太郎・田中美穂が担当し、編集は杉沢が行った。
- 6 本書で用いる方位は世界測地系による座標北を示す。レベル高は海拔である。
- 7 出土遺物の鑑定・分析・保存処理は次の機関に委託した。
鉄製品の保存処理：岩手県立博物館
石材の鑑定：花崗岩研究会
- 8 野外調査、室内整理にあたり岩手県南広域振興局北上総合支局土木部、北上市教育委員会、北上市埋蔵文化財センター、近隣住民の方々のご理解とご協力を頂いた。
- 9 発掘調査や整理・報告書の作成は以下の方々に御教示・御指導を頂いた（順不同、敬称略）。
本堂寿一（前北上市立博物館）・高島成佑（八戸工業大学）
- 10 本報告書では、国土地理院発行「北上1:50,000」、「北上1:25,000」、「花巻1:25,000」地形図を使用した。
- 11 土層注記及び出土土器の色調の記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所『新版 標準土色帖』2002年度版に準拠した。
- 12 本遺跡の出土遺物、記録類は岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 13 本報告書発行以前に平成19年度発掘調査報告書等で調査成果を公表したが、本報告書を正とする。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と環境	3
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	6
3 基本土層	11
III 野外調査と室内整理の方法	11
1 調査方法	11
2 整理方法	13
IV 検出された遺構と遺物	18
1 遺跡の概要	18
2 堀跡・土壘	18
3 掘立柱建物跡	24
4 方形周溝	30
5 溝跡	30
6 土坑	31
7 陷し穴	31
8 その他	32
9 出土遺物	39
V まとめ	58
報告書抄録	104

図版目次

第1図 岩手県図・遺跡位置図	1	第20図 上坑①	35
第2図 周辺の地形	2	第21図 上坑②	36
第3図 地形分類図	4	第22図 陥し穴①	37
第4図 調査範囲	5	第23図 陥し穴②	38
第5図 周辺の遺跡分布図	7	第24図 弥生土器①	41
第6図 基本層序	11	第25図 弥生土器②ほか	42
第7図 道構配置図①	14	第26図 土師器・須恵器・鉄製品	43
第8図 道構配置図②	15	第27図 石器①	44
第9図 道構配置図③	16	第28図 石器②	45
第10図 道構配置図④	17	第29図 石器③	46
第11図 1号掘跡・1号土壙①	20	第30図 石器④	47
第12図 1号掘跡・1号土壙②	21	第31図 石器⑤	48
第13図 1号掘跡・1号土壙③	22	第32図 石器⑥	49
第14図 1号掘跡・1号土壙④	23	第33図 石器⑦	50
第15図 挖立柱建物跡①	27	第34図 石器⑧	51
第16図 挖立柱建物跡②	28	第35図 石器⑨	52
第17図 挖立柱建物跡③	29	第36図 挖立柱建物跡の検討	63
第18図 方形周溝跡	33	第37図 二子城ほか縄張り図	64
第19図 溝跡	34	第38図 二子城図面	65

表目次

第1表 周辺の遺跡一覧表	8	第5表 土師器・須恵器観察表	53
第2表 土坑観察表	31	第6表 石器類観察表	54
第3表 陥し穴観察表	31	第7表 柱穴観察表	56
第4表 土器観察表	53		

写真図版目次

写真図版1 航空写真	69	写真図版18 土坑（3）	86
写真図版2 調査区現況ほか	70	写真図版19 陥し穴（1）	87
写真図版3 調査区現況	71	写真図版20 陥し穴（2）	88
写真図版4 基本上層・1号掘跡・1号土壙（1）	72	写真図版21 陥し穴（3）	89
		写真図版22 陥し穴（4）ほか	90
写真図版5 1号掘跡・1号土壙（2）	73	写真図版23 柱穴・調査状況ほか	91
写真図版6 1号掘跡・1号土壙（3）	74	写真図版24 調査状況・現地公開ほか	92
写真図版7 1号掘跡・1号土壙（4）	75	写真図版25 出土遺物（1）	93
写真図版8 1号掘跡・1号土壙（5）	76	写真図版26 出土遺物（2）	94
写真図版9 1号掘跡・1号土壙（6）	77	写真図版27 出土遺物（3）	95
写真図版10 挖立柱建物跡（1）	78	写真図版28 出土遺物（4）	96
写真図版11 挖立柱建物跡（2）	79	写真図版29 出土遺物（5）	97
写真図版12 挖立柱建物跡（3）	80	写真図版30 出土遺物（6）	98
写真図版13 挖立柱建物跡（4）	81	写真図版31 出土遺物（7）	99
写真図版14 挖立柱建物跡（5）、1号方形周溝（1）	82	写真図版32 出土遺物（8）	100
写真図版15 1号方形周溝（2）、2号溝跡	83	写真図版33 出土遺物（9）	101
写真図版16 土坑（1）	84	写真図版34 出土遺物（10）	102
写真図版17 土坑（2）	85	写真図版35 出土遺物（11）	103

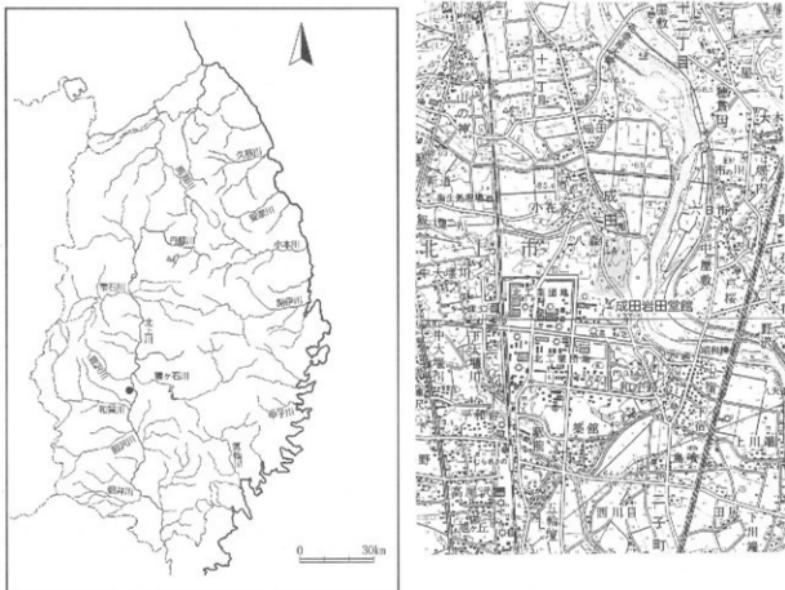
I 調査に至る経過

成田岩田堂館遺跡は、緊急地方道路整備事業である主要地方道北上東和線（仮称）平成橋の事業区域内に存在することから、工事施行前の発掘調査が必要となり、平成19年度に発掘調査を実施した。主要地方道北上東和線の北上川に架かる「昭和橋」は老朽化し近年の車両の大型化に対応できないため、現橋の上流約950mに新設橋を計画し、北上工業団地・北上流通団地への物流機能の向上および建設中の（仮称）県立花北病院へのアクセス充実を図るために「（仮称）平成橋」として整備を進めているものである。

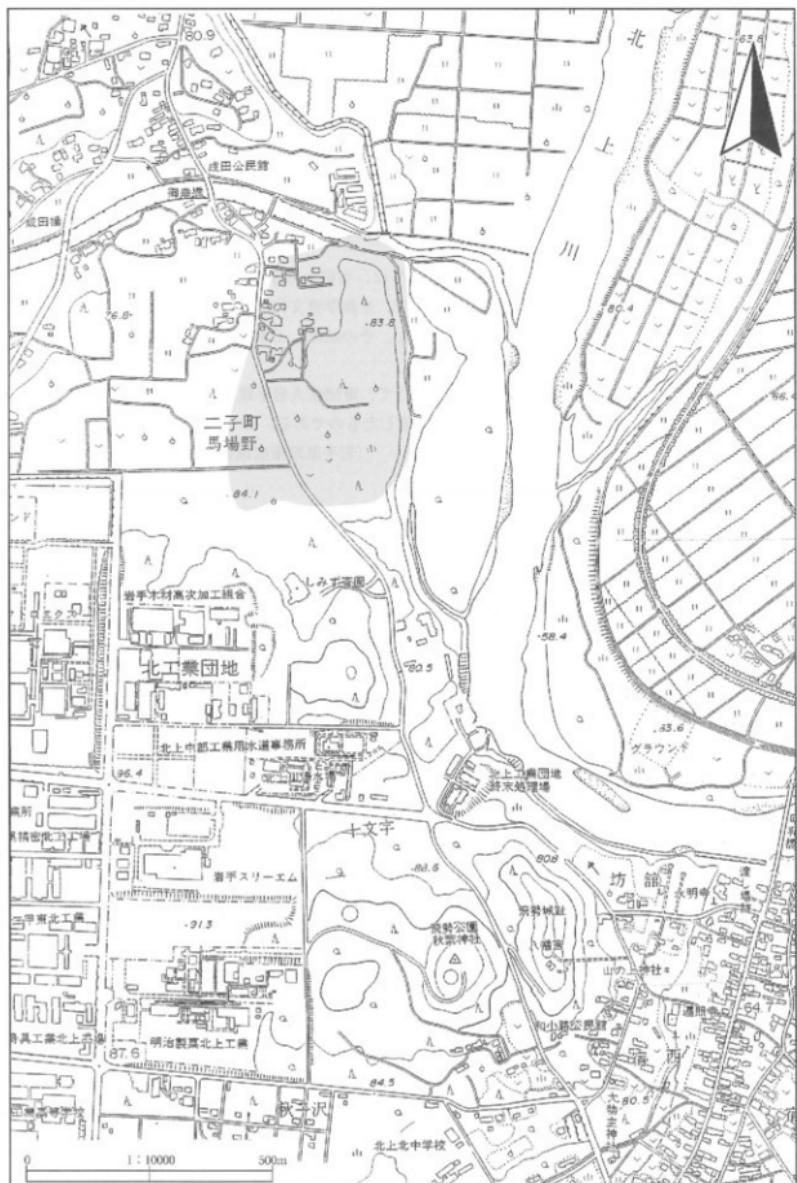
当事業の施行に係る埋蔵文化財の取扱いについては、当部から平成18年9月6日付北総上第462号にて岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課（以下、生涯学習文化課）に試掘調査を依頼し、平成18年9月12日に生涯学習文化課が試掘調査を実施した。その結果、工事施行前の発掘調査が必要であることが明らかになった。

その結果を踏まえ、生涯学習文化課の調整を受けて、財団法人岩手県文化振興事業団との間で平成19年6月27日に委託契約を締結し、発掘調査を実施したものである。

（岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部）



第1図 岩手県図・遺跡位置図



第2回 周辺の地形

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

（1）遺跡の位置と立地

成田岩田堂館遺跡の所在する北上市成田地区は北上市北部に位置し、北上川の東岸及び飯豊川の南岸の河岸段丘上に立地する。

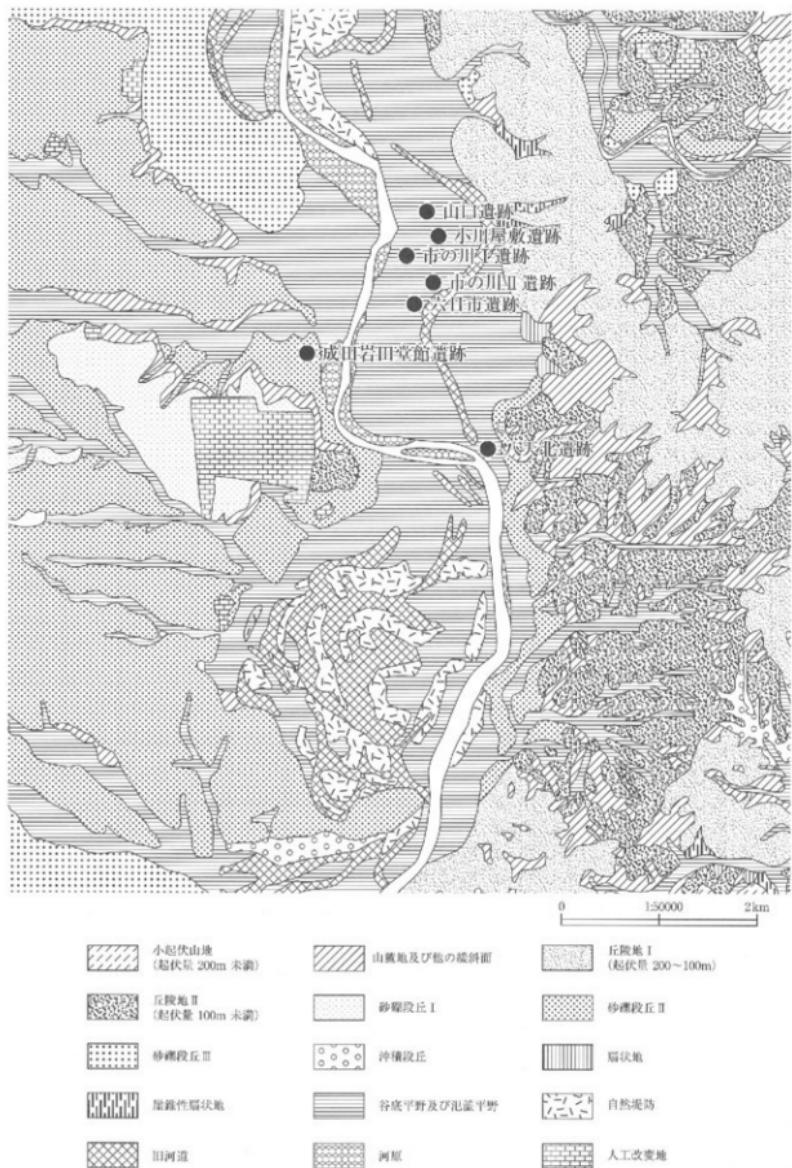
北上市は県都盛岡市から南方約47kmの距離にあり、総面積は435.55km²。北に花巻市、南に金ヶ崎町、東に奥州市、西に西和賀町が隣接する。古くから交通の要衝として栄え、藩政時代の墨沢尻は北上川舟運の南部藩最南端の商港であった。平成3年4月に旧北上市、和賀町、江釣子村の3市町村が合併し、現在の北上市となった。

北上市周辺は岩手県域を南流する北上川の中流域、北上盆地にあたるが、北上川とその支流は岩手県内においては様々な扇状地や段丘を形成している。北上盆地はこれらの扇状地・段丘によって構成され、東は北上山地、西は奥羽山脈に挟まれた南北約90kmに及ぶ帶状の盆地である。このうち北上市は、北上盆地のほぼ中央、北上川とその最大の支流である和賀川の合流点に位置している。北上市周辺の地形は、盆地のほぼ中央を北上川と北上川沖積平野が南北に縱断し、それによって東部の小起伏山地を含む丘陵地帯と西部の扇状地性の台地群の二つに大きく区分されている。東部は北から連続する物見山丘陵をはじめとする各丘陵が北上川付近まで大きく広がるが、西部では台地が卓越し、最低でも3段階以上の時期を異にする台地に分類されている。この西部の台地では下位段丘が最も広く広がり、これは西部山間地近くの開析扇状地と北上川沿いの旧谷底平野が段丘化したものの二つの性格から成り立っている。北上市の遺跡は、東部北上川沿いの丘陵や西部の中位・下位段丘に多く分布している。

（2）遺跡周辺の地形

遺跡は北上川右岸に立地し、地形的には村崎野段丘をはじめとする中位段丘にあたる。遺跡東側は切り立った崖となっており、更に東側は北上川氾濫原及び自然堤防が広がっている。遺跡北側は飯豊川が西から東へと流れ北上川へ合流する。その対岸も成田地区であり中位段丘が飯豊川に沿って細長く張り出すように見られるほかは谷底平野となる。その付近になると北上市の成田地区は終わり、花巻市の成田地区となる。西側は村崎野地区で村崎野段丘、西根段丘といった中位段丘が續くが、いくつかの小規模な河川により間断されている。中位段丘は二子町を取り囲むかのようにして小島崎へと延びている。本遺跡南側にある二子町には、中位段丘の中に物見ヶ崎、秋葉山、飛勢森といった小高い独立丘がある。その南側も二子地区であるが三方を段丘に囲まれた氾濫原・自然堤防が広がっている。自然堤防上は宅地として、旧流路は主に水田として利用されている。北上川対岸には更木地区があり、谷底平野・氾濫原の中に自然堤防が形成されている。その中には過去の北上川流路と見られる地形も見受けられる。

遺跡範囲は南北550m、東西350m程ある。東側は段丘崖に沿っては雑木・植林した杉林となっている。北・北西部には岩渡党的领导の集落があり、飯豊川に向かって下る地形である。西端部も南北に細長い林である。南東部には小規模な沢が入っておりその周りも基本的に雑木林である。その他（遺跡の中央部）は大半が林檜畑となっているが、北上工業団地造成頃までは養鶏場などもあった。それ以前の



第3図 地形分類図



第4図 調査範囲

ことを地元の方から聞いたところ雑木林で見通しが悪かったとしながらも、起伏のある地形であったと語る方もいた。この点は発掘調査でも明らかにできなかった。飯豊川も現在とは異なり遺跡東端の段丘外直下を南流していた時期があったようでここは現在では細長い沼となっている。

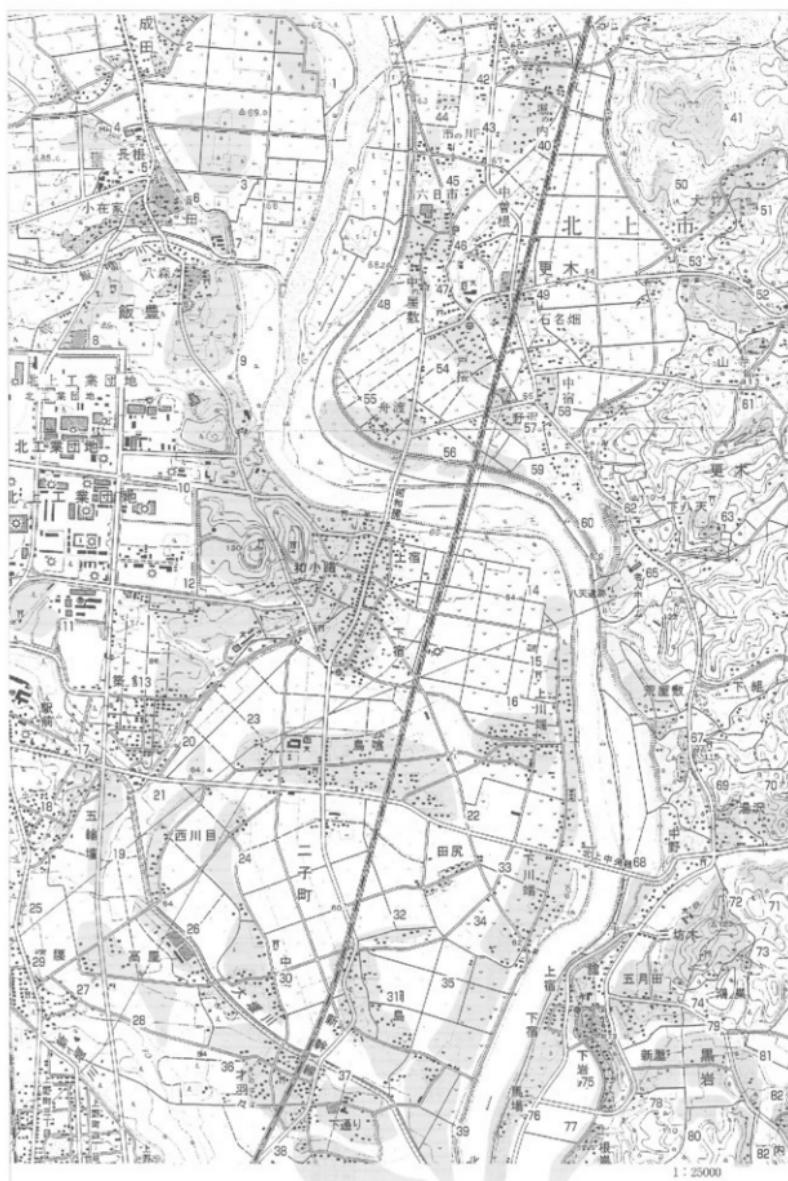
2 歴史的環境

(1) 周辺の遺跡

今回、調査が行われた成田岩田堂館遺跡からは縄文時代の陥り穴や平安時代のものと考えられる方形周溝、中世の掘立柱建物跡などが検出され、縄文時代から中世にかけて人々の生活に利用されていたことがうかがえる。ここでは本遺跡の時代を中心に、特に平安時代から中世の遺跡をみていきたい。平安時代の集落跡は9世紀から10世紀にかけてのものが多く、秋子沢遺跡、下川端遺跡、西川日遺跡、堀向Ⅱ遺跡などの集落跡が存在する。秋子沢遺跡では、堅穴住居跡が16棟検出されており、土師器、須恵器の他に縁釉陶器の破片や刀子、鉄製紡錘車などが出土している。須恵器には、「水」「十」などと墨書きされているものもあり、当時の有力者が住む集落跡であったことがうかがえる。西川日遺跡では堅穴住居跡や掘立柱建物跡など多くの遺構が検出されている。遺物は土師器や須恵器があり、1棟の堅穴住居跡からは土錠が300点近く出土している。堀向Ⅱ遺跡でも堅穴住居跡や掘立柱建物跡が検出されており、土師器や須恵器の他に施釉陶器や硯など特徴的な遺物が出土しているため、隣接する西川日遺跡とあわせて当時の拠点的な集落であったとされる。11世紀には国見山廃寺を中心として古代寺院が建てられた。本遺跡周辺では、大竹庵寺跡と白山庵寺跡がある。大竹庵寺跡は更木地区大竹の標高180mの山頂付近に所在し、桁行5間、梁間4間の巨大な堂宇の跡が検出された。金堂跡と推定されているその堂宇からは、土師器や須恵器、須恵系土器などの遺物の他に鐵錠も出土している。白山庵寺跡は、白山権現の十一面觀音像を鎮守とした寺院である。移動されている礎石もあるが、桁行き約11間、梁行き約5間、礎石が径4尺という瓦葺きの軒庇をもった11世紀頃の寺院であることがわかっている。

中世になると更木館、湯沢館、三坊木館など中世の城館が多く築かれるようになる。和賀郡を治めていた中世領主である和賀氏は、黒岩城から更木館に移り、最後に二子の地に城を構えたといわれている。それが、和賀氏の最後にして最大の城館であった二子城跡(飛勢城跡)である。成田岩田堂館遺跡のある地域も、二子城跡の握手としての機能を果たしていたとされ、古くから馬場野という地名も残っている。また、和賀氏の家臣であった成田藤内の居館があったとされ、建物跡も検出されている。二子城跡は、天正18年(1590)の奥州仕置によって、和賀氏が追放されるまで本城としての役割を果たしていた。周辺には家臣屋敷や寺社、城下町も存在し、当時、重要な役割を担っていたと考えられている。県内最大の中世墓である五輪塔遺跡は、和賀領主の墓である可能性が高いとされている。土壇の上には五輪塔が建てられ、その土壇の中に何体もの火葬骨がおさめられている。そして、その土壇を囲むように二重の塀が巡るという大規模な墓である。中世の墳墓には、他にも上川端塚群、四十九单塚遺跡などがある。上川端塚群は、方形や円形の塚が8基以上現存しており、土葬墓で中世末～近世前半のものと推定されている。

最後に県指定史跡である二子一里塚と成田一里塚についてである。この二つの一里塚は、慶長9年(1604)に江戸幕府によって全国的主要道路を整備した際に築かれたもので、塚が対になった状態で当初の原形を保ったまま残っている。全国的にも珍しく、当時の交通史を考えるうえでも重要な遺跡である。特に成田一里塚には、塚を築いたときに植えられたとされるエノキが残っており貴重である。



第5図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代	遺構・出土物など
1	成田Ⅰ	散布地	古代	土師器、須恵器
2	成田Ⅱ	散布地	古代	土師器、須恵器
3	成田Ⅲ	散布地	平安	土師器
4	小学校西	集落跡	平安	土師器、須恵器、万葉太刀残矢
5	成田一里塚	一里塚	古墳	一里塚之基
6	下成田	散布地	平安	縄文土器、土師器、埴輪器、土坑
7	成田原	城跡跡	中世	-
8	成田	散布地	古代、縄文	縄文土器、石器
9	成田岩山遺跡	散在地、城跡跡	縄文、古代、中世	縄文土器、石器
10	下城跡	城跡跡、散布地	中世、縄文	船、骨器、縄文土器、陶器
11	伊勢	散布地	古墳	-
12	猪之沢	集落跡	平安	整穴住居跡、山林跡、道也器
13	福地	散布地	平安	土器器、整穴住居跡
14	上川湯塚群	墳墓	中世	墳丘
15	上川塚Ⅰ	散布地	平安	土師器、須恵器
16	上川塚Ⅱ	散布地	古代	土師器
17	五箇塚	墳墓	中世	土器、陶器
18	森田Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
19	森田Ⅰ	散在跡	縄文、平安	縄文土器、土器、須恵器、整穴住居跡
20	森向Ⅰ	散布地	縄文、古氏	4脚足、須恵器、石器
21	摩向Ⅱ	集落跡	古代	4脚足、須恵器
22	森地	集落跡	古代	土師器、須恵器
23	鳥居Ⅱ	散布地	古代	土師器
24	西川貝	集落跡	古代	土師器、須恵器
25	明神Ⅱ	散布地	古代	土師器
26	明神Ⅲ	散布地	古代	土師器
27	法雲Ⅰ	散布地	古代	土師器
28	法雲Ⅱ	散布地	古代	土師器
29	二ノ池塚	土塁	近世	整壁之基
30	小島	散布地	古代	土器器
31	岡塚	散布地	古代	土器器
32	御野野	散布地	古代	土器器
33	川瀬	散在地	古墳	1面鏡、輪型鏡
34	御野	散布地	平安	土器器
35	御野	集落跡	平安	縄文土器、土器、須恵器
36	野原Ⅰ	散布地	縄文、弥生、古代	縄文土器（後、後期）、水生土器、土器器、保志器
37	中野佐Ⅱ	散布地	縄文、古代	縄文土器、土器器
38	中野佐Ⅲ	散在地	古氏	土師器
39	平岸	散布地	平安	4脚足、土器器、須恵器
40	大木原の内	散布地	平安	土師器
41	大木原分岐	散在跡	平安	土師器、須恵器、瓦器
42	山Ⅰ	散布地	平安	土師器
43	木本屋敷	散布地	平安	土師器、須恵器
44	古の川Ⅰ	散布地	平安	土師器、須恵器
45	古の川Ⅱ	散布地	平安	土師器、須恵器
46	森の川Ⅱ	散布地	平安、近世	上加野、筒形器、乳生土器
47	中の屋敷Ⅰ	散布地	平安	土器器
48	中の屋敷Ⅱ	散在地	平安	土器器
49	石引塚	散布地	平安	加茂器
50	大森	散布地	平安	土器器、須恵器
51	近子洞	散布地	縄文	縄文土器（後期）、石器
52	森川	散布地	縄文	縄文土器、石器
53	寒木館	城跡跡	中世	鐵器、劍
54	戸戸	散布地	平安、近世、昭和、後	小字器、須恵器、弦生土器、縄文土器
55	舟渡Ⅰ	散布地	縄文、平安	土師器、石器
56	舟渡Ⅱ	散布地	古墳	同前器（美濃前）、屋根跡、瓶があつたとされる
57	跡跡Ⅰ	散布地	縄文、平安	縄文土器（後期）、土器器、須恵器
58	小窓	散布地	縄文	縄文土器、石器、石斧
59	舟渡Ⅱ	散布地	平安	土師器
60	八木北	散布地	平安	土師器
61	森ヶ越	城跡跡	中世	-
62	森久保塚	城跡跡	中世	-
63	天王船	城跡跡	中世	空瓶、土器、櫻器
64	F矢野新	城跡跡	中世	土器、瓶
65	六八	集落跡	縄文	縄文土器、石器、整穴住居跡、土器品
66	平沢原ノ内	城跡跡	中世	瓶
67	三筋木	散布地	平安、縄文	縄文土器、土器器、須恵器
68	三筋木塚	城跡跡、散布地	中世、縄文	縄文土器、土器器、須恵器
69	森Ⅱ	散布地	古代	土師器、須恵器
70	森の頭	散在地、城跡跡	縄文、中世	縄文土器（中周）
71	津行田	散布地	縄文	縄文土器、中周、（後期）、石器
72	油池Ⅰ	散布地	平安	縄文土器、中周
73	油池Ⅱ	散布地	古代	土師器、須恵器
74	白山園寺跡	寺院跡	平安	若日瓦、かわらけ、鐵石植物跡
75	芦原城跡	散在地、城跡跡	縄文、中世、平安	鐵定土器（中期）、かわらけ、向柄器、瓶、半井、外郎
76	深澤古墳	集落跡	縄文、平安	鐵定土器、乳生土器、かわらけ、雪窓
77	鶴原	散布地	縄文	鐵定土器、鶴原之井、内井、外井、瓶
78	音田	集落跡	縄文、古氏	鐵文上器、ルート、土器器、須恵器、かわらけ、整穴住居跡
79	因十九塚Ⅰ	散布地	縄文、平安	鐵文上器、上師器
80	因十九塚Ⅱ	散布地	縄文、平安	石器、瓶
81	因十九塚Ⅲ	散布地	縄文	鐵文上器
82	大平沢	散布地	縄文	鐵文上器、ルート
83	方四	散布地	縄文	石器、ルート

(2) 歴史的環境

本遺跡は、中世和賀氏の居城二子城（飛勢城）の北端に隣接するようある（第5図）。二子城の城域は南北約1km、東西約0.5kmと広大で飛勢森を中心として見た場合その西側に西の森、北側に物見ヶ崎といった小山地形があり、その東側に城主屋敷とみられる白鳥館（白鳥神社）をはじめとする重臣屋敷が北上川沿いに並んでいたと伝えられている。南側には家臣屋敷や町屋が配され、北端は内膳廻（現在のしみず扇團付近）となる。そして搦手（からめて）が馬場野と呼ばれる飯農側にかけての北側平坦地にあたるとみられ、また城外の北には成田氏の屋敷跡が配置されていたとされている。本遺跡はこの馬場野と伝成田氏屋敷跡にあたる。現在の成田地区の城館は成田岩田堂館（岩渡堂館とも）のほか、小館、飯豊川北岸に成田館が知られている。

「岩手の地名」によると成田地区は中世には和賀氏と稗賀氏の領境であったため両氏の間で争論があった。溝を境にして和談し、これを対面堰と名付けたという（邦内郷村志）。和賀氏の本城二子城の北に位置する防衛上の要地でもあり、天正18年（1590）の和賀氏没落の際には南部方との戦があったと伝えられている。和賀氏滅亡後は南部領となり、慶長8年（1603）ころ、上成田・下成田を含む稗貫・和賀両郡の20カ所・八千石が北松原信愛に宛行われている。江戸時代を通じて盛岡藩領であったが、元禄7年・宝永3年（1694-1706）間は新田分104石余が五代藩主南部行信の弟旗本南部政信領となる（郷村古実見聞記）。享和3年（1803）の仮名付帳では「ナリダ」と訓じ、枝村は岩渡堂・小在家・長根・上野・野崎・島中・谷地中・成田宿がある。

奥州街道について「増補行程記」に町の出口・入口の門が描かれ、この地区は小さな宿をなしていないと思われる。成田町の南、字長根に江戸から129里日の一里塚一対がある。二子の一里塚とともに県指定史跡である。字岩渡堂（岩田堂館跡）には八幡社がある。地元の方は調査区及びその周辺を馬場野と呼んでいる。

鎌倉時代から安土桃山時代まで和賀郡一帯を領していたのは和賀氏である。その祖は御家人刈田氏だがこの地に移ってきた年代と確かな理由は不明であるという。旧領刈田郡が北条氏領となる13世紀前葉に和賀郡に下向し、義行の時から和賀氏を名のるようになったと推測されている。和賀氏の最初の居館は黒岩の岩崎（元館）或いは更木の梅ヶ沢城があげられており、前者を有力とする見解のほうが多い。一族に所領を分割して領内経営を進めるなかで、和賀宗家の居城は黒岩・更木・二子と変わるとみられ、本領は北上川の東西に広がる一帯と考えられる。和賀一族については「鬼柳文書」に詳しい記載があり、他地域に比べ中世全般を通じて多くの事象を知ることができる。本稿では遺跡が機能していたと思われる15-16世紀頃を年表にして整理した。

天正18年（1590）、奥州仕置の際に和賀義忠は所領を没収され追放された。これに対し同年10月、和賀義忠・稗貫広忠らが反乱を起こし二子城・鳥谷ヶ崎を奪ったが、翌年の奥州再仕置により和賀氏は二子城を追われ義忠の子らは仙北方面へ逃れた。この地域が南部氏領となった中の慶長5年（1600）、和賀忠親らは一揆を起こす。忠親は義忠の子でこの頃伊達政宗から西根平沢に所領を得ていた。忠親は平沢（金ヶ崎）を立ち相去の地小屋で旧家臣に迎えられ二子城の北隅にある筒井縫殿介のかつての屋敷に入った。ここから手勢を率い花巻城を夜襲したが失敗する。二子城へ逃げる途中、成田馬場野で追う南部勢との間に戦闘があったとされる。一揆勢は二子から飯豊を経由し岩崎城に籠城した。南部方は11月には攻撃を断念し、三戸へ戻るが、翌慶長6年（1601）3月頃より再び岩崎城を攻め4月には陥落させる。和賀忠親は伊達領に逃れるも、志田郡松山に呼び出され5月には切腹している。

和賀氏関係略年表（15世紀から）

年 代	事 　象
1400 応永7	鬼柳伊賀守、宇都宮氏広の乱に参陣を催促され、一色詮範戰功と忠節を称える。和賀下總入道に足利満貞から宇都宮氏広の乱参陣に感状。
1401 応永8	鬼柳常陸入道、石橋棟義と文通。須々藤氏慶度決まらず。和賀下總入道、足利満貞から和賀郡惣領職に補任され、惣領分の施行も安堵される。
1405 応永12	安儀城小原時義、和賀丹内村権現堂修理（岩手県史）
1429 永享元	安儀左京進、里分、二丁、岩崎諸郷97貫、利賀美作守から安堵される（北上市史）。
1435 永享7	春、和賀・稗貫両郷に人跡動起る（北上市史）。
1436 永享8	和賀・稗貫の大乱、和解なる（北上市史）。
1438 永享10	和賀時國、嘉西持信と父頼、鈴木氏入る（岩手県史）
1461 寛政2	正覚寺再興される（北上市史）
1470 文明2	金ヶ崎にて和賀氏と江刺氏争う（岩手県史）。
1475 文明7	見彈正、鬼柳義継の一筋を知行する（北上市史）。
1476 文明8	和賀氏と柏山氏、和議を結ぶ（岩手県史）。
1485 文明17	葛西政信と和賀定義衝突。定義相去にて死す（岩手県史）。
1492 明応元	鬼柳義継、伊賀守補任の官途を受く（北上市史）。
1499 明応8	大崎探題の争いに和賀氏出陣（岩手県史）。
1504 永正元	淨国寺再興される（北上市史）。
1508 永正5	和賀郡丹内権現堂修復なる。棟札あり（岩手県史）。
1521 大永元	和賀氏と南部志波郡で合戦（岩手県史）。
1534 天文3	南部氏南進して柏山氏と衝突（岩手県史）。
1535 天文4	二子城の永明寺再興（北上市史）。
1537 天文6	和賀義方と南部昭政、志和郡で衝突、巖山泰朝討死（岩手県史）。
1538 永禄元	立花轉輪池重古、和賀氏から17貫文宛行われる（北上市史）。
	和賀領内検進行われる（北上市史）。
1565 永禄8	新渡戸対馬守相去城で自殺。妻は仙人別当娘（北上市史）。
1572 元亀3	九戸政実、和賀郡に進出し、河崎城で戦う（岩手県史）。
1573 天正元	和賀・柏山・江刺の三者会談国見峰で行われる（北上市史）。
1581 天正9	黒岩元章の重臣尾十佐、南部方一味という（岩手県史）。
1582 天正10	九戸政実、和賀駒形城を攻めたという（岩手県史）。
1588 天正16	南部氏、斯波氏の高水寺城を攻略する（岩手県史）。
	この頃、和賀義忠、仙北部小野寺氏を攻撃（北上市史）。
1590 天正18	秀吉・小田原北条氏を攻略する。奥州仕置により和賀氏追放される。
	天正の和賀・稗貫一揆
1591 天正19	九戸政実の乱、奥州内仕置、城主は和賀義忠。
1598 廉長3	和賀忠義は仙北から胆沢の人森に移り、政宗から西根平津に500余町賜った。
1600 廉長5	和賀忠義、臣下を集め田代賀勢とともに花巻城を夜襲するが失敗し、岩峰城に立て篭もる。
1601 廉長6	4月、落城。忠義逃れるも、5月には仙台で自害。

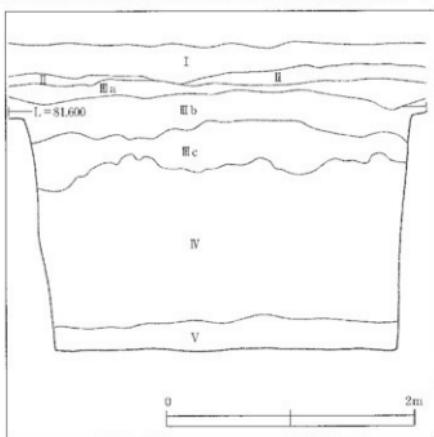
引用参考文献

- 北上市 1968 『北上市史』第1巻 原始・古代（1）
- 北上市立博物館 1986 『古代仏教の雪峰 国見山極楽寺』 北上川流域の自然と文化シリーズ（8）
- 北上市立博物館 2000 『和賀氏一族の興亡』（総集編）「岐路の世界と一所懸命の拠点－城館の時代」 北上川流域の自然と文化シリーズ（21）

3 基本土層

調査区は東西に細長く、複数地点で土層観察を行った。平坦な地形であったために層序に大差の無いことが判ったため、最も状態のよかつた調査区東側で観察記録をとった。Ⅲ層が黒沢尻火山灰、Ⅳ層が村崎野火山灰である。

- I層 10YR2/2 黒褐色土 草木根多、粘性・縮まりやや弱い。表土。
- II層 10YR2/1 黒色土 粘性・縮まりやや弱い。土器・石器類を含む。
- III a層 10YR3/4 暗褐色土 減位層、粘性・縮まりやや有り。
- III b層 10YR5/6 黄褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- III c層 10YR6/6 明黄褐色土 粘性・縮まりやや有り。
- IV層 10YR7/8 黄橙色浮石 粘性なし、縮まっている。
- V層 2.5Y7/2 灰黄色粘土 粘性あり、縮まっている。



第6図 基本層序

III 野外調査と室内整理の方法

1 調査方法

(1) グリッドの設定

調査を開始するにあたって遺構、遺物の位置を正確に把握するためにグリッドの設定を行った。委託測量により調査区内に基準点1~4を設定した。基準点座標は以下の通りである（世界測地系）。

成田岩田堂跡 基準点位置

基準点	グリッド名	世界測地系	
		X	Y
1	II H 1 j	-73200.000	25700.000
2	II G 1 j	-73200.000	25750.000
3	II E 1 j	-73200.000	25850.000
4	II D 1 j	-73200.000	25900.000

グリッドは、1辺50mの大グリッドにより調査区を区割りし、さらにこれを1辺5mの小グリッドに分割している。大グリッド名は、北から南方向にローマ数字大文字のI・II・III…、東から西方向にアルファベット大文字のA・B・C…を組み合わせ、I A、II Bとした。小グリッド名は、北から

南方向に算用数字の1・2・3…10、東から西方向にアルファベット小文字のa・b・c…jを組み合わせ、1a、2bとした。実際のグリッド呼称は大小グリッド表示の組み合わせによりIA2bといった表示とし、グリッド杭名称はグリッド南東隅を呼ぶこととしている。

(2) 調査区の命名

今回の調査区は、道路を挟んで東西に位置する。よって、道路を挟んで東側を「東側調査区」、西側を「西側調査区」と呼称している。

(3) 表土掘削

作業の効率化を図るため、重機による表土除去を行った。しかし、表土から遺構検出面までの深さがあまりないと判断したところは人力により表土除去を行った。また、木の切り株や竹などもあらかた機械で切った後は、遺構を破壊する恐れがあったため、鋸等を使用し人力により丁寧に除去した。

(4) 遺構検出

鋤籠や両刃鎌などを用いて遺構検出にあたった。検出された遺構には、1号○○、2号○○のように遺構種別ごとに順に遺構名を付けている。

(5) 遺構精査

陥穴、土坑、柱穴については二分法を用い、溝跡、方形周溝跡、上墨・堀跡は適宜数ヶ所にベルトを設定して記録する断面を残しながら掘り下げた。堀跡については、疎検出面で一度記録をとり、その後掘り方底面まで掘り下げた。

(6) 遺物の取り上げ

遺構内の遺物は、疎検出面や底面出上のように遺構と関連があると思われるものについては、遺構の時期決定に関わるために原位置を固化して取り上げている。そのほか、流れ込みなどと判断されるものは概ね埋土内とした。遺構外の遺物は、グリッド・層位ごとに一括して取り上げている。

(7) 実測記録

図面は平面図と断面図を作成しており、平面図は簡易造り方測量と光波測定機を用いて作成を行った。縮尺は通常の遺構については1/20を基本とし、等高線作成に当たっては1/50または1/40とした。

(8) 写真記録

野外調査の写真記録は、遺構検出、堆積土層断面、遺物出土状況、遺構完掘状況などを撮影している。撮影にあたっては、デジタルカメラ(Nikon D80)1台、35mm判カメラ1台(モノクロ)、6×7判カメラ1台を使用した。遺跡全体及び遺跡周辺の空撮は委託撮影とした。

2 整理方法

(1) 遺構記録の整理

遺構実測図は、必要に応じて合成・修正などの編集作業を行い、第2原図を作成した後トレースをし、報告書掲載用に図版を作成した。遺構によっては観察表をつけたものもある。遺構写真は、アルバムに整理・保存しており、報告書掲載用の写真是複数のカットの中から選抜して掲載した。

(2) 遺物の整理

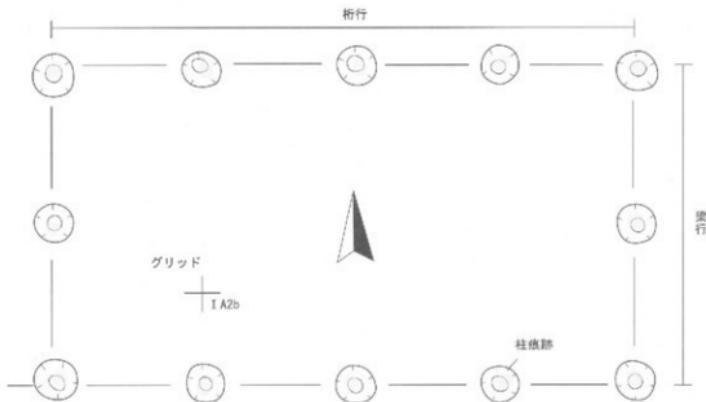
出土遺物は、水洗、注記、接合を行った後、種類ごとに選抜して資料化した。遺物実測は原寸で行い、トレースをした後、種別ごとに観察表と図版を作成した。遺物実測図には、それぞれスケールを付している。遺物写真は図化資料の大部分についてデジタルカメラで撮影し、その中から選択して掲載している。

(3) その他

遺構名の中で、土坑と陥し穴については共に連番で1号土坑・2号土坑と付した。室内整理段階で陥し穴については改名すべきであったかもしれないが、遺構名の変更ミスを心配し今回は遺構名を変えなかった。

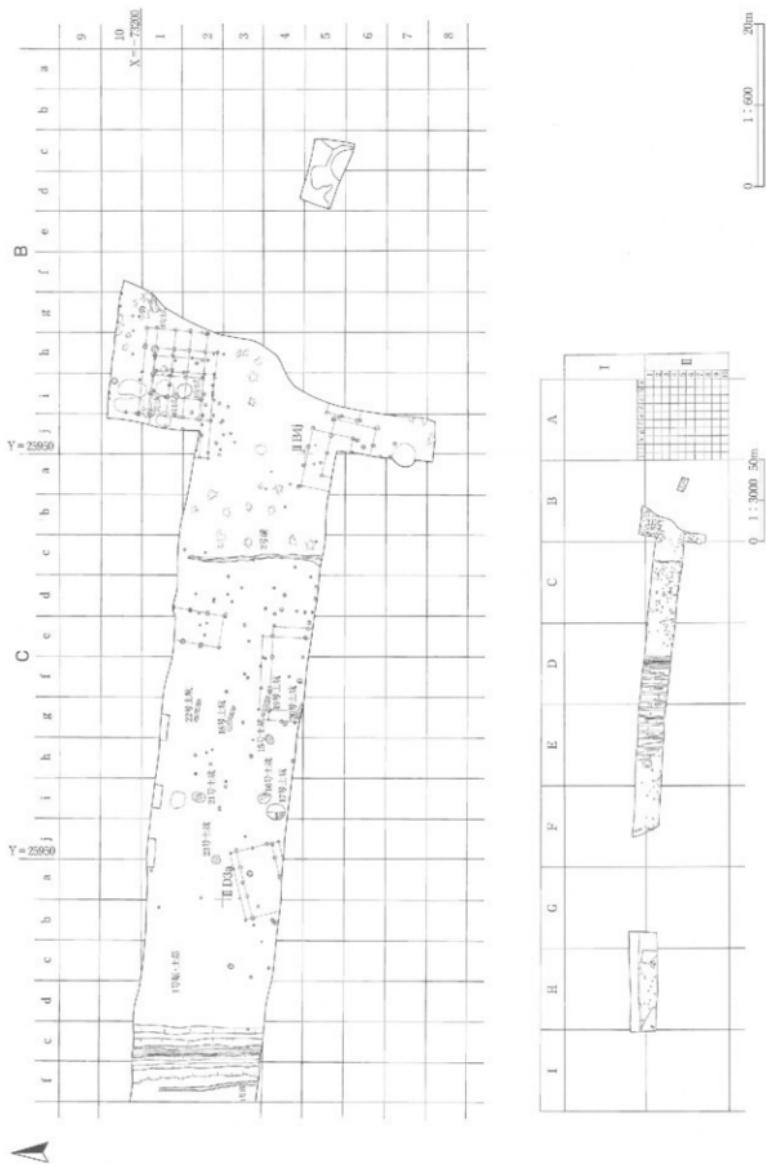
柱穴の深さについては遺構検出面からの深さを計測しており、本来の柱穴の深さではない。当時の生活面は残っていないが、調査する中で現在とは同じという印象を持っており、計測値に40~50cm加算して考えてもらいたい。

<掘立柱建物跡凡例>

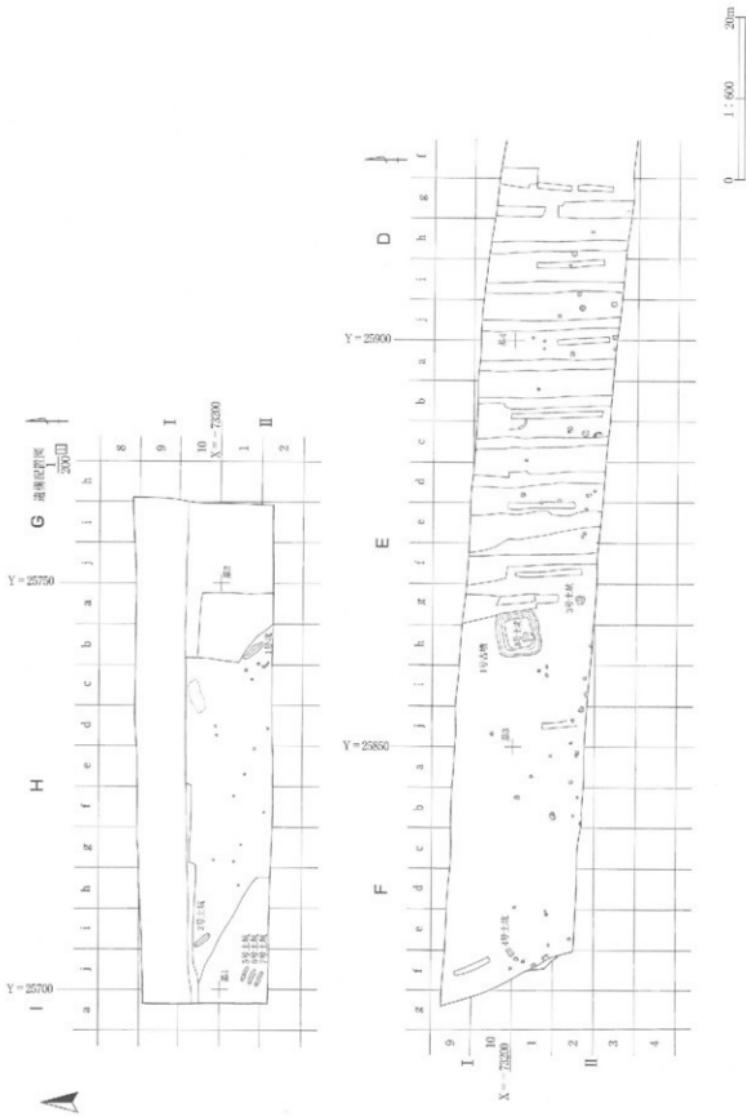




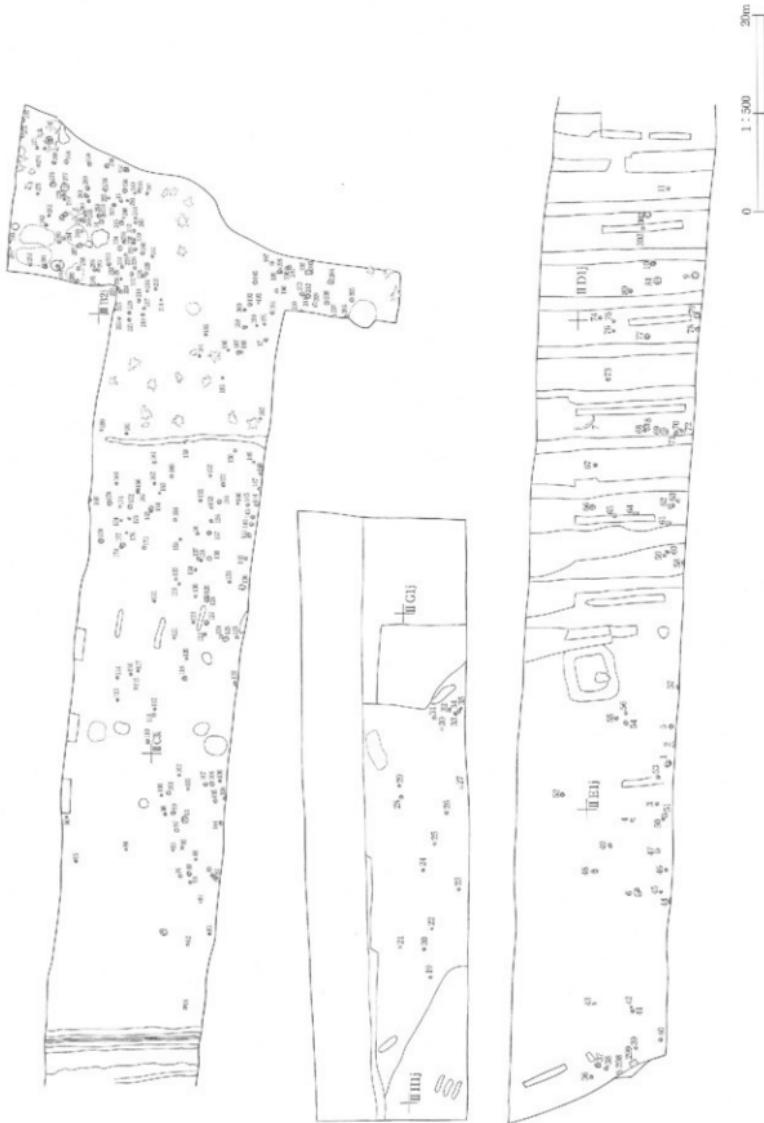
第7図 遺構配置図①



第8図 通構配面図②



第9図 造構配置図③



第10図 遺構配置図④

IV 検出された遺構と遺物

1 遺跡の概要

本遺跡は北上川西岸に形成された河岸段丘上にある。（第2図・写真図版）東側の段丘崖が遺跡の東端であり段丘崖下の沖積地で仮に何か見つかったとしても別遺跡として扱うのが妥当であろう。北端は飯豊川手前まで成田岩田堂館の北東端にもなる。南側はくつわ清水遺跡との間にある沢までである。西側は林喫煙と水田の間にある雜木林までであるが遺構造物の状況によっては広がる可能性もある。今回は遺跡の南部付近を東端から西に向かって細長く調査したことになる。

成田岩田堂館遺跡という遺跡名であるが今回検出された中世の遺構群はこの中世成田岩田堂館跡とは直接つながらない別の施設（館跡）である。詳細は後述するが、本稿では誤解ないよう単なる中世の城館跡・城館跡関連の遺構群として扱っていく。

調査区は東西に細長く東側調査区と西側調査区に分けられる。東側調査区は東部にあたる中世城館の城内部とそれ以外に二分できる。現況では東側より西側のほうが50~60cm低いが何れも概ね平坦な地形である。調査したところ西側調査区のほぼ全域と東側調査区の城館外部は地山面まで擾乱をうけている。林檎を等間隔に植えるために列状に耕されていたのである。その列と列との間の擾乱が地山面まで達していないところで遺構検出を行ったわけだが表土は薄く、旧表土は殆ど検出されなかった。西側調査区では擾乱を除去して遺構検出を行った。縄文時代の陥し穴の中で深く掘り込まれているものであれば残存している可能性があると判断したためである。西側調査区の北部は市道となっているがここには下水管が埋設されていた。下水管を付設するために掘られた溝は前述した擾乱よりも深いため遺構は検出できないと判断した。東側調査区の東部は中世城館の内部にあたる。現況は雜木・杉林であった。重機で根を抜こうとしたが多量の切株が遺構検出面まで達していることが分かつたため人力で除去することとし、根の下にある遺構についてもその多くを検出することができた。しかし樹木伐採の時に根ごと倒れたものなどは遺構も破壊されている。

2 堀跡・土塁

堀跡1条と土塁1基は並んで検出されている。堀を掘削した土砂で土塁は構築されており、両者は同時に造られた遺構である。

1号堀跡

遺構（第11~14図、写真図版4~9）

【位置・検出状況】遺跡東端の段丘崖から100m西側（I D 10 f ~ II D 4 f グリッド）に位置する。1号土塁のすぐ西隣りにあり、埋没しきらずに溝状の凹地として現在に至る。この周辺はリンゴ畑になっており調査した部分には物置小屋があった。

【重複関係】深さ0.8mの溝跡と重複関係にあり、堀跡のほうが古い。溝跡は断面形が堀跡と似ていたこともあり、堀の造り替えかとも考えたが埋土は現表土近くから掘り込まれていることから遺構としては扱わず、新しい時期の溝とみなした。

【規模・形態・方向】やや西に振れるが、ほぼ南北方向へ最大長250mある中で、15.4mを調査した。遺構検出面での上幅は3.0~3.5m、深さは1.4~1.5mである。断面形状は底面が平坦な薙ぎ掘状である。

〔普請〕 黒沢尻火山灰層、村崎野火山灰層を掘り込んで構築している。

〔埋土〕 断面A-A'を例にすると7~10層は上砂の流れ込みと壁面の崩落土からなり、6層は薄い黒色土に大小の礫が敷かれた状態でみられる。ここまででは礫敷き以外は自然堆積である。4・5層は地山ブロックを多量に含むため人為堆積の可能性がある。1層は現表土、2層は地山ブロックを少量含む黒褐色土である。

〔その他〕 堀埋土中位（断面A-A'を例にすると6層）に大小の礫が敷かれた状態で検出されている。調査した部分では全域に広がっており、南北方向へ長さ15.4m、幅0.5m前後で南北方向は調査区外へと続いている。投げ込みや崩落により堆積した礫群ではないと考えている。それは堀法面に沿って礫が全く見られなかったからである。廃棄や崩落であれば斜面に沿った状態で礫が分布していても良いはずだがここでは6層上面に平に敷かれた状態で検出された。石敷きの性格については不明であるが、新たに遺跡外から持ちこまれた礫はあまりないようである。遺跡内に石を含む地層もない。堀の近くで拾えた礫が使われたらしく弥生時代の石器類も多量に用いられていた。石敷きより上層は人為堆積の可能性があることから、堀が埋められる直前（これが破却の時か）は大小の礫が敷かれた浅い堀になっていたと推察される。

遺物 中世の遺物はない。弥生時代・平安時代の遺物が出土しているが、それらは遺構遺物とともに後述したい。

時期 中世後半16世紀代と思われる。

1号土塁

遺構（第11~14図、写真図版4~9）

〔位置・検出状況〕 遺跡東端の段丘崖から100m西側（I D 10 e ~ II D 4 e グリッド）に位置する。1号堀跡のすぐ東隣りにあり、雑草に厚く覆われながらも凹地として現在も残っている。この周辺はリンゴ畠と雑木林になっており上界はリンゴ畠（曲輪外）と雑木林（曲輪内）の境界にもなっている。

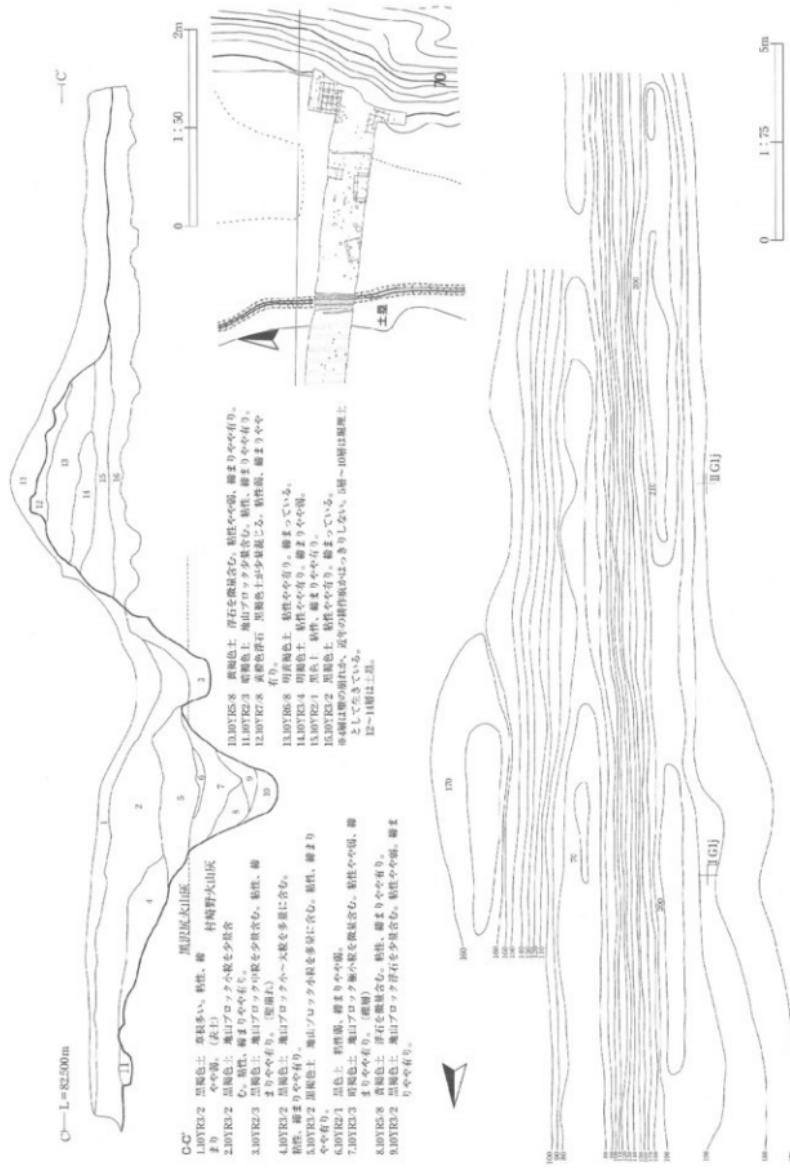
〔重複関係〕 新しい時期の溝と重複し本遺構のほうが古い。

〔規模・形態・方向〕 1号堀跡と並行している。南端は内膳館との境界となる堀としても機能していたと考えられる沢との接点から始まり、北端まで概ね234m、それから東側へ向きを変え4~5m程で消滅するようであるが、雑草に厚く覆われてよく判らなかった。調査区内では最大幅（旧表土から）2.8m、最大高（旧表土から）1.1mである。

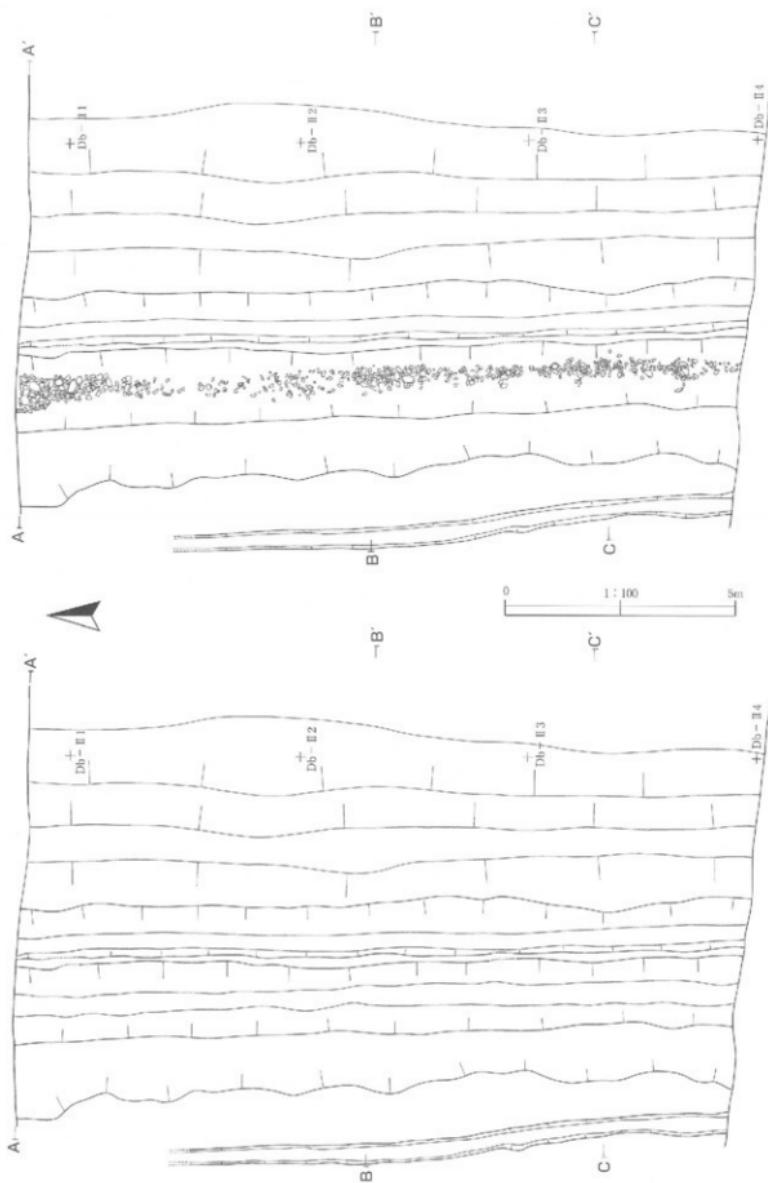
〔普請・埋土〕 断面図A-A'を例にすると旧表土16層の上に、1号堀跡を掘削した際にでた土砂13~15層を積み上げて構築している。本来は幅があったはずだが新しい時期の溝によって失われている。〔その他〕 土塁頂部に柵列や櫓などの施設があるか精査しているがなかった。同様に土塁下に遺構があるか精査したがなかった。

遺物 なし。

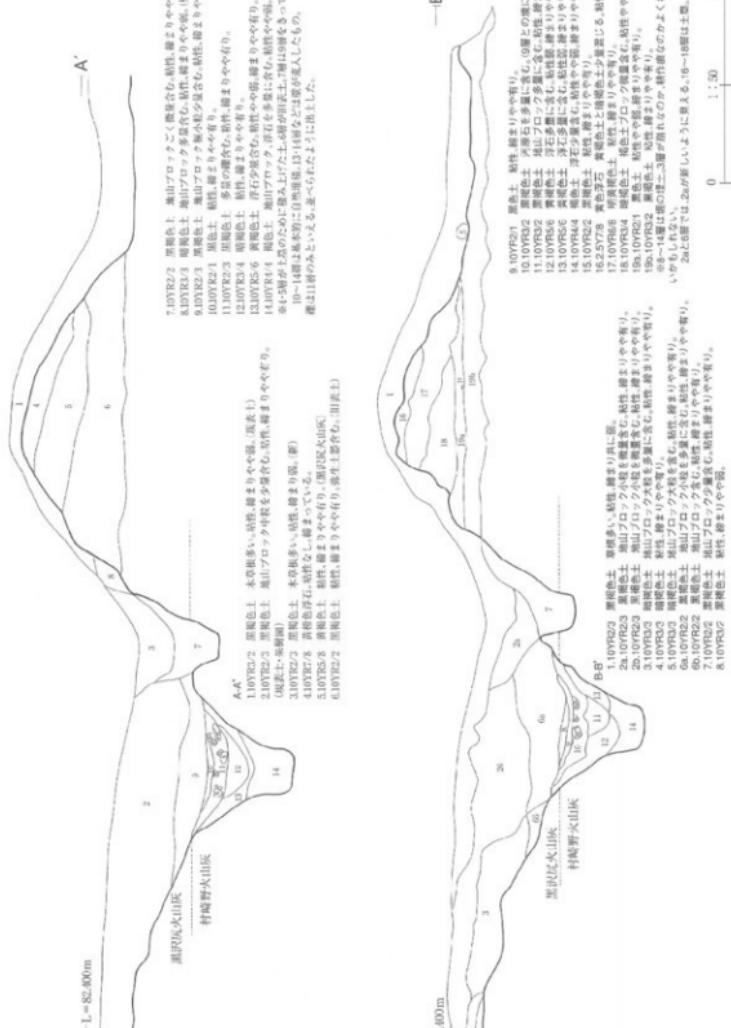
時期 中世後半16世紀代と考えられる。1号堀跡と同時期である。



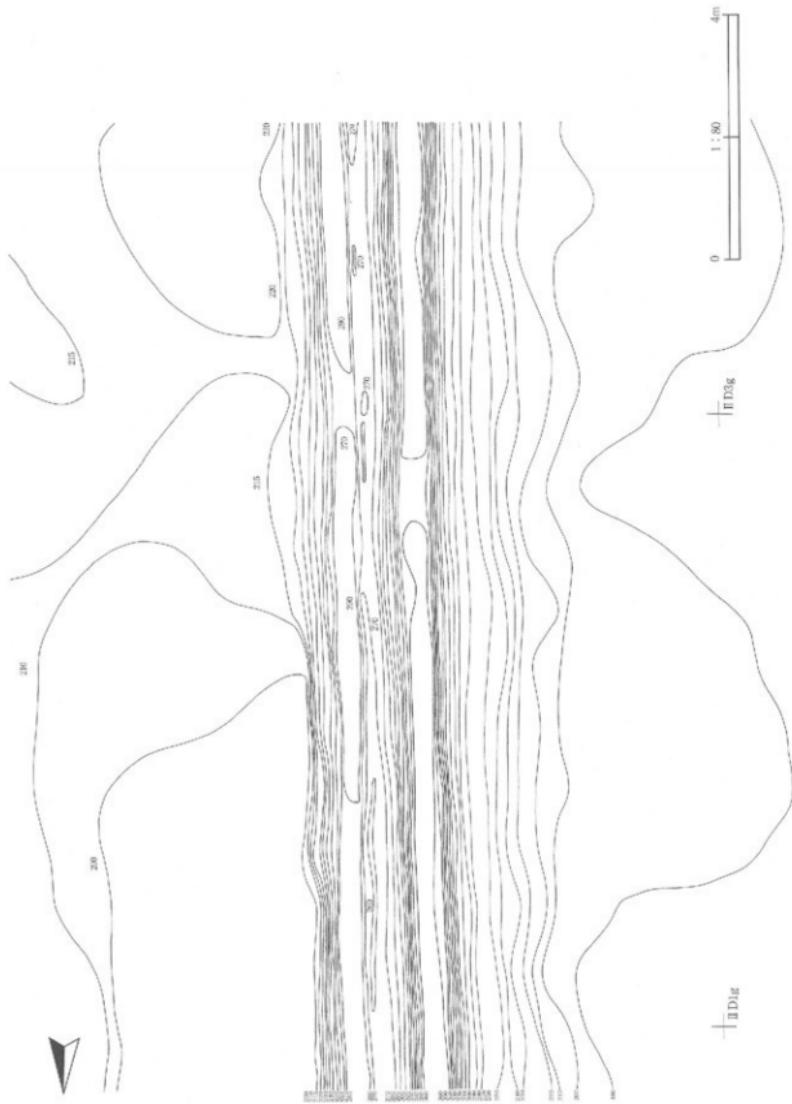
第11図 1号掘跡・1号土壁①



第12図 1号堀跡・1号土壙②



第13図 1号掘跡・1号土壌③



第14図 1号堤跡・1号土壠④

3 掘立柱建物跡

堀内部から9棟の掘立柱建物跡が検出されている。1号掘跡に近いところで4号掘立柱建物跡が、1号掘跡と遺跡東端の段丘崖との間に3・5号掘立柱建物跡があり、遺跡東端の北側に1・2・9号掘立柱建物跡、南側に6～8号掘立柱建物跡が分布している。軸方向は桁行きで計測し、1尺は30.3cmで計算している。図にはcm単位で計測値を記した。

1号掘立柱建物跡

遺構（第15図、写真図版10）

【位置】遺跡東端の北側（I B 2 i グリッド）に位置している。

【重複関係】2号掘立柱建物跡、10・12・13号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

【平面形式・規模】桁行4間、梁行3間の東西棟建物で内部にも柱を配置している。また南北2面に縁がつく。軸方向W-5°-N。東西方向へ建物は延びない。桁行は7.8～11.0尺とばらつきがある。35.5尺を4分割したのだろうか。梁行は7.0尺と6.5尺。縁は北側が1.6尺、南側が2.0尺である。総面積は約89m²である。

【柱穴】抜き取りの痕跡はない。直径50cm前後のものが主体で、縁部分の柱穴は40cm前後のもの多かった。深さも縁部分のほうが浅い傾向がある。底面の状況からみて径15～18cmの柱が据えられていたようである。

【建物の性格】主屋であろう。

遺物 なし。

時期 中世後半16世紀代と考えている。

2号掘立柱建物跡

遺構（第16図、写真図版10）

【位置】遺跡東端の北側（I B 2 i グリッド）に位置している。

【重複関係】1・9号掘立柱建物跡、10・12・13号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

【平面形式・規模】桁行4間、梁行3間の東西棟建物で東側と南側に縁がつく。軸方向W-4°-N。桁行きは8.2～9.2尺とばらつきがあるが、桁行き総長は40.5となりそうである。梁行は21尺を3分割しているのであろうか。南側縁は3.6尺、東側縁は6.3尺である。総面積50.4m²。

【柱穴】抜き取りの痕跡はない。直径は40cm前後のものが多い。径15～16cmの柱が据えられていたようである。

【建物の性格】主屋であろう。

遺物 なし。

時期 中世後半16世紀代と考えている。

3号掘立柱建物跡

遺構（第17図、写真図版11）

【位置】堀内部地区的中央（II C 4 f グリッド）に位置している。

【重複関係】19・20号土坑と重複するが新旧関係は不明である。

【平面形式・規模】桁行3間、梁行2間以上の東西棟建物で三面に縁が付く。軸方向W-3°-N。桁行きはばらつきがあるが総長30尺を分割しているのであろうか。縁の出は北が4.3尺、東西が4.1尺である。南側は調査区外へ延びている。

【柱穴】とくに抜き取られた痕跡はない。径15cm前後の柱が使われたようである。

【建物の性格】主屋であろう。

遺物 なし。

時期 中世後半16世紀代と見ている。

4号掘立柱建物跡

遺構（第17図、写真図版11）

【位置】堀内部地区の西側（II D 4 a グリッド）に位置している。

【平面形式・規模】桁行4間、梁行2間の東西棟建物に2面（北・南）縁が付く。軸方向W-14°-S。桁行は5.9~9.1尺ばらつきがあるが、総長では28.0尺となる。梁行は15.0尺である。縁の出は北側が2.5尺、南側が3.0尺であった。南西部が調査区外となるが面積は約51m²となろう。

【柱穴】とくに抜き取られた痕跡は認められなかった。底面の状況から径15cm前後の柱を主に使っていたと推測される。縁部分は更に細い柱も使われていたようである。

【建物の性格】主屋である。

遺物 なし。

時期 中世後半16世紀後半と思われる。

5号掘立柱建物跡

遺構（第16図、写真図版12）

【位置】堀内部地区的中央（II C 2 e グリッド）に位置している

【平面形式・規模】桁行3間以上、梁行1間の南北棟建物跡である。軸方向N-10°-E。桁行は7.2尺を基準にし、梁行は12.8尺である。

【柱穴】今回調査で検出された掘立柱建物跡の中では最も柱痕跡が明瞭に認められた。遺構検出面で計測したところ直径18cm前後の柱が使われていたといえる。

【建物の性格】付属屋を想定している。

遺物 なし。

時期 中世後半16世紀後半と思われる。

6号掘立柱建物跡

遺構（第16図、写真図版13）

【位置】遺跡東端の南側（II B 6 j グリッド）に位置している。

【重複関係】7号掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明である。

【平面形式・規模】桁行3間、梁行1間の東西棟建物跡である。南西側は調査区外に延びている。軸方向W-12°-N。桁行は9.6尺、7.4尺、7.2尺が使われている。梁行は17.2尺ある。2本の柱穴で構成されているが、2間あると考えた方がよいかかもしれない。

【柱穴】明瞭な抜き取り痕は認められなかった。底面の状況から径20cm前後の柱が使われていたと推察される。

〔建物の性格〕付属屋と思われる。

遺物 なし。

時期 中世後半16世紀後半と思われる。

7号掘立柱建物跡

遺構（第15図、写真図版13）

〔位置〕遺跡東端の南側（II B 5 j グリッド）に位置している。

〔重複関係〕6号掘立柱建物跡と重複しているが新旧関係は不明である。

〔平面形式・規模〕桁行3間、梁行1間の東西棟建物跡である。軸方向W-14° - N。桁行は7.8尺と9.2尺となり、梁行は16.5尺が使われている。梁行は2間と捉えるべきであろうか。

〔柱穴〕とくに抜き取られたような痕跡は見られなかった。底面の状況から16~18cmの柱が使われていたと推測される。

〔建物の性格〕付属屋と思われる。

遺物 なし。

時期 中世後半16世紀代と思われる。

8号掘立柱建物跡

遺構（第15図、写真図版13）

〔位置〕遺跡東端の南側（II B 6 i グリッド）に位置している。

〔平面形式・規模〕東側が段丘崖となっており遺構の残りは悪い。南北方向に2間検出されているが、東側は失われている。6.0尺と7.6尺が使われている。N-II° - E。

〔柱穴〕抜き取りはないと思っている。底面の状況から18cm前後の柱穴を使用していたと考えられる。

〔建物の性格〕付属屋と思われる。

遺物 なし。

時期 中世後半16世紀と思われる。

9号掘立柱建物跡

遺構（第17図）

〔位置〕遺跡東端の南側（II B 3 j グリッド）にて検出された。

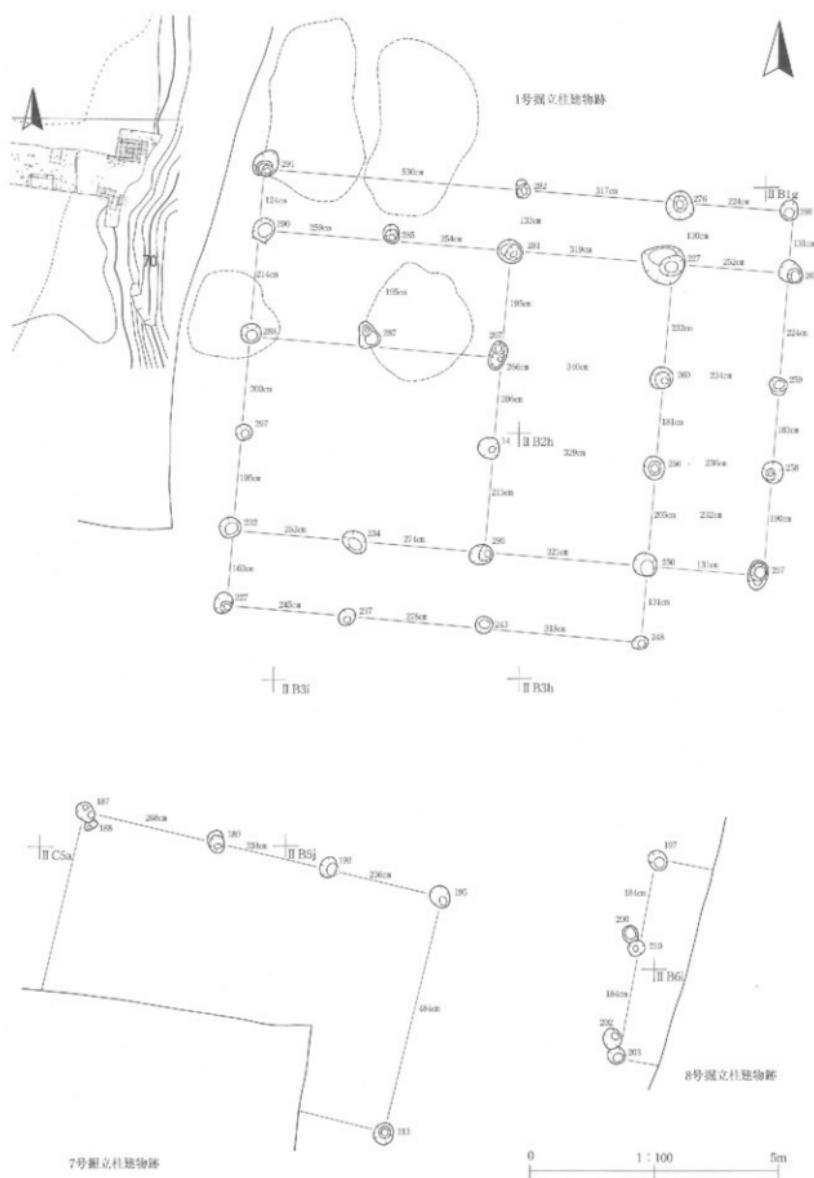
〔平面形式・規模〕南北2間、東西1間分検出されているが西側を中心にその多くは調査区外にある。軸方向はN-II° - Eである。7.0尺を基準寸法としているようだ。

〔柱穴〕抜き取りはないようである。

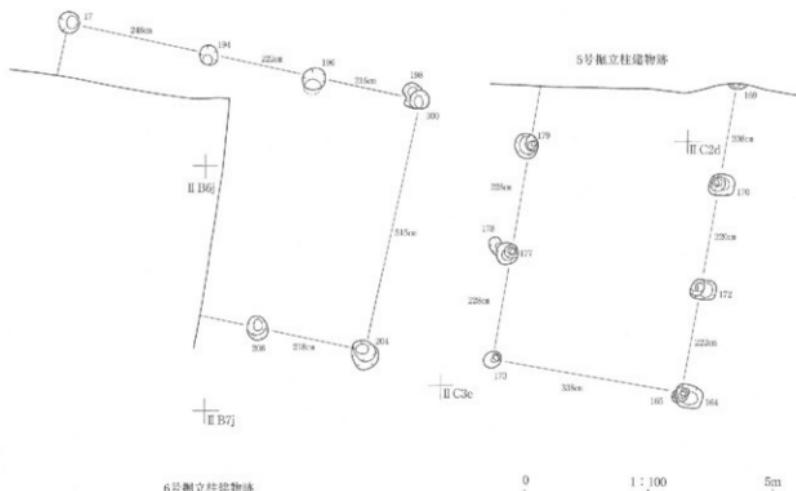
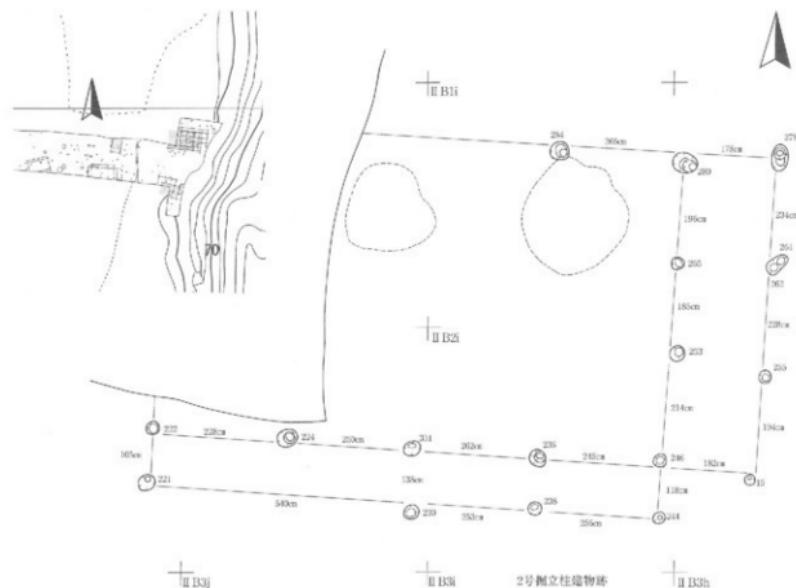
〔建物の性格〕付属屋であろう。

遺物 なし。

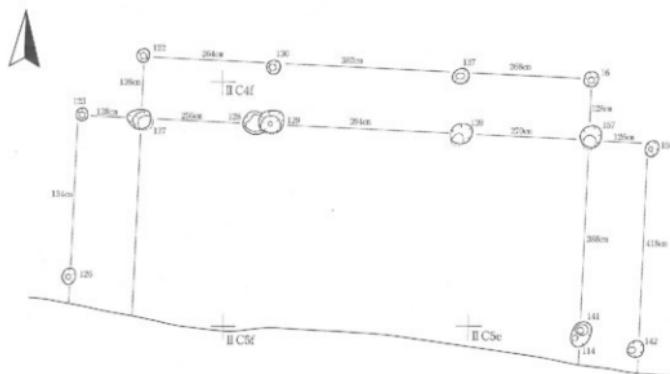
時期 中世後半（16世紀頃）と思われる。



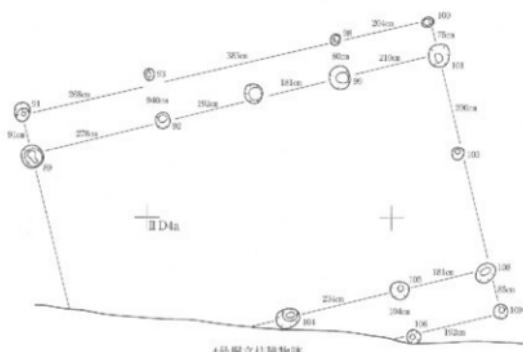
第15図 据立柱建物跡①



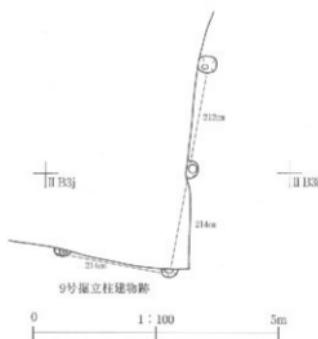
第16図 据立柱建物跡②



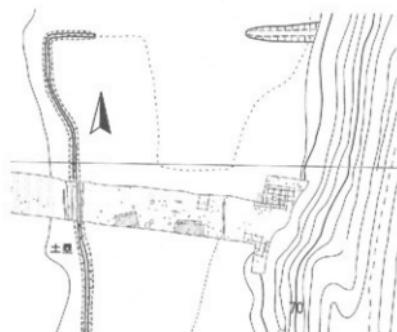
3号掘立柱建物跡



4号掘立柱建物跡



9号掘立柱建物跡



第17図 掘立柱建物跡③

4 方 形 周 溝

1号方形周溝

遺構（第18図、写真図版14・15）

【位置】調査区東側のII E 1h グリッド付近に位置する。

【平面形・規模】東側の外周壁が搅乱を受け破壊されているが、比較的きれいな隅丸方形を呈する。外径5.4m×5.3m、内径3.3m×3.6m、周溝の幅は上端0.8m～1.2m前後、下端0.35m～0.7m前後である。

【壁・床面・堆積状況】壁は途中に大きな変化はなく外傾して立ち上がる。遺構検出面から構築された床面までの深さは0.35m～0.5mを測る。底面には日立った凹凸はなくほぼ平坦であり、土を埋め戻して床面を構築した痕跡も見受けられない。基本的には黒褐色土と暗褐色土を主体とする自然堆積層であるが、8号土坑付近の堆積層には焼土粒が微量に含まれる。

【付属土坑】方形周溝内の南側に、焼土を作り土坑（8号土坑）が1基検出されている。この土坑を掘りこむようにして周溝がつくられていることから方形周溝跡よりも古い時代のものと思われる。土坑内の焼土も人為的に投げ込まれたようであり、方形周溝の外にも焼土が散っていることから、方形周溝が構築される以前に何らかの理由で焼土遺構が存在していたと捉えている。遺物も出土しておらず詳細は不明であるが、本遺構との関連性は低いと考えられる。

出土遺物（第26図、写真図版27）周溝の埋土中から、クロクロ成形による土器器坏の底部が1点

出土している（58）。内外面ともに黒色処理は施されておらず、底部調整は回転糸切り無調整である。

時期 周溝の形態と出土遺物から考えれば、9世紀後半～10世紀前半のものと推定される。

5 溝 跡

1号溝跡

遺構（第11・12図、写真図版6）

【位置】1号堀跡のすぐ西側（II D 3 g グリッド）に位置している。

【規模】ほぼ南北方向に8m程検出された。南側は調査区外へ続いている。北側へも延びていた可能性はあるが上面が耕作されており検出できなかった。

【堆積土】写真のみであるが、黒褐色土の単層である。

遺物 なし。時期 あまり根拠はないが、堀と同時期と考えて中世後半（16世紀頃）としておく

2号溝

遺構（第19図、写真図版15）

【位置】調査区の東側、堀内部のほぼ中央（II C 3 c グリッド）に位置している。

【規模】ほぼ南北方向に16m検出されている。南・北側はともに調査区外へ続いている。北側は現地形でも溝の窪みが観察できる。それによると北に約10mは延びていた。南側は現況では杉林の中を通る荒れた小道となっている。

【堆積土】地山ブロックを少量含む黒褐色土の単層である。

遺物 なし。

時期 周囲には中世と見られる建物跡しかなく、本遺構も中世後半（16世紀頃）であろう。

6 土 坑

検出された土坑の特徴については観察表にまとめた。土坑と陥し穴は遺構名を連続して付している。

第2表 土坑観察表

遺構名	位 置	平面形	長・幅	深さ	堆 積 上		時 期	備 考
					堆 積 上			
3号土坑	II E2g	不整形	109×95	56	暗褐色・黒褐色土を中心とした自然堆積。		不明	
4号土坑	I F10f	不整形	106×61	23	暗褐色土を中心とした自然堆積。		不明	
8号土坑	II E1h	不整形	140×100	58	暗褐色土・黒褐色土などに純土層が混じる。		方形周溝より古い	土坑好ではなく築上を後世の風倒木が壊したもの
9号土坑	欠番							
10号土坑	II B1i	長円形	79×55	10	黒褐色土の單層		中世か	
11号土坑	I B10e	円形	72×71	24	記録なし		中世か	
12号土坑	II B2e	不整形	174×174	68	明黄褐色土・黒褐色土・浮石粒などが交互に堆積。		新しいかもしれない	
13号土坑	II B1i	円形	134×107	60	黒褐色土と明黄褐色土との混土。		中世か	
14号土坑	II B1g	不整長円形	194×102	35	地山ブロックを不規則に含む黒褐色土及び褐色土。		中世か	
15号土坑	II C4g	不整形	118×85	19	黄褐色土に黒褐色土を多量に含む。		中世か	
16号土坑	II C4i	不整形	172×132	64	地山ブロックを多量に含む灰黃褐色土、黒褐色土ブロックを多量に含む黄褐色土。		中世か	
17号土坑	II C4i	円形	222×188	18	地山ブロックを大量に含む灰黃褐色土。		中世か	
21号土坑	II C2i			55	黒褐色土・明黄褐色土・黄褐色土などからなる。		中世か	
23号土坑	II C3i	円形	102×95	28	暗褐色土・黒褐色土を主とする。		自然の凹みか	

7 陥し穴

9基の陥し穴が検出された。分布は大きく2つに分かれ縄文時代の狩り場が大きくは2か所あったことが判った。

第3表 陥し穴観察表

遺構名	位置	長	幅	深さ	堆 積 上		備 考
					堆 積 上		
1号陥し穴	II H1 c	298	78	103	自然堆積、黒褐色土・湖色土・黄褐色土などが交互に堆積。		
2号陥し穴	I H10 j	233	64	101	自然堆積、黒褐色土・暗褐色土などが流れ込む。		
5号陥し穴	II H2 j	190	31	62	自然堆積、黒褐色土・明黄褐色土・黄褐色土などのが堆積。		5~7号陥し穴は並んでいる
6号陥し穴	II H2 j	193	52	82	自然堆積、黒褐色土・黄褐色土・褐色土などのが堆積。		5~7号陥し穴は並んでいる
7号陥し穴	II H2 j	193	36	69	自然堆積、暗褐色土・明黄褐色土などが流れ込む。		5~7号陥し穴は並んでいる
18号陥し穴	II C3 g	320	53	105	自然堆積、暗褐色土・にぶい黄褐色土・黒褐色土などが交互に堆積。		18~20・22号陥し穴は並んでいる
19号陥し穴	II C4 f	260	46	94	自然堆積、暗褐色土・にぶい黄褐色土・黑色土などが交互に堆積。		18~20・22号陥し穴は並んでいる
20号陥し穴	II C3 f	220	53	109	自然堆積、黒褐色土・灰黃褐色土・暗褐色土などが交互に堆積。		18~20・22号陥し穴は並んでいる
22号陥し穴	II C1 f	284	47	100	自然堆積、黒褐色土・明黄褐色土・褐色土などが交々に堆積。		18~20・22号陥し穴は並んでいる

調査区の西側から5基、東側から4基で調査区の中央付近には見られなかった。各陥し穴の配置や角度からは3つに分かれそうである。西側調査区の1・2号上坑は角度が似ている。同じく西側調査区の5～7号陥し穴は同規模・同角度でやや小形の陥し穴がかなり近くに並んで造られていた。この3基はセットで機能していたのであろう。調査区の東側にある18～20・22号土坑も南北方向に並んで配置されている。個々の遺構の特徴に付いては観察表に整理した。

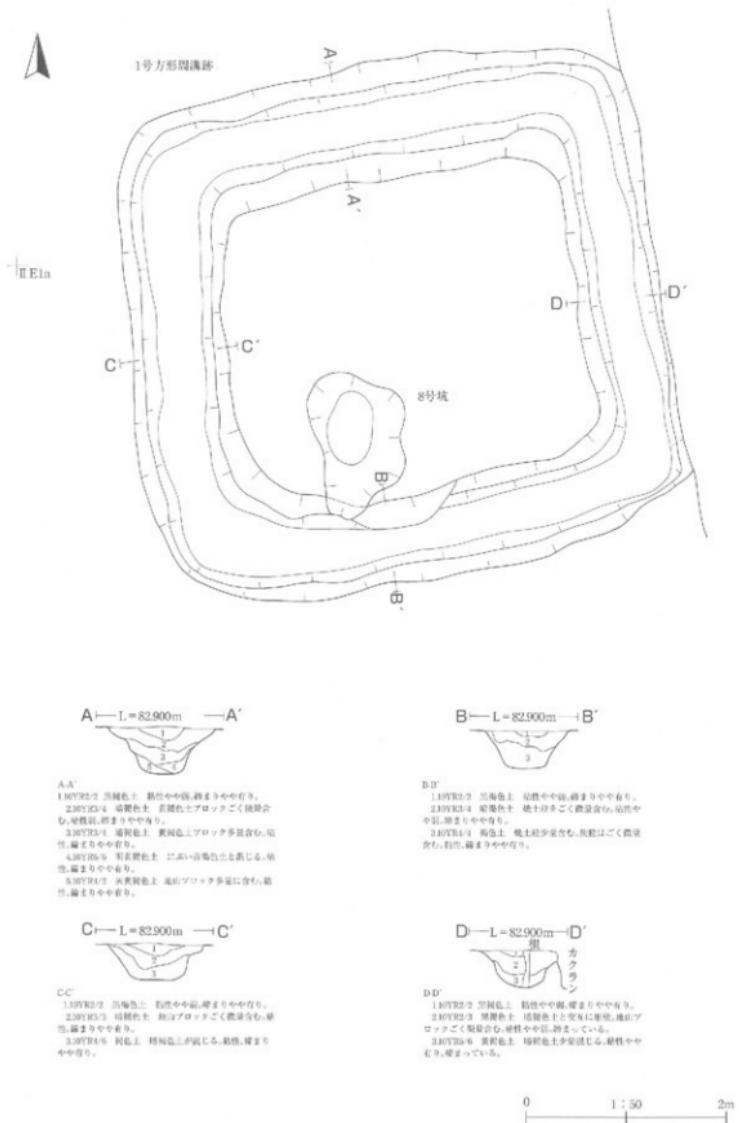
8 そ の 他

調査区の東端と西端部についてここで記しておく。東端部は段丘崖で中世の居館跡だった際に斜面も切り岸や通路などとして利用されているのではないかと考えられていた。実際調査を進めたところ、段丘崖は現在に至るまでに相当崩落が進んでいることが分かった。崩落により中世の標立柱建物跡もかなり失われていることが明らかになっている。調査の及んでいない段丘崖北部・南部についても人為的な痕跡は観察されず、崩落している可能性が高い。段丘崖の斜面は垂直に近い急傾斜なので現地形をそのまま利用していたとも考えられる。崖下部分について、崖下部には旧飯豊川が細長い沼となってある。崖と沼との間を試掘したが遺物はなかった。平坦地ではなく、どこほこした地形となっていたようである。

調査区の西端よりも少し西側には奥州街道が通っていた。当地区では成田一里塚と二子一里塚が現在も残っており、ここはその中間地点にある。具体的な位置は現況からでは把握できず、今回の調査でその一部が検出されても不思議ではなかった。しかし實際には検出されなかった。調査区西端一帯は果樹植えによる擾乱が広がっていたのである。調査区西端より更に西側は現況では雑木林となっている。この部分に奥州街道が位置しているならば、次回の調査で明らかにできるだろう。

13.07.11 (15歳誕生日)
13.07.12 (15歳誕生日)
13.07.13 (15歳誕生日)
13.07.14 (15歳誕生日)
13.07.15 (15歳誕生日)
13.07.16 (15歳誕生日)
13.07.17 (15歳誕生日)
13.07.18 (15歳誕生日)
13.07.19 (15歳誕生日)
13.07.20 (15歳誕生日)
13.07.21 (15歳誕生日)
13.07.22 (15歳誕生日)
13.07.23 (15歳誕生日)
13.07.24 (15歳誕生日)
13.07.25 (15歳誕生日)
13.07.26 (15歳誕生日)
13.07.27 (15歳誕生日)
13.07.28 (15歳誕生日)
13.07.29 (15歳誕生日)
13.07.30 (15歳誕生日)
13.07.31 (15歳誕生日)

10月1日(木) 朝	10月2日(金) 朝
10月1日(木) 夕	10月2日(金) 夕
10月2日(金) 朝	10月3日(土) 朝
10月2日(金) 夕	10月3日(土) 夕
10月3日(土) 朝	10月4日(日) 朝
10月3日(土) 夕	10月4日(日) 夕



第18図 方形周溝跡



II C5f

2号溝(南側)

A-A'
 $A-L=81.500m$ -A'

1.10YR2/3 黒褐色土、黄褐色土粒子少含む。

II C4f

2号溝(北側)

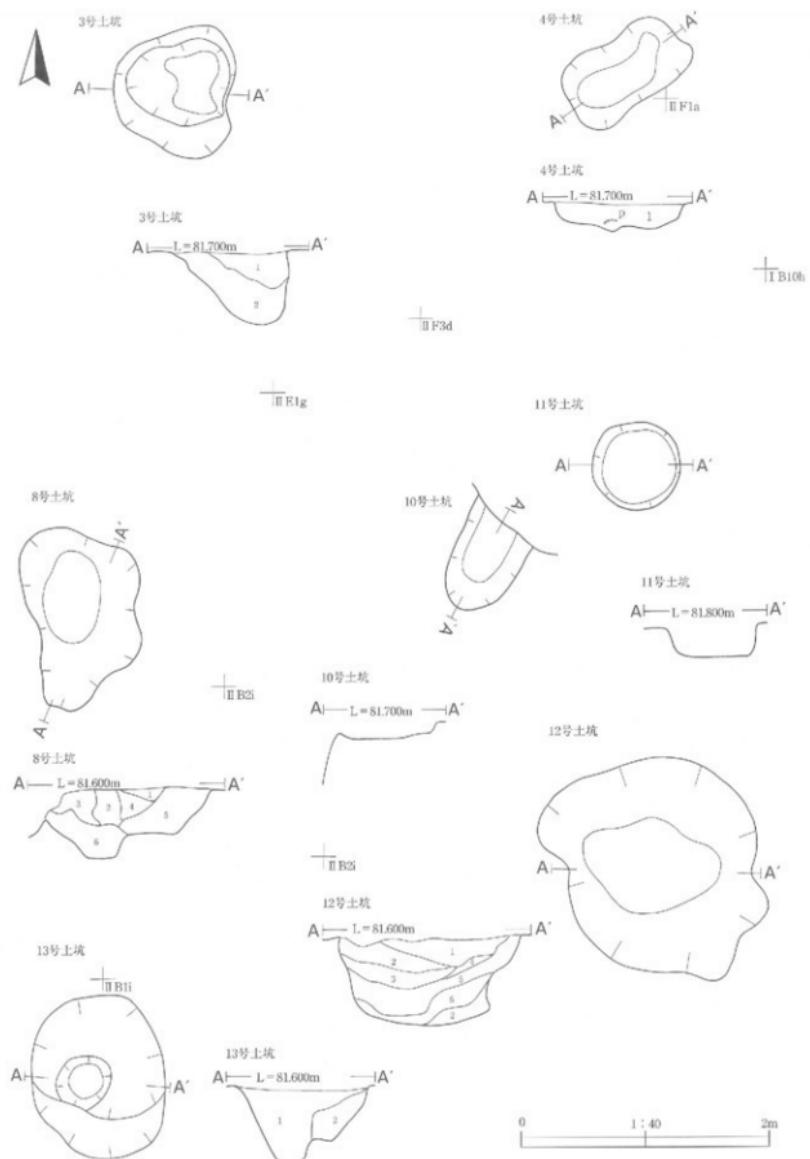
B-B'
 $B-L=81.600m$ -B'

1.10YR2/3 黑褐色土、黄褐色土粒子少量含む。熱性、
根2号溝にやや見り。

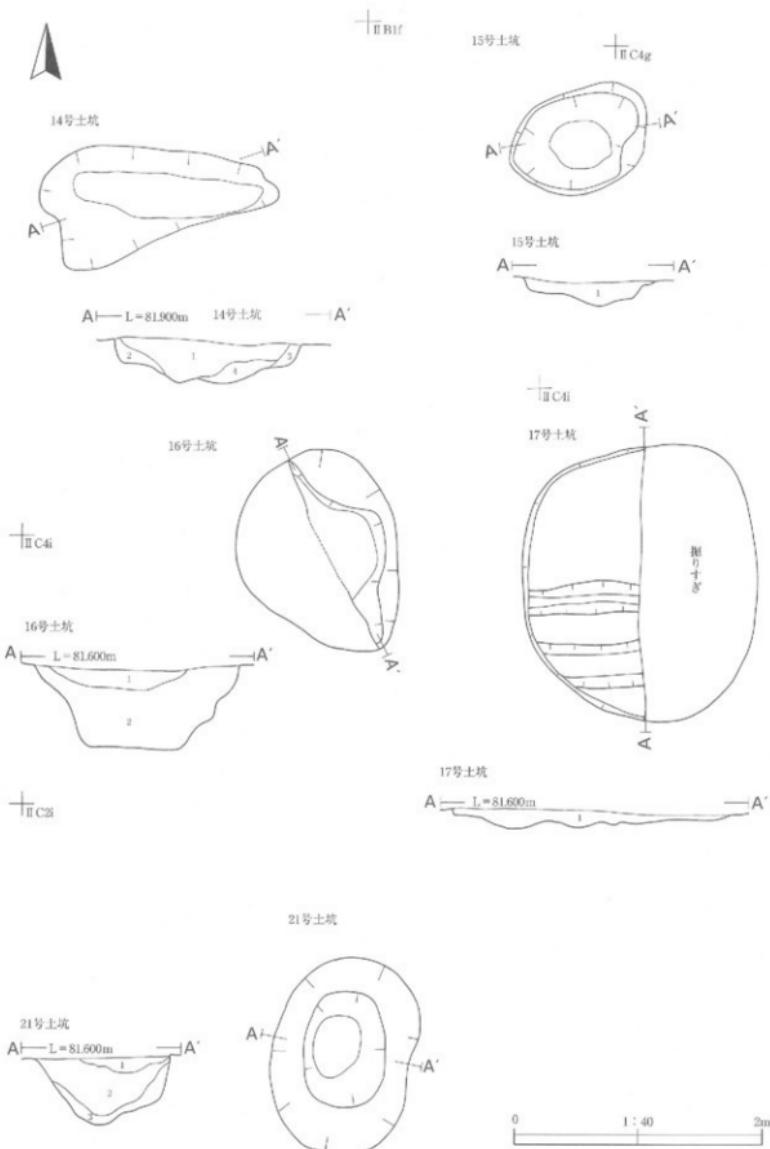
II C5f

0 1:100 5m

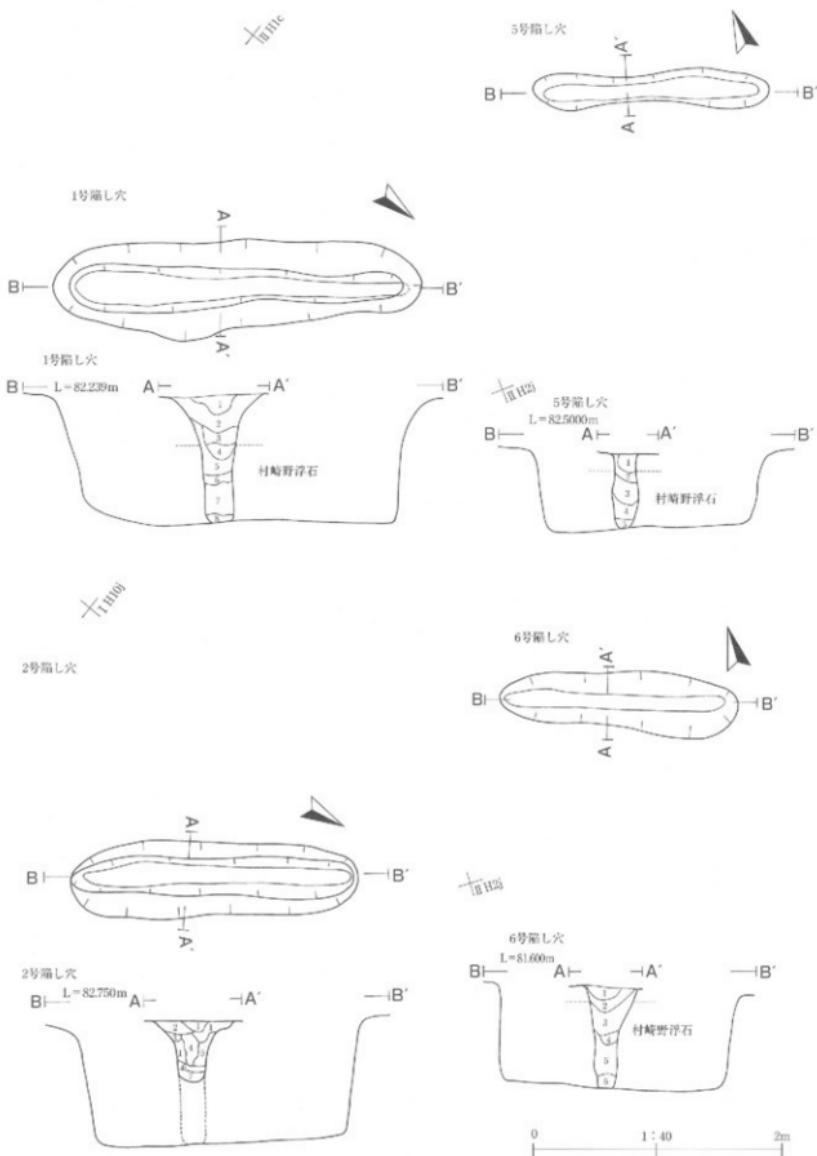
第19図 溝跡



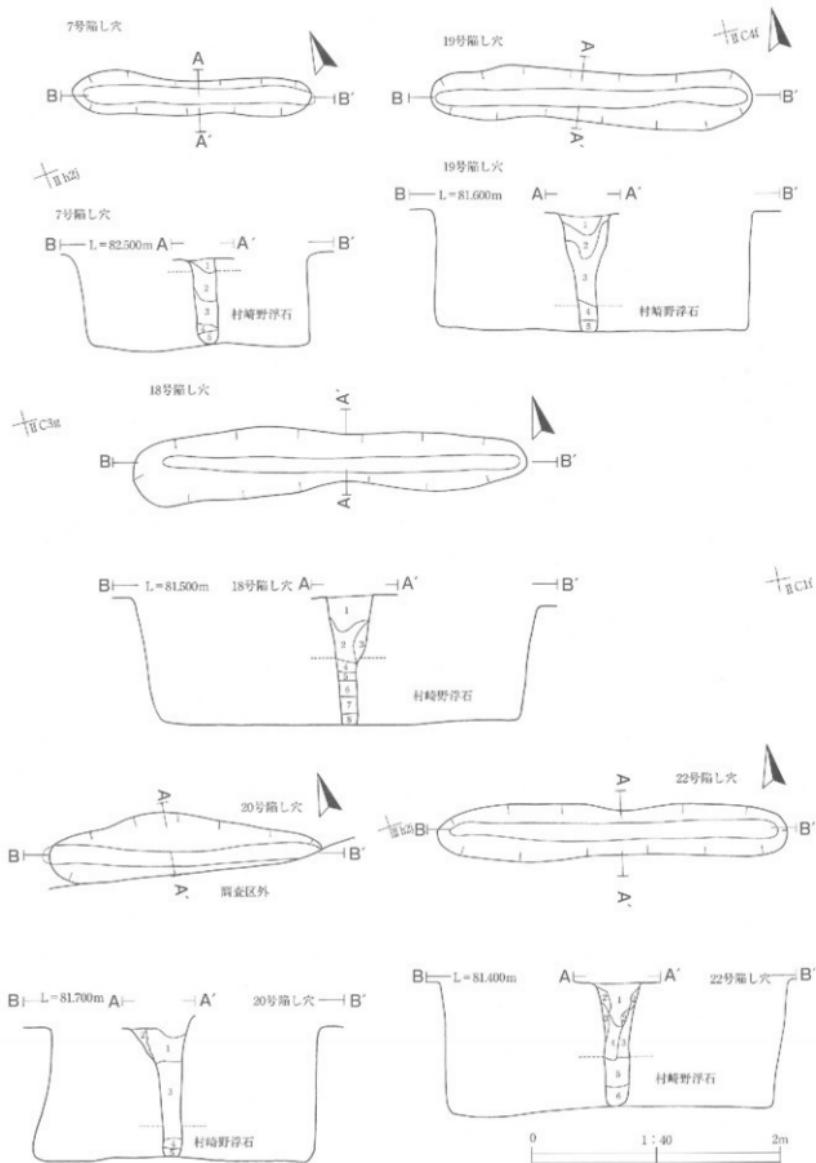
第20図 土坑①



第21図 土坑(2)



第22図 賽し穴①



第23図 陥し穴②

9 出土遺物

(1) 縄文土器・弥生土器・土製品（第24・25図、写真図版25～27）

大コンテナ（30×40×30 p）で3箱出土した、その大半は弥生土器であった。縄文土器は10数点である。弥生土器は調査区の中央から東側にかけてよく出土した。しかし遺構に伴って出土したものはない。今回の調査では弥生時代と確実に位置付けられる遺構は検出されていない。中世の1号土塁下部や1号土塁より東側では旧表土が残っており、弥生土器もここからまとまった量出土した。この周囲からは住居跡などが検出される可能性が高いと思われる。縄文土器は出土状況にとくに傾向はなかった。数も少ないので観察表でその特徴をまとめた。

弥生土器の時期は弥生時代初頭から前期後半頃が中心のようである。壺・深鉢・鉢・高杯・壺・蓋などからなる。遺構外出遺物ということもあり、各器種の組成を検討するには適さない。文様の特徴から大別し、その他は器種別に整理して掲載した。

はじめに不掲載遺物を含めた各器種全体の状況について述べておく。壺は全体の約半数はあると思う。体部片は多いのだが口縁はあまり抽出できなかつた。口縁－体部片はさらに少なかつた。深鉢・鉢は破片だと高杯などと区別が難しいところはあるが一定量あるようだ。整理作業では一括して扱い細分できたものについては分けて記載した。高杯は台部分が9個体分あった。上半部は鉢類と区別がつきにくい。台部だけでも10個体以上は出土している感じがあり、他の器種と比べても一定量出土している。決して少なくはないと思われる。壺は口縁－胴部片が7個体分確認できた。あまり多い器種ではないようだ。粗製蓋については把握できた数が少なかったためには全点掲載した。装飾蓋は見つけられなかつた。もともと数が少ない器種なのであろう。

1～12は変形工字文並びに曲線化した変形工字文を施すものである。1・2・4などは口縁部に貼り状の装飾を施す鉢類である。文様を1では彫塑で、2・4では沈線で描いている。3～12は沈線で変形工字文を施してあり、3・6などは器面を鏡磨きで仕上げている。11は小形の鉢となり、今回の調査ではほかに出土しなかつた。

13～18は曲線化した変形工字文からさらに多様な文様へと発達したものである。13・14などは磨消縄文手法で文様を描いている。16・17も同様で変形山形文が施される。

19～26は高杯の台部である。平行沈線による装飾が発達するもの（19～24）。文様がなく縄文のみ施文されたもの（25・26）がある。24などは蓋にするべきであろうか。

蓋は3点掲載した（27～29）。文様を持つものではなく、縄文のみ施文されたものと無文のものがある。

30～32は同一個体の可能性が高い鉢である。文様は曲線化した変形工字文ではなく、平行沈線文と鋸歯状文による磨消縄文である。33～36も磨消縄文手法であるが、沈線に平行して刺突も連続して施されている。文様は30～32に似るようだ。37・38は平行沈線文のみ見られるもので、37には朱が塗られていたようである。39は地文が燃系文となり弥生土器ではないかもしれない。

42・43は壺類である。殆ど復元できなかつたので全容は不明なものばかりである。口縁部・頸部に細い沈線を施すものが多かつた。

44～49は壺である。口縁部が無文で平縁、体部に縄文を施すだけのものが主体であるが、45では口縁が波状となり、頸部に沈線が横走する。

50・52は縄文時代中期の土器である。

53は土製品で土器底部片を円形に削り、中心に孔をもつ。

(2) 土師器・須恵器 (第26図、写真図版27)

調査区の中央から東側にかけてごく少量だが出土しているため平安時代の集落がこの近くに想定される。

54は須恵系土器坏の底部である。1号方形周溝跡の埋土から出土した。55~57は須恵器壺類である。55は大甕、57は壺類の底部である。154・155は器種に自信がない。壺類としているが、鉢のようなものかもしれない。内外口クロナデである。

(3) 鉄 製 品 (第26図、写真図版27)

59は杯状の形で高台部分を欠損している。朱を塗られている可能性があるが。その大半は錫に覆われている。60は用途不明である。現代のものかもしれない。

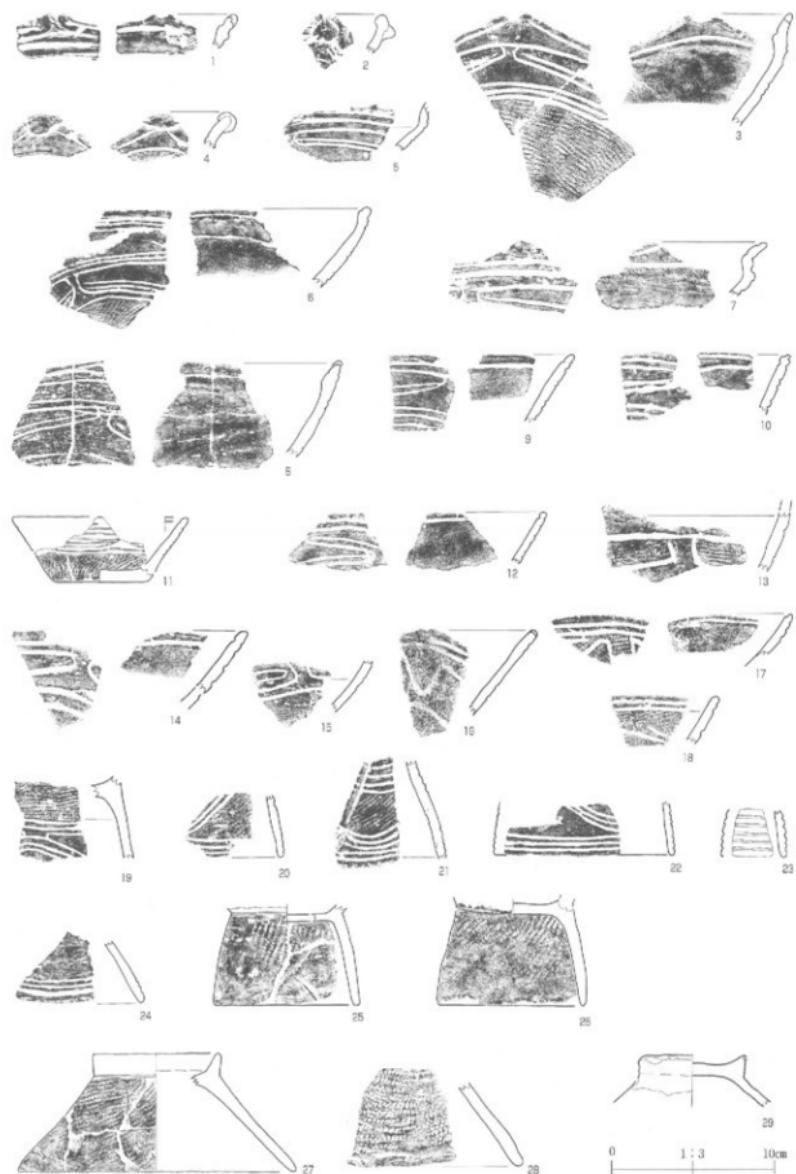
(4) 石 器・石 製 品 (第27~35図、写真図版28~35)

大コンテナ (30×40×30cm) 4箱分の石器類が出土している。石製品は4点であった。出土位置は概ね土器と同じといえる。調査区の中央から東側にかけてである。ここには中世の堀跡 (1号堀跡) が造られており、堀埋土中位には石を敷き詰めた部分があった。石器類の多くはこの石敷き施設に転用されていたのである。弥生時代の遺構もなく元位置を留めた状態で出土したものはない。

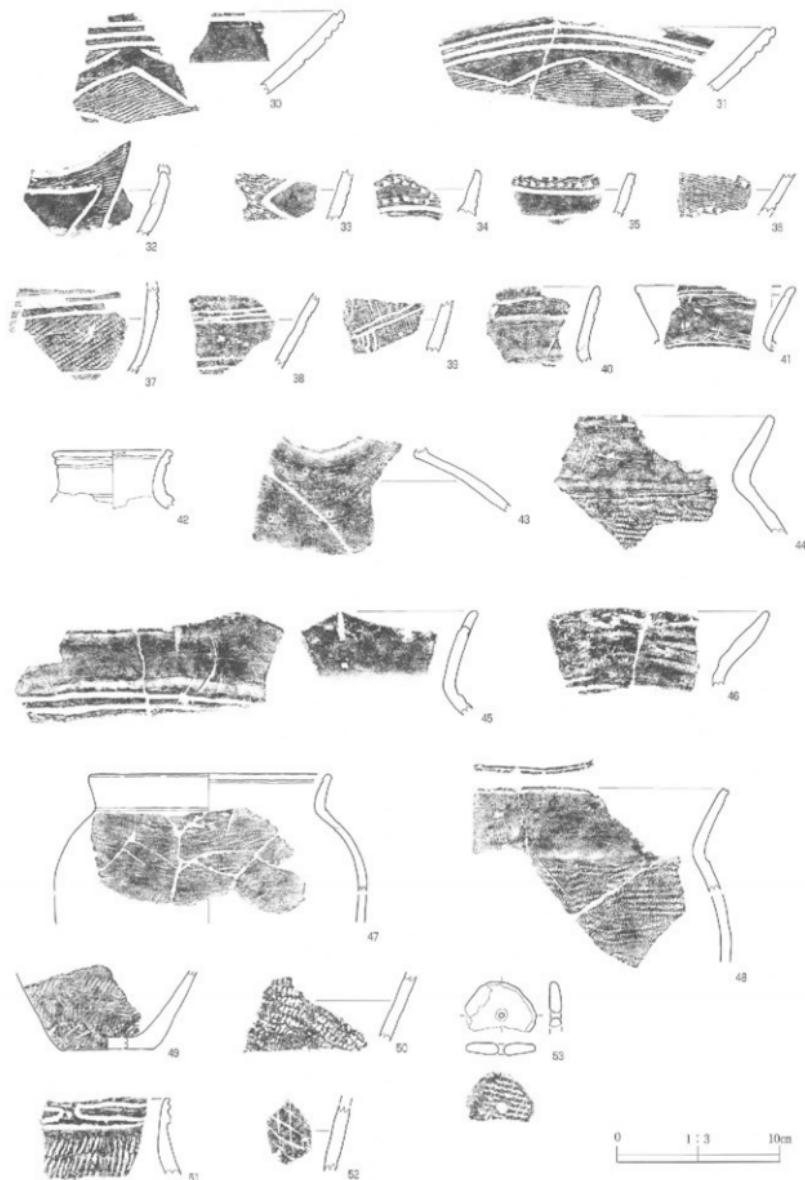
個々の石器・石製品については観察表でまとめてこととし、ここでは各石器・石製品について細分し代表的なものを抽出したほか、この時期の石器類として特徴的と感じられたものについて可能な限り掲載した。石器類は北上市金附遺跡の例を参考にしつつ以下のように分類した。

石器・石製品分類表

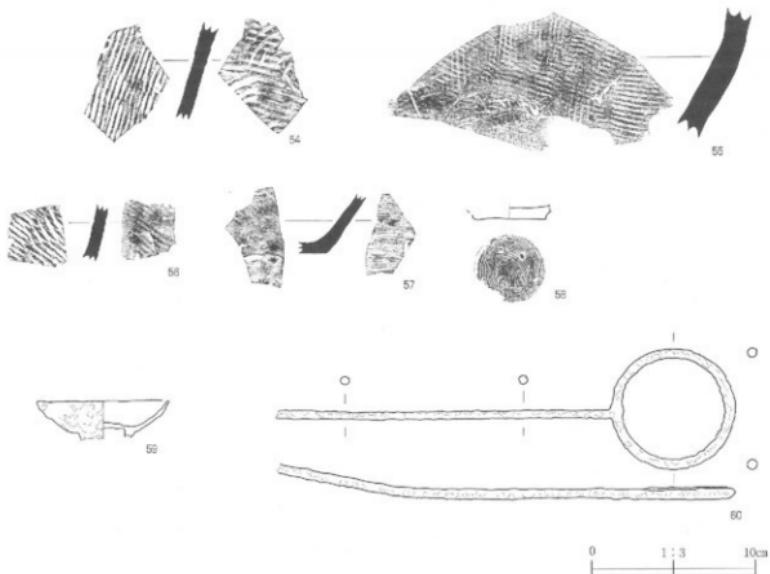
A 測 片 石 器	I. 石 築	a. 完成品 b. 未製品	1. 凹基本 2. 凸基本	3. 不明ほか	
	II. 石 築	出土しなかった	1. 四基本	2. 凹基本	3. 不明ほか
III. 石 鋏	a. 横長 b. 縦長				
IV. 石 斧	調片石器の石材	1. 扇部 頭 2. 一部ない部分有り		3. 中まで調離が及ぶもの	
V. 穂・削 器・不定形 石器	a. 一般的な擦・削器 b. 押打剥離系列の石器を製作する過程でできる剥片に使用してできた痕跡があるもの c. 押打剥離系列の石器を製作する過程でできる剥片に簡単な加工を施しているもの d. ピエス・エスキーピー e. 磨石斧や磨石器によく使われる石材を用いているもの				
VI. 磨 石	a. 一般的な敲石 b. 多面体石器	1. 片手で持てる 2. 片状で縁辺に 3. 敲打裏	2. 長く棒状	4. 手に持てる程 度の小さなもの	5. その他
VII. 磨 石	a. 棒状の一般的な砥石 b. それ以外のもの	1. 手にすっぽりと収まるもの	2. 片手で握れるもの		3. 大型
B 磨 石 器	VIII. 磨 石	a. 片手で持てる一般的なもの b. その他の	1. 細長いもの 2. 手に収まる小石状	3. その他	
X. 石 砥	I. 細長20cm以下 出土しなかった。		2. 30~30cm	3. 30cm以上	
XI. 石 砥					
XII. 磨 磨	出土しなかった。				
石斧					
XIII. 打製石斧?	削分しなかった。				
XIV. その他					
C 測 片	XV. 調片・残核 XVI. 調片・残核	a. 押打剥離系列の石器製作時に出る剥片 b. 剥打剥離系列の石器に使用されるような石材の残核 a. 硬石器、石製品系列の作成時に出る剥片 b. 硬石器、石製品製作に使用されるような石材の残核	1. 剥離段階 2. 敲打段階	3. 研磨段階	
D 石 製 品	XVII. 石棒	XXI. 石製円盤	XXII. その他		



第24図 弥生土器①

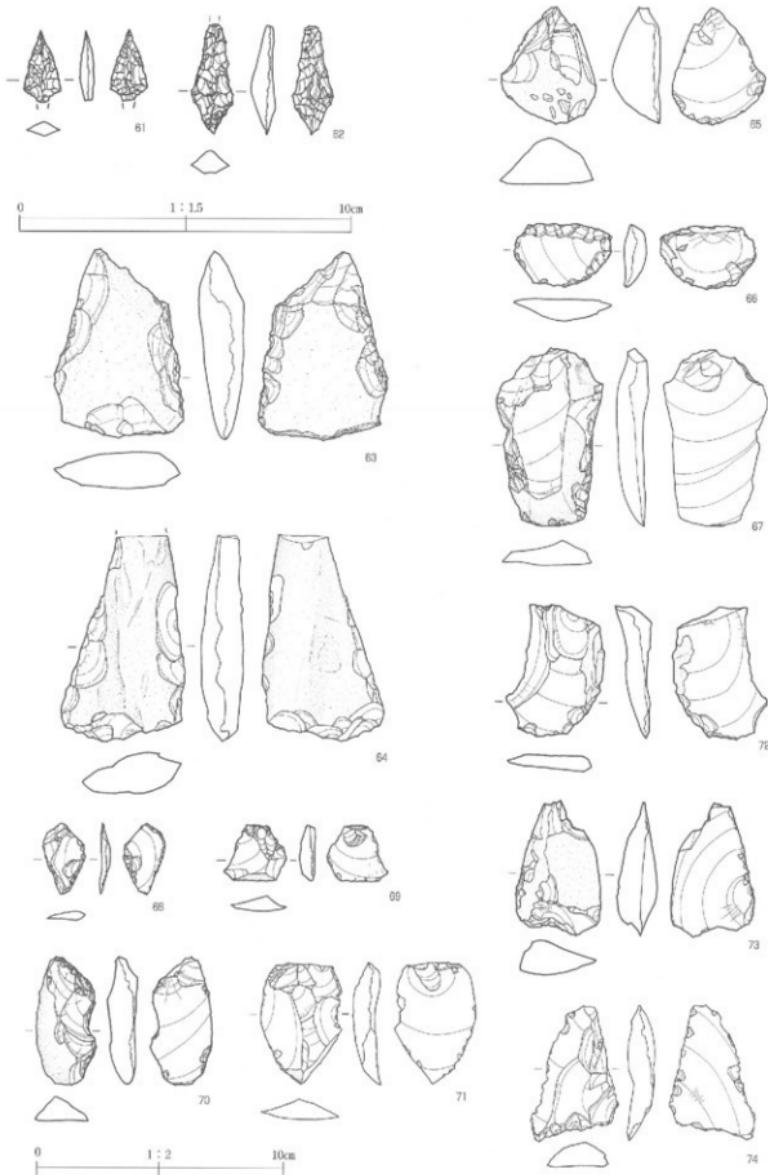


第25図 弥生土器②ほか

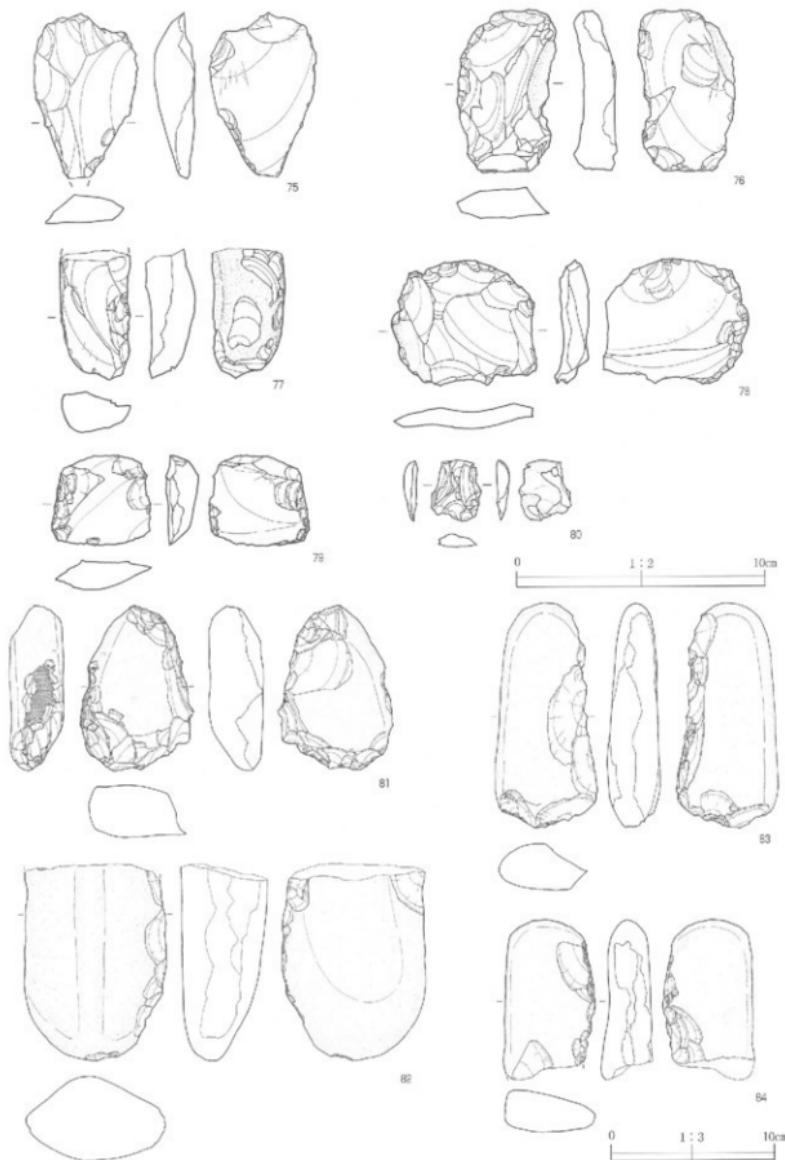


第26図 土師器・須恵器・鉄製品

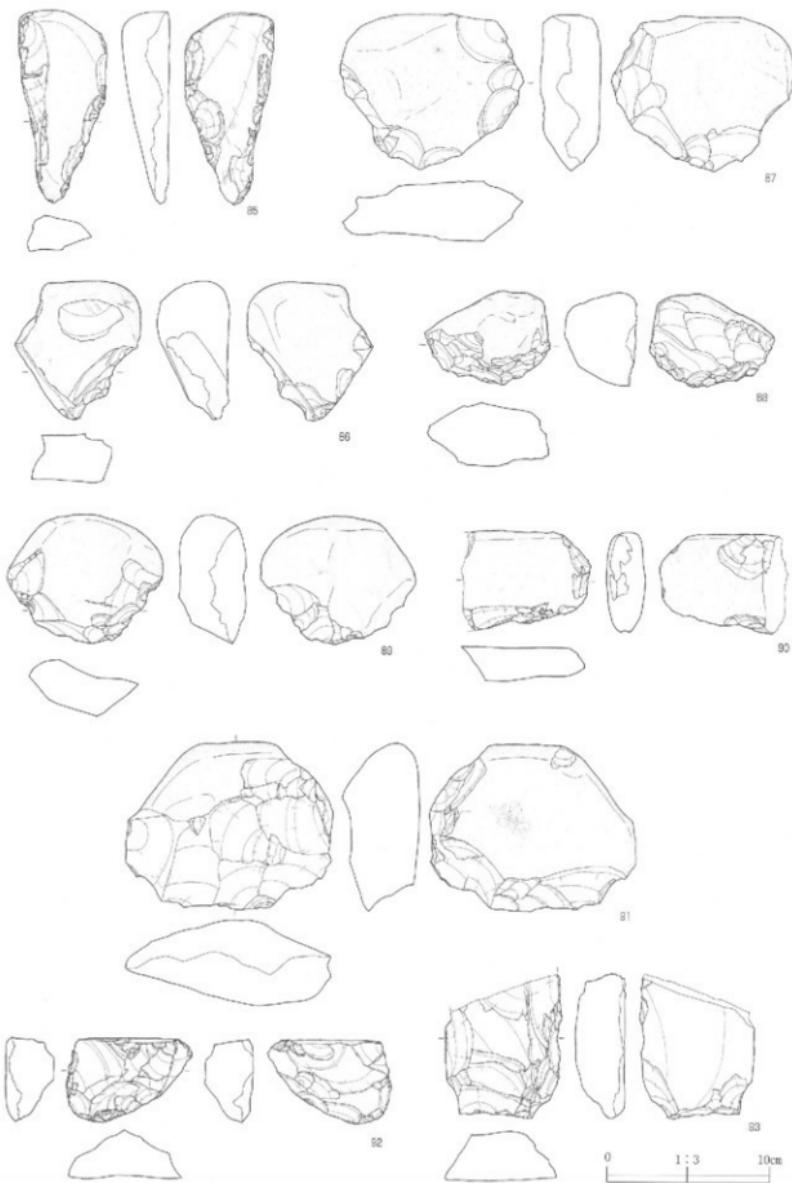
内訳は石鏃2点、石匙3点、搔削器約5点、不定形石器75点、楔形石器？1点、敲石14点、磨石1点、凹石8点、台石2点、磨製石斧（未製品含む）23点、打製石斧？8点、剥片石器関係の剥片や残核86点、礫石器関係の剥片や残核42点、石棒1点、石製円盤2点となる。今回の調査では剥片石器を作成した際に出るはずの剥片が予想以上に少なかった。とくに細剥片は殆ど見られない。加工が行われていたことはまず間違いないと考えているが、住居跡などは調査区外に想定されること、遺物が元位置を留めていないことにも起因しているのかもしれない。石皿・磨石が殆ど見られなかつたことも同ことがいえよう。石匙や石鎹といった石器は僅かしかなく、不定形な搔・削器類が多かつたこと、磨製石斧の未製品が多いことも特徴としてあげられる。これについては時期的なものを反映していると推測される。石器類の組成と特徴についてはV章で後述する。



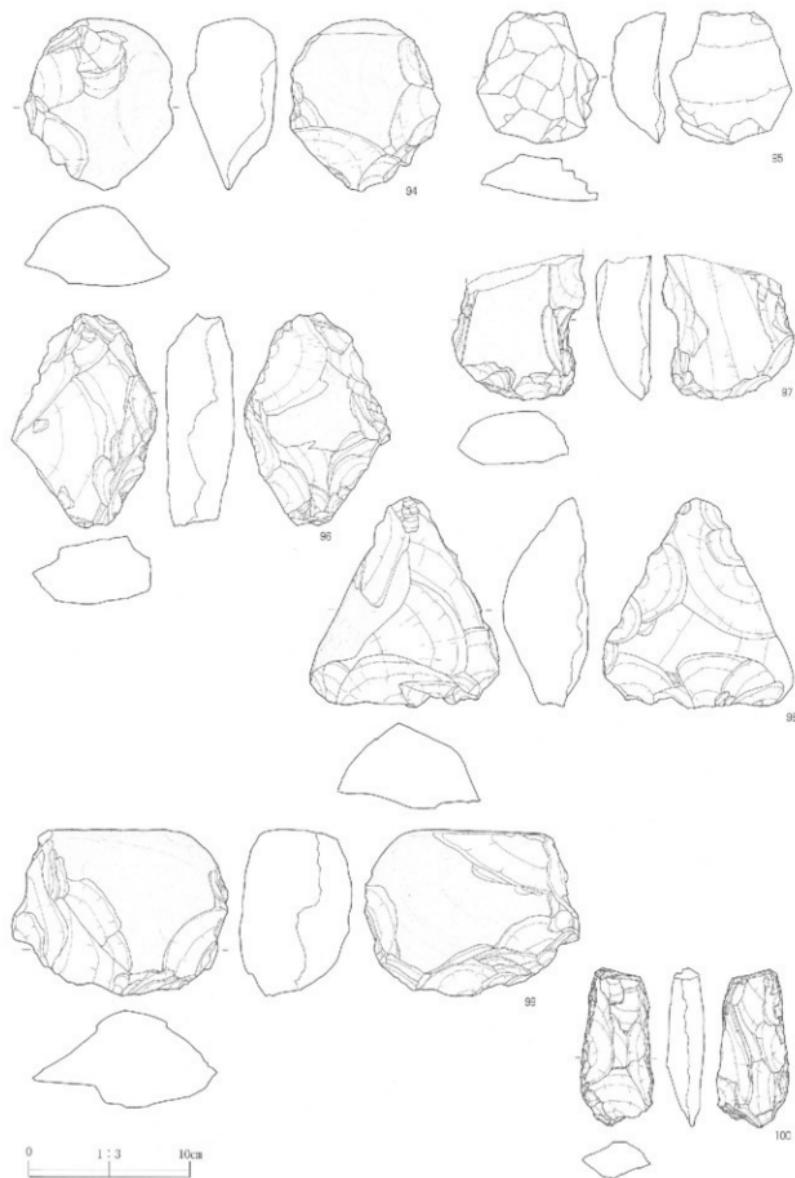
第27図 石器①



第28図 石器(2)



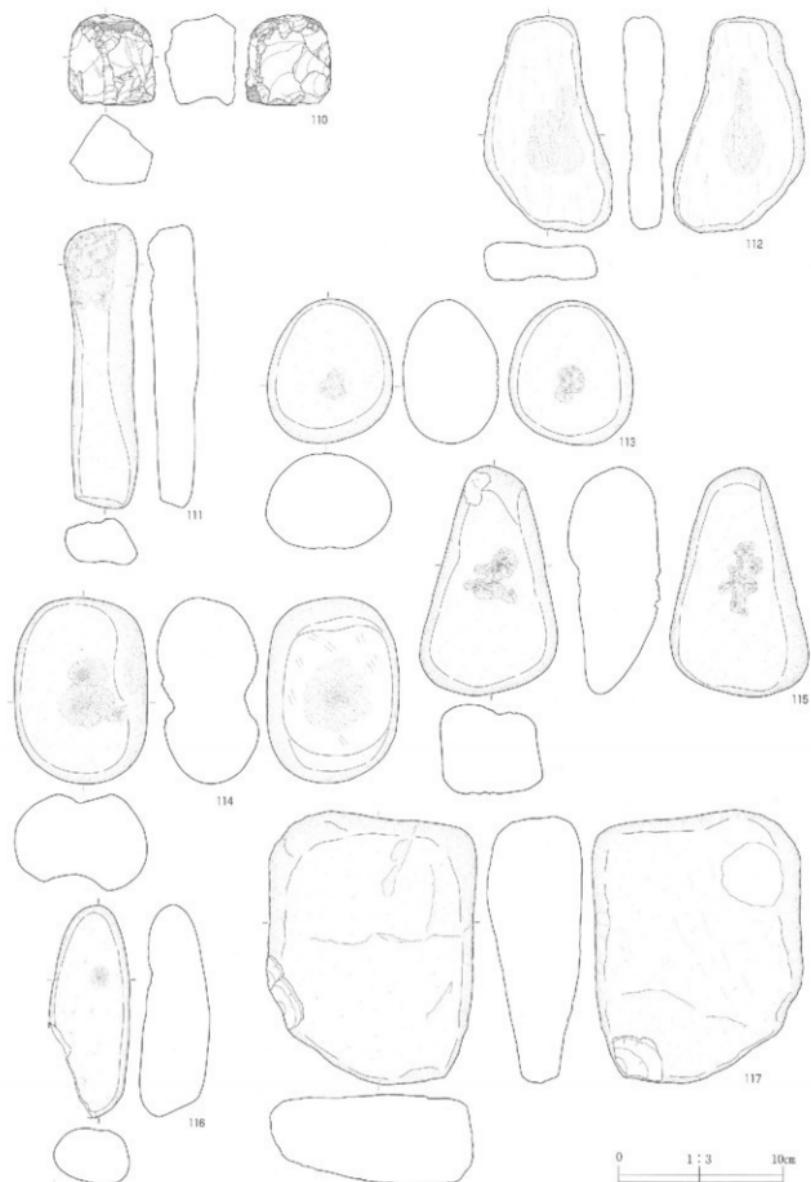
第29図 石器③



第30図 石器④



第31図 石器⑤



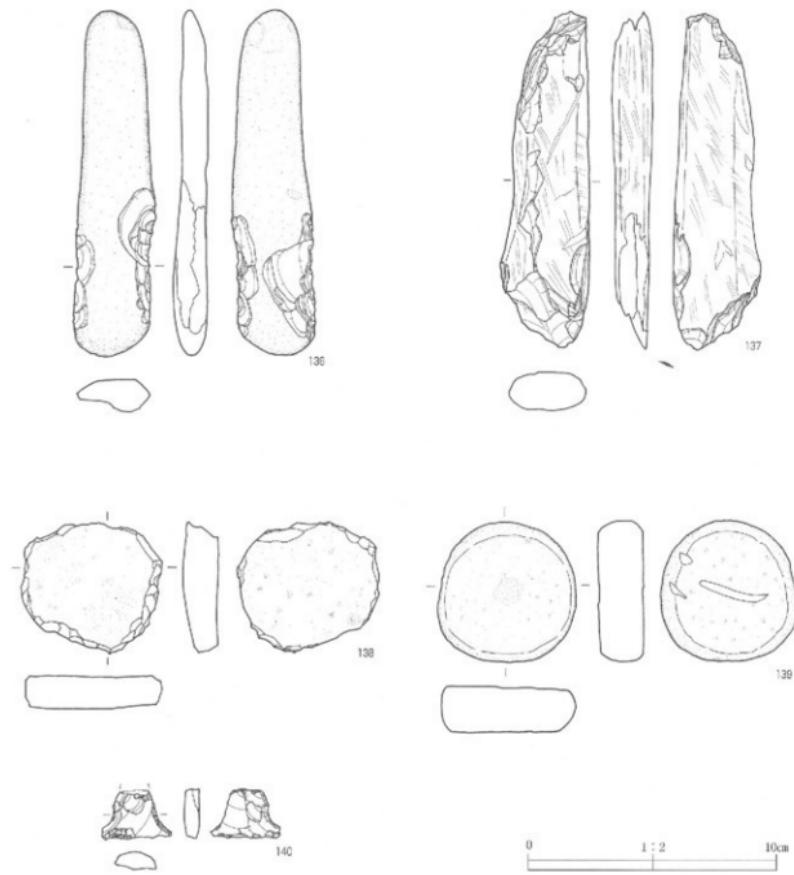
第32図 石器⑥



第33図 石器⑦



第34図 石器①



第35図 石器③

第4表 土器観察表

番号	仮番	器種	部位	出土地点	文様の特徴及び有効値(cm)	その他
1	48	高环か	口縁	遺構外	次起、文様は浮印状。	
2	14	高环か	口縁	II G 1	貼織、沈織、小石多、繩文土器か。	
3	17	高环	口一側	P 12	突起、変形工字文、R.L.、ミガキ。	
4	52	高环か	突起	試掘中、I層	貼織突起、沈織、ミガキ。	
5	39	高环か	側部	II D 3 a、I層	変形工字文、ミガキ。	
6	21	高环か	口一側	II D 2 g、I層	3本上凹位の変形工字文、L.R.、ミガキ。	
7	15	高环	口縁	4号土坑	変形工字文。	
8	26	高环か	口一崩	II D 2 g、I層	変形工字文、摩耗。	
9	30	高环か	口縁	II B 1 a-1 分土窓の間、I層	変形工字文、ミガキ。	
10	44	浅鉢か	口縁	D.c.、I層	変形工字文、繩維多。	
11	8	浅鉢	口一底	II D 2 f、I層	変形工字文、L.R.	
12	34	浅鉢か	口縁	II D 2 c、I層	変形工字文、繩維多。	
13	31	浅鉢か	側部	1号土窓下の旧表土	貼織繩文、L.R.	外面に保。
14	32	浅鉢か	口縁	I E a、I層	磨消繩文、R.L.	
15	43	浅鉢か	体部	東側廻遊帯の北側、I層	沈織文、下方に繩文を施している。	
16	41	浅鉢か	口縁	東側廻遊帯、試掘中	小突起、沈織文、摩耗。	
17	38	浅鉢か	口縁	1号地壠、土上土層	磨消繩文、L.R.	
18	46	浅鉢か	口縁	試掘中、I層	崩壊繩文、摩耗。	
19	11	高环	台	東側廻遊帯区、I層	沈織3単位、L.R.	
20	13	高环	台	23号土坑	3本上凹位の沈織文、L.R.	
21	37	高环	台	東側廻遊帯区、I層	沈織3単位、L.R.	
22	25	高环	台	II D 2 i、I層	3本の平行沈織による文様、胎土に謹慎玄母多。	
23	50	高环	台	D.e.、I層	平行沈織文。	
24	40	高环	台	II D 2 f、I層	3本の平行沈織。	
25	9	高环	台	試掘中、I層	L.R.	
26	10	高环	台	II C 2 j、I層	L.R.、砂多、内ミガキ。	
27	3	蓋	口一余	II D 2 b、I層	R.L.か。	
28	27	善	把手	1分岐部北側	L.R.、繩維多。	
29	19	善	把手	東側廻遊帯区付近	小石多。	
30	23	浅鉢か	口縁	II E 1 a のすぐ西側	磨削繩文による角張った文様、L.R.、ミガキ。	20と同一
31	20	浅鉢か	口縁	II E 1 a のすぐ西側	磨削繩文による角張った文様、L.R.、ミガキ。	23と同一
32	35	浅鉢か	側部	1号土窓の東側	磨消繩文、L.R.、ミガキ。	
33	47	浅鉢か	側部	1号土窓下の井戸上?	沈織に沿って刺突列、刺突は角張っている。	
34	45	高环か	不明	II E 1 a のすぐ西側	沈織に沿って刺突列、刺突は角張っている。胎土文か。	49同一
35	36	浅鉢か	側部	1号土窓下の旧表土?	沈織に沿って刺突列、刺突は角張っている。西ヨリ系文か。	20、23と似る
36	49	高环か	不明	II E 1 a のすぐ西側	刺突列、刺突は角張っている。西ヨリ系文か	15同一
37	29	浅鉢か	側部	II D 2 f、I層	沈織、L.R.	外面に保。
38	28	浅鉢か	側部	1号土窓	平行沈織文、摩耗。	
39	33	深鉢か	側部	I E 10 e.、I層	沈織と繩文。	
40	42	蓋	口縁	II C 2 i、I層	沈織、繩維・畫舟多。	
41	18	蓋	口縁	23号土坑	繩文沈織。	
42	5	蓋	口縁	II D 2 g、I層	平行沈織。	
43	24	蓋	側部	II C 1 j.、I層	摩耗で繩文みえない。	
44	6	深鉢	口縁	1号地壠表土上	R.L.	
45	4	深鉢か	口縁	1号土窓下の井戸上?	山形口縁、平行沈織。	
46	12	深鉢	口縁	II D 2 h、I層	小石多。	
47	1	甕	口一崩	II D 2 g、I層	Rしか。	
48	2	深鉢	口縁	II E 1 a のすぐ西側	口縁部無文、刺L.R.、玄母多。	
49	7	深鉢小	底部	II E 1 a のすぐ西側	Rしか。	外向に朱。
50	16	深鉢	側部	P 4	L.R.、摩耗、繩文土器。	
51	22	甕	口縁	II E 1 a 周辺	磨削で区画、その中に沈織と刺突を割付、胎系文、繩文土器。	
52	51	深鉢小	側部	II D 2 h、I層	縦目状跡ある。	
53	53	土製品	土製内盤	ED 2 b.、I層	土器底部を使用、側代張、中央に孔。	

第5表 土器類・須恵器観察表

番号	仮番	器種	部位	出土地点	特 徴	その他
51	55	須恵器蓋	側部	遺構外	外タタキ、内アテ具。	
55	58	須恵器大蓋	側部	1号地壠北部、淀土	外タタキ。	
56	56	須恵器蓋	側部	I E 10 j.、I層	外タタキ、内アテ具。	
57	57	須恵器蓋	側部	遺構外	外ケズリ、内クロコナデ。	
58	54	須恵器環	底部	1号方圓周溝跡、淀土	ロクロ、打ち灰いて円形にしたように見える。	
154	59	須恵器蓋	側部	II C 5 a.、I層	内外クロコナデ、側部種か。	
155	60	須恵器蓋	側部	遺構外	内外クロコナデ、側部種か。	
156	61	須恵器蓋	側部	I E 3 g.、I層	内外クロコナデ。	
157	62	須恵器環	体部	遺構外	内外クロコナデ。	

第6表 石器類觀察表

番號 番号	直角 種類	分類	出土地點	計測値: cm × g				石 材	特 徴
				長さ	幅	厚さ	重量		
61 41	石鎚	A I a 1	P I 2 壁土中 1層	22	1.1	0.5	0.7	赤色頁岩	
62 351	石鎚	A I a 1	1号土壌塗剥離層	34	1.3	0.8	2.2	赤色頁岩	
63 184	石鎚	A N b 2	D g II 2 クリット1層	7.6	5.6	1.8	67.8	頁岩	
64 85	石鎚	A N b 2	1号土壌塗剥離層	8.4	4.9	1.7	76.6	赤色頁岩	
65 211	種器・磨器	A V a	1号土壌中央部及びその東側	4.8	3.8	1.9	29.9	頁岩	
66 46	種器・磨器	A V a	E a III 1 グリット周辺	2.6	4.0	0.9	9.3	頁岩	
67 27	種器・削器	A V a	E a III 1 グリット周辺 1層	7.3	4.2	1.3	34.6	頁岩	
68 248	種器・削器	A V b	E a III 1 グリット周辺 1層	2.9	1.8	0.5	1.5	赤色頁岩	
69 117	種器・削器	A V b	D h II 2 グリット及びその周辺 1層	2.3	2.3	0.6	3.2	頁岩	
70 48	種器・削器	A V b	E a III 1 グリット周辺	5.2	2.4	1.2	14.8	頁岩	
71 60	種器・削器	A V b	E a III 1 グリット周辺 1層	4.9	3.2	1.0	14.5	頁岩	
72 233	種器・削器	A V b	1号土壌下 旧表土	5.4	3.9	1.2	18.3	頁岩	
73 286	種器・削器	A V b	E a III 1 グリット周辺 1層	5.5	3.1	1.7	24.8	頁岩	
74 18	種器・削器	A V b	1号土壌西側	5.5	3.3	1.1	13.6	頁岩	
75 198	種器・削器	A V c	1号塗跡北側 3層	6.7	4.2	1.6	34.0	頁岩	
76 240	種器・削器	A V c	1号土壌中央部表土	6.6	4.0	1.7	45.9	頁岩	
77 300	種器・磨器	A V c	D h II 2 グリット及びその周辺 1層	5.3	2.9	2.0	34.1	頁岩	
78 303	種器・磨器	A V c	D e II 2 グリット土壌西側 1層	5.1	3.9	1.4	36.0	頁岩	
79 153	種器・削器	A V c	1号土壌	3.2	4.0	1.3	19.1	頁岩	
80 6	種器・削器	A V d ?	B c III 2 グリット及びその周辺	2.5	2.1	0.6	3.0	頁岩	
81 417	種器・削器	A V e 1	1号塗跡北側 3層	10.2	7.0	3.3	272.2	頁岩	
82 253	種器・削器	A V e 1	D f II 2 グリット 1層	12.2	8.8	5.2	775.1	頁岩	
83 220	種器・削器	A V e 1	P I 8 土壌中	13.9	6.2	3.3	370.9	頁岩	
84 199	種器・削器	A V e 1	1号塗跡北側 3層	9.5	5.5	3.2	183.2	頁岩	
85 401	種器・削器	A V e 1	1号塗跡北側 3層	11.9	5.5	2.9	203.3	頁岩	
86 428	種器・削器	A V e 1	1号土壌南側及びその東側	8.5	7.5	3.0	298.1	頁岩	
87 402	種器・削器	A V c 1	1号塗跡中央部 3層	9.6	11.2	3.7	455.2	石英安山岩	
88 326	種器・磨器	A V e 1	E a III 1 グリット周辺 1層	5.8	7.7	4.4	207.3	頁岩	
89 212	種器・磨器	A V e 1	1号土壌中央部及びその東側	8.0	9.5	4.0	289.2	頁岩	
90 216	種器・磨器	A V e 1	1号土壌中央部表土	6.2	8.0	2.4	155.1	石英安山岩	
91 200	種器・磨器	A V e 1	1号塗跡北側 3層	10.4	12.7	5.2	800.0	頁岩	
92 435	種器・削器	A V e 2	1号土壌南側及びその東側	7.7	5.2	3.0	132.3	赤色頁岩	
93 374	種器・削器	A V e 2	1号塗跡北側 3層	9.0	7.1	3.1	250.4	赤色頁岩	
94 372	種器・削器	A V e 2	1号塗跡中央部	10.6	9.0	5.3	523.3	赤色頁岩	
95 182	種器・削器	A V c 2	土壌より南側 試掘 1層	8.0	7.4	2.9	187.5	赤色頁岩	リングみえない
96 392	種器・削器	A V c 2	1号塗跡中央部 3層	13.2	9.0	4.2	559.8	砂岩	
97 418	種器・削器	A V e 2	1号塗跡北側 3層	9.0	8.2	3.3	306.1	頁岩	
98 361	種器・磨器	A V e 2	1号塗跡中央部 3層	13.0	11.7	5.2	675.5	赤色頁岩	
99 399	種器・磨器	A V e 2	1号塗跡北側 3層	10.2	13.3	6.9	1107.5	砂岩	
100 261	種器・磨器	A V e 3	D f II 2 グリット 1層	9.8	4.4	2.3	111.2	石英安山岩	
101 379	種器・削器	A V e 3	1号塗跡北側 3層	11.9	7.3	4.1	289.5	石英安山岩	
102 375	種器・削器	A V e 3	1号塗跡北側 3層	9.7	6.6	1.6	134.0	頁岩	
103 412	種器・削器	A V c 3	1号塗跡北側 3層	11.8	4.8	2.7	156.8	赤色頁岩	
104 173	種器・削器	A V c 3	1号占墳	12.4	5.9	1.5	131.0	頁岩	
105 419	種器・削器	A V c 3	1号塗跡北側 3層	13.2	4.3	3.4	149.8	赤色頁岩	
106 305	種器・磨器	A V e	D e II 2 グリット上墨西側 1層	8.8	8.0	2.7	156.5	石英安山岩	石製品か
107 387	種器・磨器	A V e	1号塗跡中央部 3層	10.9	8.1	4.2	319.7	砂岩	石製品か
108 225	敲石	B VI a 1	1号塗跡中央部 3層	8.5	6.1	4.2	283.6	頁岩	
109 425	敲石	B VI a 2	1号上墨南側及びその東側	9.5	5.7	2.6	217.5	赤色頁岩	
110 346	敲石	B VI b 1	E a III 2 グリット周辺 1層	5.6	5.3	4.3	166.7	赤色頁岩	
111 185	敲石	B VI a 3	D h II 2 グリット 1層	17.5	4.5	3.2	327.3	石英安山岩	
112 383	凹石	B IX	1号塗跡北側 3層	13.4	8.0	2.6	389.5	赤色頁岩	2面使用

掲載番号	仮番	種類	分類	出土地点	計測値: cm × g			石材	特徴
					長さ	幅	厚さ		
113	135	円石	B IX	I号塙跡環上中	8.9	7.7	5.9	566.6	安山岩
114	336	四石	B IX	I号土壘中央部及びそのすぐ東側	11.5	8.2	6.3	949.9	安山岩
115	420	四石	B IX	I号塙跡北側3層	14.2	8.5	5.8	786.7	不定形石器に転用か
116	228	四石	B IX	I号塙跡中央部3層	13.1	4.9	4.4	293.1	安山岩 使用面がはっきりしないが遺跡内に持ちこまれた塊ではある。
117	398	白石	B X	I号塙跡北側3層	16.9	12.9	5.9	1983.9	石英安山岩
118	337	磨製石斧未製品	B XII a	I号土壘中央部及びそのすぐ東側	8.3	5.3	3.8	195.2	頁岩
119	161	磨製石斧未製品	B XII b 3	不明	9.1	6.0	3.0	227.3	頁岩
120	371	磨製石斧未製品	B XII b 1	I号塙跡中央部3層	14.3	5.5	4.0	374.4	頁岩
121	165	磨製石斧未製品	B XII b 1	I号塙跡中央部3層	9.6	6.3	3.3	297.6	織紋閃綠岩
122	202	磨製石斧未製品	B XII b 2	I号塙跡北側3層	16.5	3.2	3.4	469.1	頁岩 石棒未成品か
123	209	磨製石斧未製品	B XII b 2	I号塙跡中央部3層	14.9	4.6	3.0	227.5	頁岩
124	207	磨製石斧未製品	B XII b 2	I号土壘中央部及びそのすぐ東側	10.5	5.2	3.7	305.8	頁岩
125	224	磨製石斧未製品	B XII b 2	I号塙跡中央部3層	11.5	5.5	4.9	415.0	頁岩
126	397	磨製石斧未製品	B XII b 2	I号塙跡中央部3層	11.7	5.7	4.2	358.3	頁岩
127	409	磨製石斧未製品	B XII b 3	D g II 2グリッド I層	14.5	5.2	3.4	374.7	頁岩
128	88	磨製石斧	B XII a	D g II 2グリッド I層	7.0	3.8	2.9	101.2	頁岩
129	245	打製石器	B XIII	I号土壘南側及びその東側				472.8	頁岩
130	408	打製石器	B XIII a	D g II 2グリッド I層	12.0	6.9	3.7	278.7	頁岩
131	308	打製石器	B XIII a	C g II 2グリッド及びその周辺1層	15.4	7.3	4.3	361.4	頁岩
132	423	剥片・残核	C XV b	I号土壘南側及びその東側	14.9	9.5	3.3	472.8	織紋閃綠岩
133	246	剥片・残核	C XV b	I号土壘中央部及びその東側	5.9	4.7	2.3	64.7	頁岩
134	234	剥片・残核	C XV b	I号土壘のすぐ東側 I層	3.8	5.6	3.1	92.2	
135	221	その他	D XX	E a II 1グリッド周辺 I層	16.8	10.0	6.1	676.9	安山岩 石棒未成品か
136	120	石剣頭未製品	D X VI	D h II 2グリッド及びその周辺 I層	14.2	3.4	1.4	89.4	頁岩
137	186	石剣頭未製品	D X VI	I号塙・土壘南側表土	13.8	3.6	1.7	118.1	頁岩
138	43	石製円盤	D X IX	E a II 1グリッド周辺 I層	5.4	5.7	1.4	60.5	石英安山岩
139	345	石製円盤	D X IX	I号土壘中央部及びそのすぐ東側	5.8	5.6	1.9	111.3	石英安山岩 背面削いでいる
140	272	その他	D XX	E a II 1周辺 I層	2.1	2.9	0.6	3.7	頁岩
141	170	打製石器	B XII a	I号塙跡中央部3層				386.3	頁岩
142	413	敲石	B Y a 4	I号塙跡北側3層				80.9	赤色頁岩
143	310	敲石	B Y a 5	I号塙北側 1~2層				455.1	織紋閃綠岩
144	217	磨製石斧	B XII a	I号塙跡中央部3層				351.1	頁岩
145	223	磨製石斧	B XII a	I号土壘中央部及びその東側				344.5	頁岩
146	214	剥片・残核	C XV b	I号土壘中央部及びその東側				234.0	頁岩
147	312	剥片・残核	C XV b	土壘のすぐ東側のE g I層				361.1	頁岩
148	427	剥片・残核	C XV b	I号土壘南側及びその東側				148.0	頁岩
149	239	剥片・残核	C XV b	I号塙跡中央部3層				156.8	頁岩
150	311	剥片・残核	C XV b	土壘のすぐ東側のE g I層				77.5	頁岩
151	235	剥片・残核	C XV b	I号土壘下 表土				121.5	頁岩
152	215	剥片・残核	C XV b	I号土壘中央部及びその東側				91.5	頁岩

第7表 柱穴観察表

No	種(cm)	深さ(cm)	レベル	標高(m)	No	種(cm)	深さ(cm)	レベル	標高(m)
1	79×42	28.4	84.200	1.807	77	52×47	22.2	84.200	2.036
2	63×35-a	50.3	84.200	1.915	78	32×24	18.4	84.100	2.039
3	36×24	24.7	84.200	1.699	79	62×45	13.9	84.100	1.969
4	36×30	15.2	84.200	1.565	80	39×35	21.9	84.100	2.109
5	44×36	37.0	84.200	1.900	81	65×61	11.9	84.100	1.974
6	96×65	36.7	84.200	1.769	82	29×24	22.2	83.000	1.523
7	186×126	29.0	84.100	1.927	83	25×25	47.4	83.000	1.766
8	68×57	22.8	84.200	2.043	84	19×18	19.7	83.000	1.535
9	63×56	10.7	84.100	1.975	85	26×20	33.0	83.000	1.752
10	57×44	22.3	84.100	2.172	86	23×20	40.9	83.000	1.509
11	29×27	11.8	84.100	2.068	87	19×18	30.4	83.000	1.655
12	66×63	30.2	83.000	1.486	88	24×22	21.0	83.000	1.591
13	68×64	36.5	83.000	1.776	89	45×45	56.1	83.000	1.963
14	44×29	59.0	83.100	2.116	90	25×21	20.0	83.000	1.574
15	35×33	40.9	83.100	1.964	91	38×35	44.2	83.000	1.816
16	31×30	31.2	83.000	1.818	92	35×31	41.0	83.000	1.849
17	42×41	81.6	82.800	2.293	93	25×18	9.4	83.000	1.506
18	32×39	21.8	83.700	2.229	94	24×22	30.0	83.100	1.761
19	23×21	19.2	83.700	1.517	95	25×25	34.5	83.100	1.797
20	35×24	25.0	83.700	1.600	96	32×29	36.6	83.100	1.821
21	30×25	31.3	83.700	1.636	97	39×34	46.9	83.000	1.885
22	20×16	64.3	83.700	1.992	98	24×21	15.4	83.000	1.525
23	27×26	9.1	83.700	1.550	99	47×44	49.9	83.000	1.895
24	26×30	11.7	83.700	1.656	100	24×20	19.7	83.000	1.577
25	27×22	16.0	83.700	1.700	101	49×41	56.6	83.000	1.972
26	33×27	8.9	83.700	1.715	102	26×23	23.6	83.000	1.632
27	27×24	13.4	83.700	1.905	103	27×25	36.1	83.000	1.727
28	25×23	38.4	83.700	1.892	104	49×41	45.0	83.000	1.852
29	25×20	17.9	83.700	1.672	105	35×34	41.6	83.000	1.861
30	28×26	28.7	83.700	1.901	106	27×26	31.0	83.000	1.702
31	30×35	32.2	83.700	1.857	107	43×39	41.2	83.000	1.842
32	28×24	31.5	83.700	1.905	108	44×35	31.9	83.000	1.823
33	35×26	32.0	83.700	1.926	109	30×28	46.2	83.000	1.863
34	25×21	29.8	83.700	1.905	110	46×34	28.1	83.000	1.645
35	21×20	26.5	83.700	1.887	111	35×32	38.0	83.000	1.772
36	29×28	37.2	84.200	1.690	112	29×24	66.5	83.000	2.076
37	31×37	16.1	84.200	1.795	113	27×25	46.4	83.000	1.906
38	30×34	38.0	84.321	1.859	114	28×26	21.0	83.000	1.715
39	31×24	22.9	84.321	1.714	115	35×34	75.1	83.000	2.151
40	42×33	26.6	84.321	1.755	116	25×24	38.7	83.000	2.088
41	40×35	16.8	84.321	1.685	117	23×22	12.2	83.000	1.611
42	24×19	16.4	84.321	1.689	118	43×34	47.5	83.000	1.911
43	25×22	58.6	84.200	1.908	119	35×24	48.8	83.000	1.935
44	50×25	32.4	84.200	1.734	120	20×19	63.2	83.000	2.134
45	29×22	21.0	84.200	1.619	121	25×25	18.0	82.900	1.649
46	28×26	22.1	84.200	1.646	122	27×25	17.8	82.900	1.623
47	55×36	29.1	84.200	1.815	123	26×25	19.0	82.900	1.612
48	70×39	28.4	84.200	1.645	124	40×36	36.3	82.900	1.8148
49	56×35	44.0	84.200	1.835	125	20×51	37.6	82.900	1.745
50	37×32	24.2	84.200	1.679	126	32×28	23.8	82.900	1.631
51	46×40	18.2	84.200	1.625	127	53×42	64.2	82.900	2.092
52	34×33	23.5	83.200	1.579	128	46×40-a	22.6	82.900	1.662
53	32×29	26.2	84.200	1.774	129	50×45	71.0	82.900	2.143
54	37×26	27.6	84.200	1.765	130	29×26	15.5	82.900	1.604
55	28×22	33.8	84.200	1.823	131	33×26	53.9	82.900	2.053
56	31×21	40.5	84.200	1.913	132	34×27	48.1	83.000	1.968
57	31×22-a	22.2	84.200	1.760	133	29×25	31.5	83.000	1.841
58	26×24-a	22.7	83.200	1.895	134	34×20	15.0	82.900	1.601
59	26×26	20.9	83.200	1.875	135	25×24	19.3	82.900	1.649
60	37×27	27.1	83.200	1.961	136	65×45	40.6	82.900	1.836
61	38×31	27.4	84.200	1.968	137	36×28	28.7	82.900	1.690
62	66×46	25.2	84.200	1.890	138	29×21	30.1	82.900	1.907
63	34×29	23.6	84.200	1.915	139	45×43	61.6	82.900	2.060
64	43×40	17.2	84.200	1.857	140	34×32	39.7	82.900	1.850
65	32×29	21.8	84.200	1.890	141	55×41	65.8	83.000	2.242
66	53×43	31.3	84.200	2.009	142	35×33	73.3	83.000	2.329
67	33×31	23.5	84.200	1.964	143	41×41	19.3	83.000	1.765
68	26×24	21.5	84.200	1.890	144	34×29	21.1	83.000	1.787
69	74×68	28.8	84.200	1.929	145	33×29	21.5	83.000	1.799
70	29×19	32.9	84.200	2.021	146	29×27	26.1	83.000	1.826
71	21×14	29.1	84.200	2.054	147	29×28	43.5	83.000	2.012
72	28×22	43.1	84.200	2.120	148	37×27	18.7	83.000	1.752
73	29×23	37.7	84.100	2.127	149	22×21	27.6	83.000	1.827
74	23×21	31.7	84.100	2.150	150	34×32	97.0	83.000	2.556
75	22×18	24.4	84.100	2.105	151	42×39	20.6	83.000	1.750
76	25×23	11.7	84.100	1.922	152	30×23	41.7	83.000	1.954

No	寸(㎝)	高さ(㎝)	レベル	標高(ｍ)	No	寸(㎝)	高さ(㎝)	レベル	標高(ｍ)		
153	45×44	86.6	83.000	2.412	80.588	230	29×26	26.2	83.100	1.831	81.269
154	36×33	76.4	83.000	2.309	80.691	231	35×27	93.0	83.100	2.479	80.621
155	29×30	23.3	83.000	1.799	81.201	232	44×36	32.9	83.100	2.042	81.058
156	33×30	42.2	83.000	2.009	80.991	233	46×28	61.0	83.100	2.152	80.948
157	47×44	66.1	83.000	2.211	80.789	234	54×39	44.5	83.100	2.073	81.027
158	29×28	41.7	83.000	1.964	81.046	235	35×34	17.9	83.100	1.745	81.355
159	23×21	50.6	83.000	2.046	80.954	236	40×27	71.7	83.100	2.298	80.805
160	29×26	71.1	82.900	2.116	80.784	237	36×29	40.0	83.100	1.965	81.138
161	35×31	25.8	83.000	1.751	81.249	238	26×24	27.8	83.100	1.843	81.257
162	25×25	18.4	82.900	1.586	81.314	239	28×25	17.5	83.100	1.759	81.341
163	23×18	32.0	82.900	1.726	81.174	240	37×33	14.3	83.100	1.725	81.375
164	51×17	43.5	82.900	1.847	81.053	241	25×23	22.9	83.100	1.895	81.273
165	21×10 a	11.5	82.900	1.541	81.269	242	36×27	41.8	83.100	2.135	80.963
166	24×24	19.7	82.900	1.592	81.308	243	34×33	42.4	83.100	2.029	81.071
167	29×24	33.5	82.900	1.725	81.175	244	24×24	29.1	83.100	1.895	81.205
168	25×22	24.3	82.900	1.616	81.264	245	49×39	48.4	83.100	2.015	81.085
169	40×12 a	28.9	82.900	1.696	81.291	246	27×24	40.8	83.100	1.982	81.138
170	31×42	54.7	82.900	1.914	80.986	247	28×25	16.8	83.100	1.829	81.271
171	27×26	26.8	82.900	1.644	81.256	248	32×27	25.9	83.100	1.904	81.196
172	50×39	50.2	82.900	1.874	81.026	249	18×17	19.7	83.100	1.801	81.299
173	36×31	44.3	82.900	1.853	81.047	250	45×45	37.5	83.100	2.127	80.973
174	16×16	21.5	82.900	1.590	81.310	251	21×20	32.5	83.100	1.877	81.223
175	23×22	22.3	82.900	1.588	81.315	252	39×32	63.6	83.100	2.169	80.931
176	23×21	20.0	82.900	1.590	81.310	253	32×31	32.1	83.100	1.827	81.273
177	45×44	42.0	82.900	1.802	81.058	254	37×33	54.9	83.100	1.935	81.163
178	33×29 a	16.9	82.900	1.561	81.339	255	27×24	21.4	83.100	1.778	81.322
179	48×45	40.1	82.900	1.765	81.135	256	47×44	50.0	83.100	2.052	81.048
180	31×30	15.7	83.000	1.637	81.363	257	59×39	50.5	83.100	2.019	81.081
181	27×24	25.2	83.000	1.729	81.271	258	48×42	57.6	83.100	2.051	81.049
182	23×21	28.6	83.000	1.922	81.078	259	36×32	52.5	83.100	2.058	81.032
183	29×24	31.9	83.000	1.854	81.146	260	43×41	46.4	83.100	1.926	81.174
184	25×21	87.3	83.000	2.404	80.596	261	19×14	22.1	83.100	1.685	81.415
185	25×17	50.5	82.800	1.849	80.951	262	26×25	34.1	83.100	1.760	81.340
186	22×17	19.9	83.000	1.770	81.230	263	32×30	27.1	83.100	1.702	81.398
187	44×37	66.0	83.000	2.175	80.825	264	32×28	26.8	83.100	1.709	81.391
188	27×18 a	26.6	83.000	1.866	81.134	265	24×23	21.3	83.100	1.608	81.192
189	45×31	46.2	82.800	1.806	80.994	266	56×31	53.8	83.100	2.018	81.082
190	25×18	33.7	82.800	1.723	81.077	267	27×24	64.5	83.100	2.125	80.975
191	29×26	21.6	82.800	1.621	81.179	268	51×42	32.9	83.100	1.985	81.115
192	41×37	53.6	82.800	1.947	80.853	269	41×37	46.5	83.100	1.922	81.178
193	21×20	21.7	82.800	1.642	81.158	270	32×24	23.9	83.100	1.684	81.419
194	37×36	69.6	82.800	2.121	80.679	271	27×26	34.3	83.100	1.779	81.321
195	47×38	48.6	82.800	1.918	80.882	272	21×21 a	25.7	83.100	1.710	81.309
196	47×42	61.9	82.800	2.184	80.616	273	31×28	21.1	83.100	1.616	81.484
197	42×35	63.6	82.800	2.122	80.678	274	31×25	15.8	83.100	1.572	81.528
198	42×34	66.1	82.800	2.147	80.653	275	32×19	23.9	83.100	1.602	81.498
199	50×41 a	19.5	82.800	1.687	81.113	276	56×54	29.1	83.100	1.705	81.395
200	34×33	11.7	82.800	1.617	81.183	277	85×79	56.2	83.100	2.013	81.087
201	35×32	41.3	82.800	1.932	80.968	278	52×32	35.6	83.100	1.772	81.328
202	40×37	58.0	82.800	2.145	80.655	279	26×23	19.3	83.100	1.645	81.485
203	35×34	35.5	82.800	1.969	80.831	280	48×40	76.2	83.100	2.207	80.893
204	59×53	50.3	82.800	2.230	80.570	281	49×44	42.8	83.100	1.865	81.238
205	46×41	54.6	82.800	2.137	80.663	282	39×25	61.9	83.100	2.050	81.050
206	38×21	48.1	82.800	2.027	80.773	283	26×24	31.4	83.100	1.738	81.368
207	33×17 a	28.3	82.800	1.830	80.970	284	38×35	79.0	83.100	2.252	80.848
208	51×41	45.3	82.800	1.982	80.818	285	38×31	49.2	83.100	1.941	81.159
209	54×43	36.3	82.800	1.776	81.024	286	33×28	-	83.100	-	-
210	20×19	27.9	82.800	1.735	81.065	287	51×34	64.9	83.100	2.146	80.954
211	22×14	26.1	82.800	1.783	81.017	288	40×38	14.5	83.100	1.637	81.463
212	37×26	59.6	82.800	2.118	80.682	289	39×32	76.5	83.100	2.250	80.850
213	42×42	66.9	82.800	2.176	80.624	290	44×40	26.3	83.100	2.217	80.883
214	21×20	22.2	82.800	1.515	81.285	291	61×52	15.9	83.100	1.581	81.519
215	25×21	43.1	82.800	1.702	81.098	292	36×32	25.1	83.100	1.643	81.457
216	26×24	40.4	82.800	1.689	81.111	293	23×14 a	16.0	83.100	1.558	81.545
217	25×22	18.2	82.800	1.422	81.378	294	22×21 a	9.0	83.100	1.581	81.619
218	36×32	37.9	82.800	1.644	81.156	295	32×22 a	35.0	83.100	1.842	81.258
219	33×31	43.8	82.800	1.663	81.137	296	35×34	48.9	83.100	2.017	81.083
220	34×27	33.2	82.800	1.582	81.208	297	34×32	20.6	83.100	1.744	81.356
221	37×30	36.0	82.800	1.555	81.245	298	54×40 a	21.0	84.321	1.674	82.647
222	27×25	68.9	82.800	1.932	80.868	299	75×66 a	49.9	84.321	1.965	82.366
223	32×11 a	24.0	82.800	1.463	81.337	300	24×22	15.6	82.800	1.627	81.173
224	36×33	68.6	82.800	1.941	80.869	301	77×74	65.5	83.100	2.122	80.978
225	34×17 a	51.7	82.800	1.731	81.069	302	66×60	38.3	84.100	2.349	81.751
226	21×20	22.1	83.100	1.766	81.334	303	24×22	13.4	84.100	2.107	81.993
227	42×38	42.0	83.100	1.979	81.121	304	28×25	29.1	83.000	1.816	81.184
228	34×24	28.0	83.100	1.835	81.265						
229	29×28	21.6	83.100	1.769	81.331						

V ま と め

成田岩田堂館遺跡は北上市の北側・成田・二子地区の境付近に位置している。遺跡は北上川西岸の河岸段丘上にあり概ね平坦な地形面に立地している。遺跡の範囲は南北約300m、東西約250mで今回は遺跡の中央より南側を東西方向に細長く調査したことになる。

検出された遺構は縄文時代の陥し穴9基、平安時代の方形周溝1基、中世の堀1条・土塁1条・孤立柱建物跡9棟・溝2条、時期不明の土坑12基、焼土1基である。出土遺物は縄文・弥生土器3箱（弥生土器が大半を占める）、石器類4箱、平安時代の土師器・須恵器10数点、鉄製品2点がある。

ここでは時代ごとに得られた成果、それから推測される点、課題として残ったことなどをまとめて遺跡の内容を考えていきたい。

縄文時代

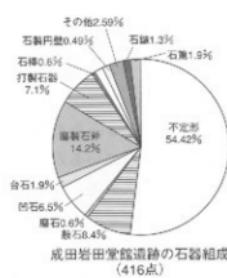
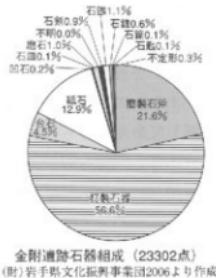
陥し穴が9基確認されており、狩猟の場であったことが分かった。遺構に伴って出土した遺物がなく詳細な時期は不明である。調査区内で堅穴住居跡は検出されず、この時期の土器・石器類も極めて少なかったので、集落は遺跡北端部の段丘縁辺部付近か、遺跡南端にあるくつわ清水の近くなどが想定される。地元の方によると何れの場所も昔は上器（時期は不明、上御器かもしれない）が出ていたらしいが、果樹植えなどの際に土地は広く攪乱されたという。陥し穴は調査区東側と西側にかなり距離を置いて分布していた。調査区東側の4基は東-西を長軸とし、南北に連なっている。東側の段丘縁辺部に沿って陥し穴は南北方向に展開していたといえ、段丘下（旧飯農川・北上川）と段丘面を移動する場となっていたと考えられる。調査区西側の5基は皆近くで見つかっているものの、北西-南東に向く2基と、同規模の陥し穴がきれいに並ぶ3基と2時期に分かれると考えている。新旧関係は明らかにできないが、狩猟の場として長い期間利用されていた場所であったのだろう。

弥生時代

弥生時代の遺物はとくに調査区の中央から東側にかけてまとまって出土した。他の場所からは微量しか出土していない。土器は初頭から前期後半までが中心のようである。堅穴住居跡などは検出されなかつたが、遺物の出土状況から遺跡中央から東側に集落を想定することはできよう。遺跡のあるこの地は現在も水田がない場所である。よって弥生時代にも水稻を行っていた可能性は低いのではないかと考えている（陸稲なら遺跡内でできるかもしれないが）。付近で水稻のできそうなところとなると南側の沢水沿いか、東側段丘下の氾濫平野となるが、どちらも想定される集落からは少し距離がある。稲作に依存しない集落例といえるのではなかろうか、本遺跡のすぐ南側にある物見崎遺跡も同じような立地条件の集落と考えていて、本遺跡よりやや先行して成立しているようだ。北上市境遺跡は北上川東岸の自然堤防上にある集落（本遺跡より1段低い面に立地）で、こちらなどは周辺の低湿地などを水田化していたと考えている。

同じく北上川東岸の自然堤防上にある金附遺跡は、石斧を製作していた集団がいた集落（縄文晚期-弥生前期）で本遺跡と時期的に一部重なる。本遺跡でも金附遺跡で出土しているような石斧未製品が一定量出土していた。このことから集落内で使用する点数くらいは自作していたと考えている。これは石斧だけではなく概ねすべての石器類に当てはまると思っており、剥片石器製作時に出たような剥片類も出土している。それから縄文時代の石器に比べて不定形なものが多い印象を持つ。遺跡の土

はかなり動かされており、出土した石器類も元位置を留めていたものはないがその組成をグラフ化しておく。包含層でもない単なる遺構外出出土石器類の組成であるので扱いには注意して欲しい。傾向としては石錐・石錐・石匙・石籠などが少ないと（これは金附遺跡と共通する）、不定形石器が多く分類に悩むようなものも目立った点もあげられる。グラフは他の遺跡と同じ様式にするために剥片・残核類を除外しているが、含めればこれらがもっと多くなる。磨製石斧の未製品がある点以外に金附遺跡との共通点はあまりなく、本遺跡が石器製作に特化しているとはみなせない。取り上げた石の中には一部打ち欠いただけで廃棄したもの、同じような剥片石器を作るにも刃部のつくりに統一感がないなど、縄文時代とは異なる雰囲気があった。縄文時代晩期から弥生時代前期を中心とした代表的な遺跡の石器組成については『金附遺跡』（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006に詳しい。



発掘調査の多くは遺跡のごく一部しか掘っていないわけだが、本遺跡の場合は縄文時代晩期後葉の上器は見られなかったことから縄文時代晩期から継続していた集落ではなく、弥生時代初頭頃に成立し前葉までの間営まれた集落と推察される。同じ遺跡内で移動しただけかもしれないが、それは後の調査で明らかにできるかもしれない。本遺跡南側にある物見崎遺跡の弥生集落も短期間で廃絶していること、物見崎遺跡の西隣りにある馬場野遺跡は晩期（C2-A頃）であり、集落は馬場野遺跡（晩期後）→物見崎遺跡（晩期末・弥生初）→成田岩田堂館遺跡（弥生初・前）といった具合に北へ移動していったのかと想像したくなる。この3遺跡はそれぞれが近くにあり、永くは継続しない小規模集落なのである。続く弥生時代中期頃に成立する遺跡はこの近くでは確認できない。弥生時代中期頃の遺跡は和賀川沿いにはあるし、奥羽市（水沢・江刺区ほか）では有名な遺跡があるが、本遺跡近郊（北上市北部または花巻市南部）で水稻耕作に適した土地に移動したと思いたい。

平安時代

方形周溝1基があるので他の遺構は検出されていない。土師器・須恵器片は方形周溝よりも東側、段丘縁辺部近くまで出土しており西側では殆ど出土しなかった。こうしたことから平安時代の集落は遺跡東側にあると想定したい。方形周溝も単独であったとは考えにくいのでその近くに数基はあると見た方がよからう。平安時代の集落は遺跡の東側に占地し、その西側には墓域が展開すると推察される。そして集落の成立は出土遺物から9世紀後半といえ、古墳・奈良時代は遺構・遺物がなく無宿であった。

方形周溝跡は、円形周溝跡と共にその役割や機能を推定する施設や遺物が不十分なために、不明な

点が多いのが特徴である。しかし、形態や規模が末期古墳に伴う周溝と類似することから、「本来埴丘を伴う遺構であったものが後世削平されたものと考えられ、古墳の周溝の可能性や墳墓的性格が指摘されて」いる（高橋1995）。本遺跡で検出された方形周溝跡でも周溝のみが残り、関連施設は検出されず、土師器壺の底部が一点出土したのみである。県内において、同様の方形周溝跡が報告されている遺跡は、二戸市駒焼場遺跡、火行塚遺跡、大淵遺跡、安代町飛鳥台地遺跡、盛岡市上平沢新田遺跡、宮手遺跡、飯岡沢田遺跡、北上市岩崎台地遺跡群、奥州市（旧江刺市）宮地遺跡、奥州市（旧水沢市）南谷中遺跡など県内各地に分布しており、その数は増えつつある。本遺跡と同様に非黒色処理で、回転糸切り無調整の土師器壺が出土している遺跡は、宮地遺跡、岩崎台地遺跡群などである。これらの方形周溝跡は、十和田a降下火山灰の堆積状況や伴出遺物から平安時代以降と位置づけられているものがほとんどである。本遺跡では、十和田a降下火山灰など時期決定の目安となるものは検出されなかったが、伴出遺物と周溝の形態・規模から他の遺跡と同様に平安時代、とりわけ9世紀後半～10世紀前半頃に位置づけたい。

古墳から出土する供獻土器には、長頸瓶の頸部を打ち欠いたり、壺の底部に穿孔を施すなどの行為がよくみられる。本遺跡で出土した土師器壺の底部も、底の部分だけがほぼきれいな形で残っており、單に割れてしまっただけとは考えにくい。欠けている部分はやや磨耗しており、打ち欠いたような鋭利さは失われているが、意識的に打ち欠かれたという可能性も考えられる。同様の例が、岩崎台地遺跡群でもみられる。割れた状態を接合したものであるが、底部の破片のみ出土しているという点で共通している。県外の例になるが、青森県八戸市殿見遺跡では周溝から二次加熱を受けた土器が出土している（殿見遺跡：八戸市教委1993・1994）。本遺跡の遺物にはこのような痕跡は見られず、使用痕や墨書きなども確認されなかった。遺構や遺物からの情報は僅かであるが、本遺跡で検出された方形周溝跡も墳墓的性格のものと考え、平安時代の墓制の一形態として捉えておくこととしたい。

中世

1) 成田岩田堂館と検出された遺構について

堀跡1条、土壘1条、掘立柱建物跡9棟、溝2条が検出されている。土壘・堀跡は調査区外へ延びており概ね規模が把握できた。東側を段丘崖、南側は自然の沢地形を堀として利用し残る二方を土壘と堀で区画している。東西約100m、南北で約200m、面積約20,000m²である。規模が明らかになったことで成田岩田堂館（八幡神社周辺）とは一体の城館ではないことも分かった。つまり遺跡名として成田岩田堂館と呼ばれているだけで、今回検出された遺構は成田岩田堂館ではなく別の施設を構成する。成田岩田堂館跡は北上川に飯農川が合流する段丘北東端付近に限られる。調査地点の地名は馬場野といい馬場野館・和賀氏家臣成田藤内の館跡などの伝承がある。本稿ではまず岩田堂館とだけは区別する必要があると考え、單に「館跡」として扱いたい。伝承とこの館跡との関係については後述する。

2) 掘立柱建物跡について

計9棟の建物跡については第IV章で検出された状況のままで掲載した。その後、八戸工業大学高島成佑教授に本遺跡の建物跡について助言頂く機会を得たのでここではその内容についてまとめてみたい（以下の文責は筆者にある）。考古学的な成果だけでは建物として不自然なものについて補足的解釈をしたもの、調査担当者が把握した建物とは異なる形態の建物が想定されたものなどである。

第35図に対象となる建物をあげている。2～7号建物跡に関しては、発掘調査では検出されなかつた位置にも柱穴が配置されていたと考えなければ梁・桁が架からないことから、そうした場所に柱穴

を想定している。検出されなかった理由として2つの案を図示している。特に梁行に柱穴が検出されない建物が多く見られたわけだが、こうした例はこの遺跡に限らず本県の中世掘立柱建物跡の中には一定量みられるので注視したい。梁行2間なのに発掘調査では中央の柱穴が検出できない建物である。これに2面ないし4面の縁が取り付く建物があるわけだが、縁が4面のときも四隅には柱穴が見られない建物が盛岡市台太郎遺跡でも存在する。

1号掘立柱建物跡については1棟ではなく2棟の建物と解釈することも可能であった。1号掘立柱建物跡の柱間寸法は桁行き6.5~7.0尺であり間尺からすれば15世紀後半、2号掘立柱建物跡は桁行8.2~9.2尺と広く14世紀後半まで古くなる可能性を指摘された。

3) 二子城との関係

二子城は和賀氏の居城であり、北上地域では最大規模を誇る（第36図）。その城域は南北約1km、東西約0.5mと広大で、小高い山となっている飛勢森を中心として見た場合その西側に西の森、北側に物見ヶ崎といった同じような小山地形があり、飛勢森の東側に城主屋敷とみられる白鳥館（白鳥神社）がある。城主屋敷からは連なるように重臣屋敷が北上川沿いに並んでいたと伝えられている。加えて南側にも家臣屋敷が配される。更に南には町屋が広がっていたとされ現在上宿・下宿といった地名で呼ばれている。北側にも旧遍照寺跡・加賀館・監物館・坊館・筒井内膳縫殿介屋敷といった寺院や家臣屋敷跡と思われる施設が連続し、その北端は内膳堀（現在のしみず斎園付近）となる。そして搦手（からめて）が馬場野と呼ばれる飯豊川にかけての北側平坦地にあたるとみられ、また城外の北には成田氏の屋敷跡が配置されていたとされている。本遺跡はこの馬場野と伝成田氏屋敷跡にあたる。二子城の発掘調査によると15世紀頃の遺物が出土していること、奥州仕置で破却されていることから15~16世紀末に使われていたといえる。ただこの地域最大規模の城館であることから短期間で完成したとは見ずに和賀氏が居城を構えた後、家臣屋敷などが段階的に構築され、16世紀末にこのような城城にまで拡大したと考えることもできるのではないか。そうすると二子城北端地域の筒井縫殿介屋敷や城外の今回発掘調査をした本館跡などは15世紀頃にはまだなく、16世紀代になってから構築されたと仮定することもできるかもしれない。二子城西城については北上北中学校の西側（榮館・秋子沢地区）や坂向に沢が入っており、これらを堀として活用していたのかもしれない。しかしながらそれ以外に大規模な堀や土塁が巡らない点（未検出なだけかもしれないが）、北端を飯豊川まで拡張できれば防御性は格段に上がると思われる所以、二子城の繩張は構築途中で奥州仕置を迎えたという印象をもつ。

4) 和賀・稗貫一揆

天正18年（1590）、奥州仕置の際に和賀義忠は所領を没収され追放されている。これに対し同年10月、和賀義忠・稗貫広忠らが反乱を起こし二子城・烏谷ヶ崎を奪った。翌年の奥州再仕置により和賀氏は二子城で戦うも義忠は討たれその子らは仙北方面へ逃れた。二子城はこの時に戦場となっている可能性があるのである。その後、この地域が南部氏領となった中の慶長5年（1600）、和賀忠親らは一揆を起こす。忠親は義忠の子でこの頃伊達政宗から西根平沢に所領を得ていた。忠親は平沢（金ヶ崎）を立ち相去の地小屋で旧家臣に迎えられ二子城の北側にある筒井縫殿介のかつての屋敷に入った。この時、二子城中心域は朽ち果てており籠城するのは適さなかつたとされている。ここから手勢を率い花巻城を夜襲したが失敗する。二子城（筒井屋敷）へ逃げる途中、成田馬場野で追う南部勢との間に戦闘があつたと伝えられている。一揆勢は二子から飯豊を経由し岩崎城に籠城した。南部方は11月には攻撃を断念し、三戸へ戻るが、翌慶長6年（1601）3月頃より再び岩崎城を攻め4月には陥落させる。和賀忠親は伊達領に逃れるが、5月には切腹させられている。

一揆勢が集結したとされる筒井継殿介屋敷は本館跡の南隣りにある。規模もそれほど大きくなく、本館跡と同じくらいしかない。人数が多くは手狭になるので隣接する坊館や本館跡が利用された可能性があるのではなかろうか、また旧和賀家臣である成田藤内もこの一揆の一員で、花巻城攻撃が失敗しここに戻るとき馬場野で南部勢北湯口主膳と一騎打ちとなり藤内が首を取られたと伝えられている（成田藤内はその後の岩崎城籠城にも名がある）。このように伝承だけでなく地理的にも和賀・稗貫一揆と本館跡は深い関係にあるといえる。今回の調査でこの時期の遺物は得られなかったものの、一揆や成田氏との関連を否定するような遺構・遺物も検出されていない。

花巻城攻めが失敗し、一日は筒井屋敷（本館跡含む）に戻った一揆勢もすぐにここを退き岩崎城へ籠城する。この地に立て籠もるには防御施設が貧弱であるし、伊達氏からの支援もここからでは難しいだろう。よって集結地として選ばれたものの籠城の地とは考えていなかったといえ使われたのは数日であった。検出された建物に燃えた痕跡はなかったので館内に火をかけずに出了と推察される。

5) 年代

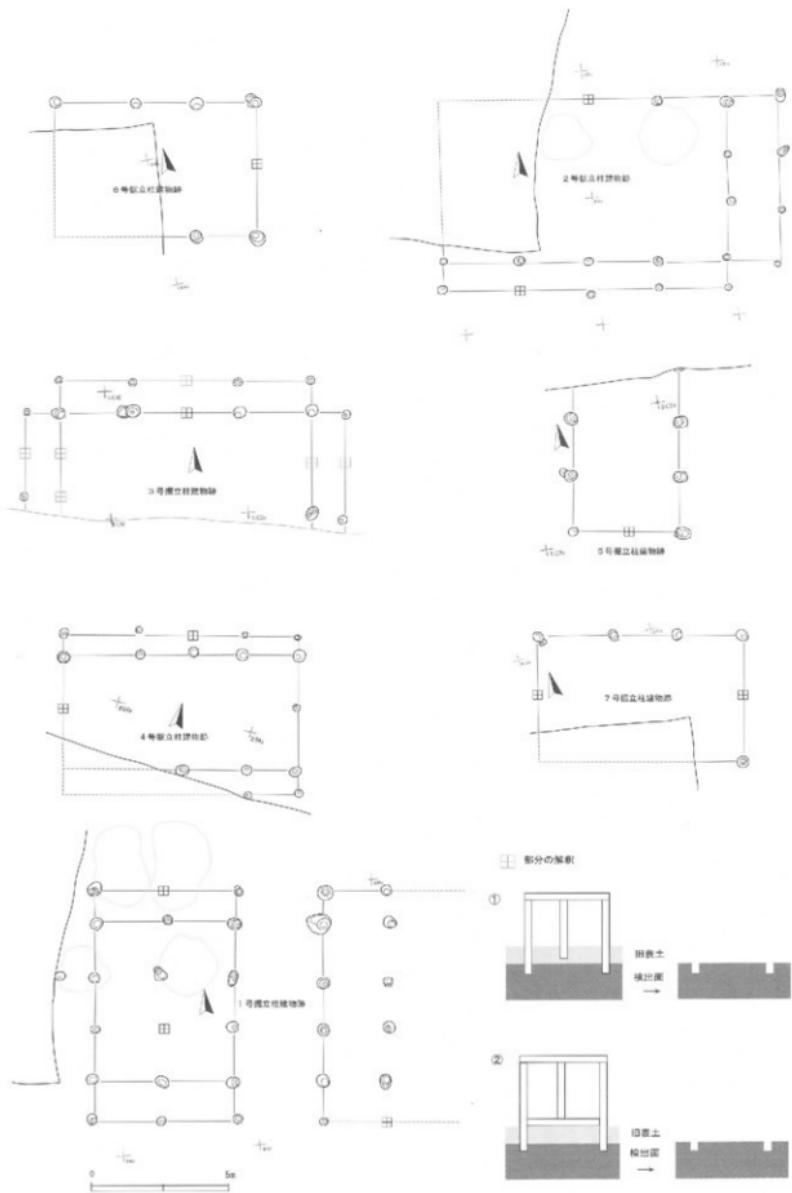
出土遺物がなく考古学的に時期決定をする根拠は乏しい。前述した内容から16世紀頃に機能していたと推測したが、掘立柱建物跡の間尺からは15世紀前半に位置づけられそうな建物もあり未解明の問題として残った。

6) その他

近世には無宿である。よって中世遺構を抽出するには非常に易しい遺跡である。調査区外にも遺構は広がっており遺構密度もあまり濃くないため掘立柱建物跡を把握するのも良好である。建物の規模・形状も種類が多いので遺物を伴えば中世の建物研究上良好な資料を追加できると思われる。

<引用参考文献>

- 北上市教育委員会 昭和48年『北上市丸子館調査報告書』文化財調査報告第12集
北上市立博物館 昭和58年『北上市立博物館研究報告第4号』『丸子館遺跡調査略報』
北上市教育委員会 平成16年『丸子館跡』北上市埋蔵文化財調査報告第61集
北上市教育委員会 平成4年『馬場野遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第2集
(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
平成2年『物見崎遺跡・監物館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第157集
和賀町教育委員会 昭和42年『平安初期都衙遺跡・岩崎城の發掘』
岩手県教育委員会 昭和55年『東北縱貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』(柳田館遺跡)。岩手県文化財調査報告書第53集
岩手県教育委員会 昭和56年『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書』(大瀧川A～C遺跡)。岩手県文化財調査報告書第57集
北上市 1968『北上市史』第1巻 原始・古代(1)
北上市立博物館 1986『古代仏教の聖地 国見山極楽寺』北上川流域の自然と文化シリーズ(8)
北上市立博物館 2000『和賀氏一族の葬亡』(総集編)『岐路の世界と一所懸命の拠点－城館の時代』北上川流域の自然と文化シリーズ(21)



第36図 掘立柱建物跡の検討



第37図 二子城ほか繩張り図



「くつわ清水遺跡」北上市教育委員会1989年より転載

第38図 二子城図面

写 真 図 版



遺跡遠景（北から）



遺跡遠景（東から）

写真図版 1 航空写真



城館内直上写真（上が南）



調査区東端部（北から）



東側調査区現況（北東から）

写真図版2 調査区現況ほか



調査区東端部（南から）



調査区東端部（南から）



東側調査区現況（西から）
稚木を刈り払った状態。

写真図版3 調査区現況



基本土層



土壘跡現況（南から）



土壘現況（北から）

写真図版4 基本土層・1号堀跡・1号土壘（1）



1号土塁跡北端部断面（南から）。土塁は北側へと延びている。



1号土塁跡北端部断面（南から）。土塁は北側へと延びている。

写真図版5 1号堀跡・1号土塁（2）



1号土壘南部断面（南から）



1号土壘跡・1号堀跡平面・1号溝跡（南から）

写真図版6 1号堀跡・1号土壘（3）



1号土塁・1号堀平面（北から）



1号堀跡北半部断面（南から）埋土中位に礫層がある。これは敷かれたものであろう。

写真図版7 1号堀跡・1号土塁（4）



1号堀跡中央部断面（南から） 堀底は狭いが平坦になっていた。



1号堀跡・1号土壙跡（南西から）

写真図版8 1号堀跡・1号土壙（5）



1号堀跡 碓敷面北半部
礫群は埋土中位に散かれていた。



1号堀跡 碓敷面南半部
礫は投げ込みではなく、
散かれたような状態で検出された。

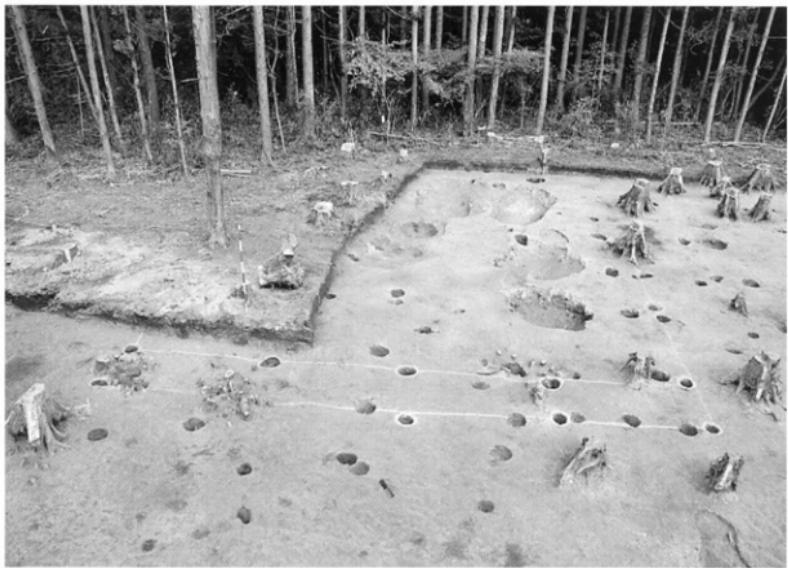


礫は堀の中位に並べられていた

写真図版9 1号堀跡・1号土壙 (6)



1号掘立柱建物跡（南から）

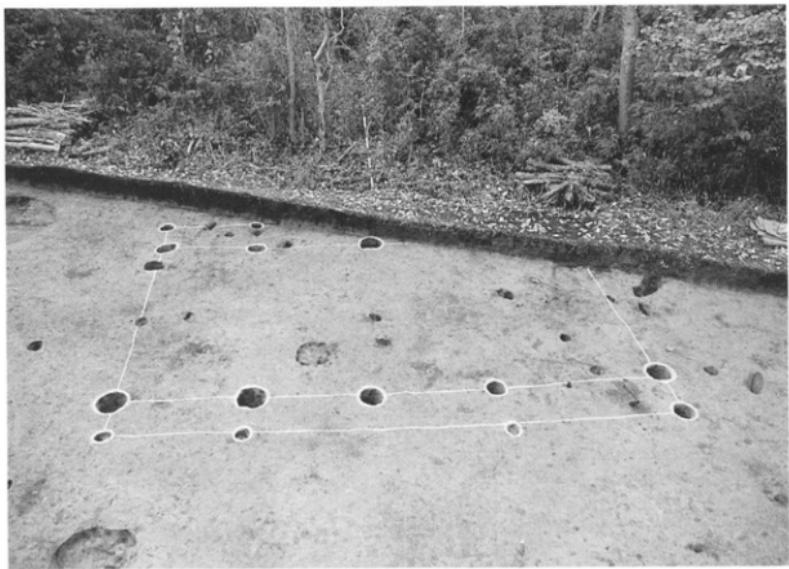


1号掘立柱建物跡（南から）

写真図版 10 掘立柱建物跡（1）



3号掘立柱建物跡（東から）



4号掘立柱建物跡（北から）

写真図版 11 掘立柱建物跡（2）



5号掘立柱建物跡（東から）。小規模な建物ながら柱間の振れが少なくしっかりとした建物。



6号掘立柱建物跡（北から）

写真図版 12 掘立柱建物跡（3）



7号据立柱建物跡（北から）



8号据立柱建物跡（北から）

写真図版 13 据立柱建物跡（4）



調査区東端部（南西から）曲輪内では最も掘立柱建物跡が密に分布することから中心域であった可能性が高いが、東側は崖崩落によって失われていた。

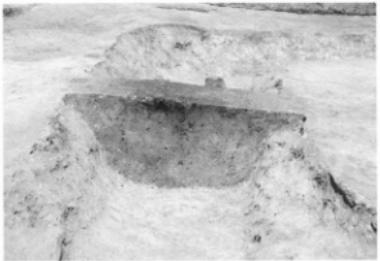


1号方形周溝平面（南から）

写真図版 14 掘立柱建物跡（5）、1号方形周溝（1）



1号方形周溝東断面（南から）



1号方形周溝東断面（南から）



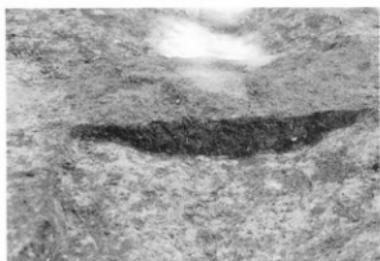
1号方形周溝南断面（西から）



1号方形周溝北断面（西から）

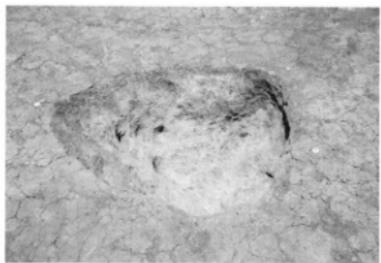


2号溝跡断面（南から）

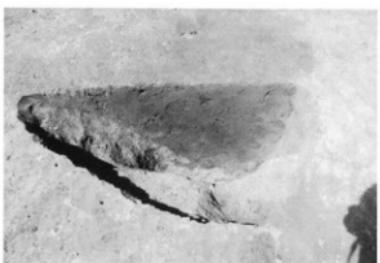


2号溝跡断面（南から）

写真図版 15 1号方形周溝（2）、2号溝跡



3号土坑平面（南から）



3号土坑断面（南から）



4号土坑平面（南から）



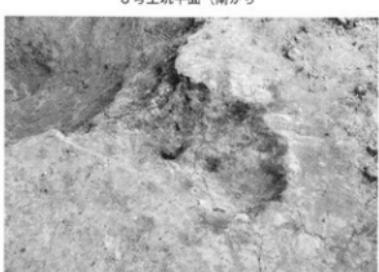
3号土坑断面（南から）



8号土坑平面（南から）



8号土坑断面（南東から）



10号土坑平面（西から）

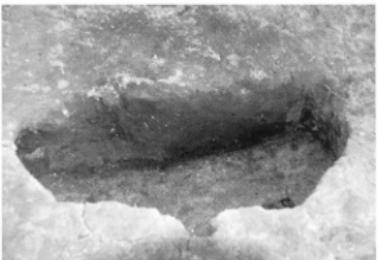


8号土坑断面（南東から）

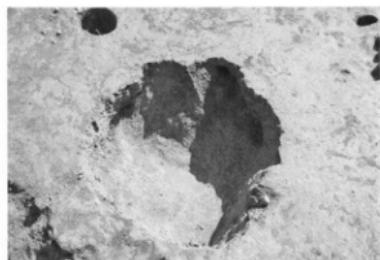
写真図版 16 土坑 (1)



11号土坑平面（北から）



11号土坑断面（西から）



12号土坑平面（南から）



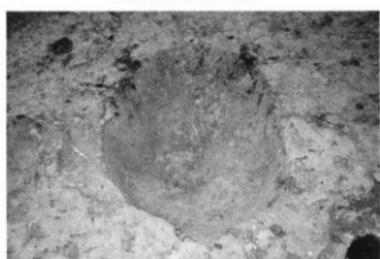
12号土坑断面（南から）



12号土坑平面（南から）



13号土坑平面（南から）



14号土坑平面（北から）



14号土坑断面（南から）

写真図版 17 土坑（2）



15号土坑平面（南から）



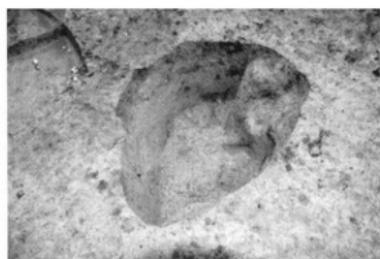
15号土坑断面（南から）



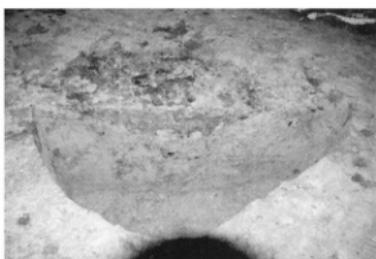
17号土坑平面（南から）



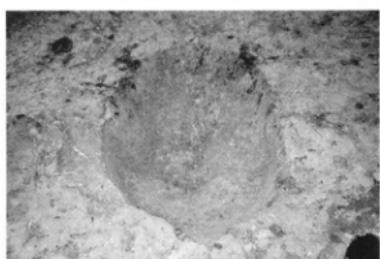
17号土坑断面（南から）



16号土坑平面（東から）



16号土坑断面（西から）

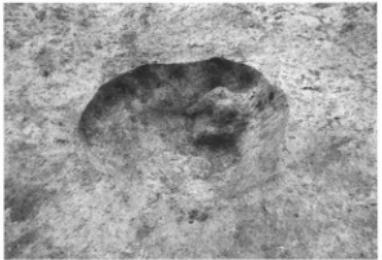


21号土坑平面（南から）

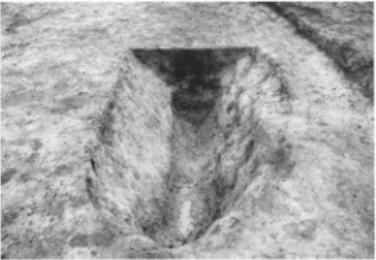


21号土坑断面（南から）

写真図版 18 土坑（3）



23号土坑平面（北から）



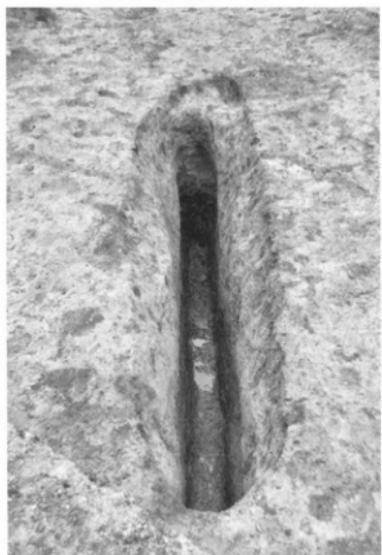
1号陥し穴平面（南東から）



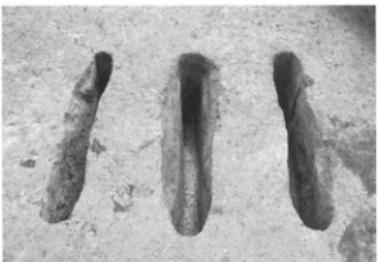
1号陥し穴断面（南東から）



1号陥し穴平面（南東から）



2号陥し穴平面（北から）



5・6・7号陥し穴平面（西から）

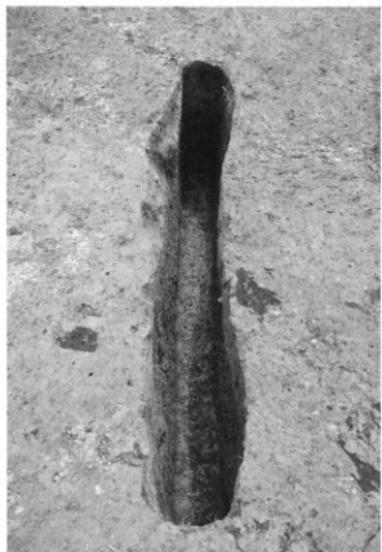
写真図版 19 陥し穴（1）



1号陥し穴断面（南東から）



5号陥し穴断面（南から）



5号陥し穴平面（東から）



6号陥し穴平面（東から）



6号陥し穴断面（東から）



7号陥し穴断面（東から）

写真図版 20 陥し穴（2）



7号陥し穴平面（西から）



18号陥し穴断面（東から）



19号陥し穴平面（東から）



18号陥し穴平面（東から）

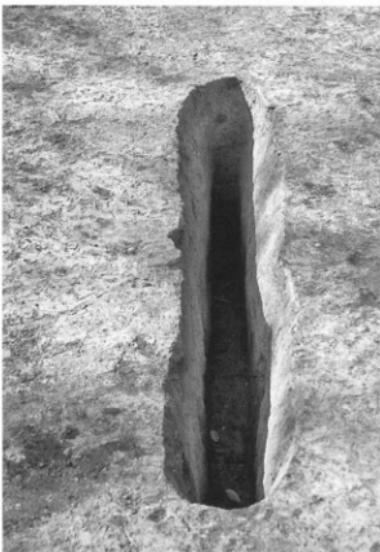


19号陥し穴断面（西から）

写真図版 21 陥し穴（3）



20号陥し穴平面（西から）



22号陥し穴平面（北から）



20号陥し穴断面（西から）



22号陥し穴断面（西から）

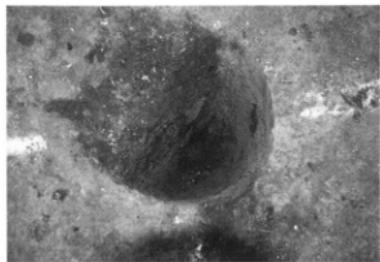


一般公開（成田小学校）

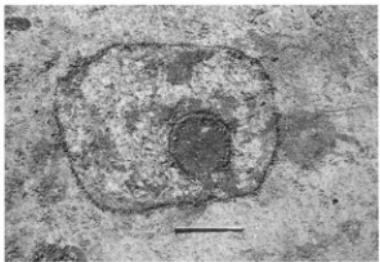


1号堤跡・1号土壙跡

写真図版 22 陥し穴（4）ほか



柱穴断面、柱痕不明瞭



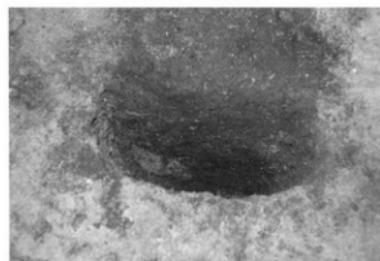
柱穴、柱痕明瞭



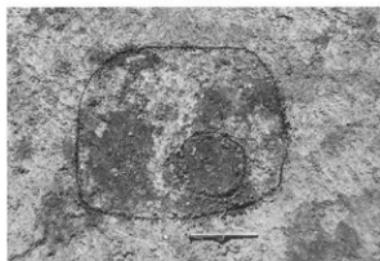
柱穴断面、柱痕不明瞭



柱穴、柱痕明瞭



柱穴断面、柱痕不明瞭



柱穴、柱痕明瞭



調査区の中央付近（西から）



調査区の中央付近には造構がない

写真図版 23 柱穴・調査状況ほか



調査区西側現況（東から）



調査区西側検出面は擾乱をうけている



曲輪内近景（東から）



1号方形周溝検出（南から）



現地公開

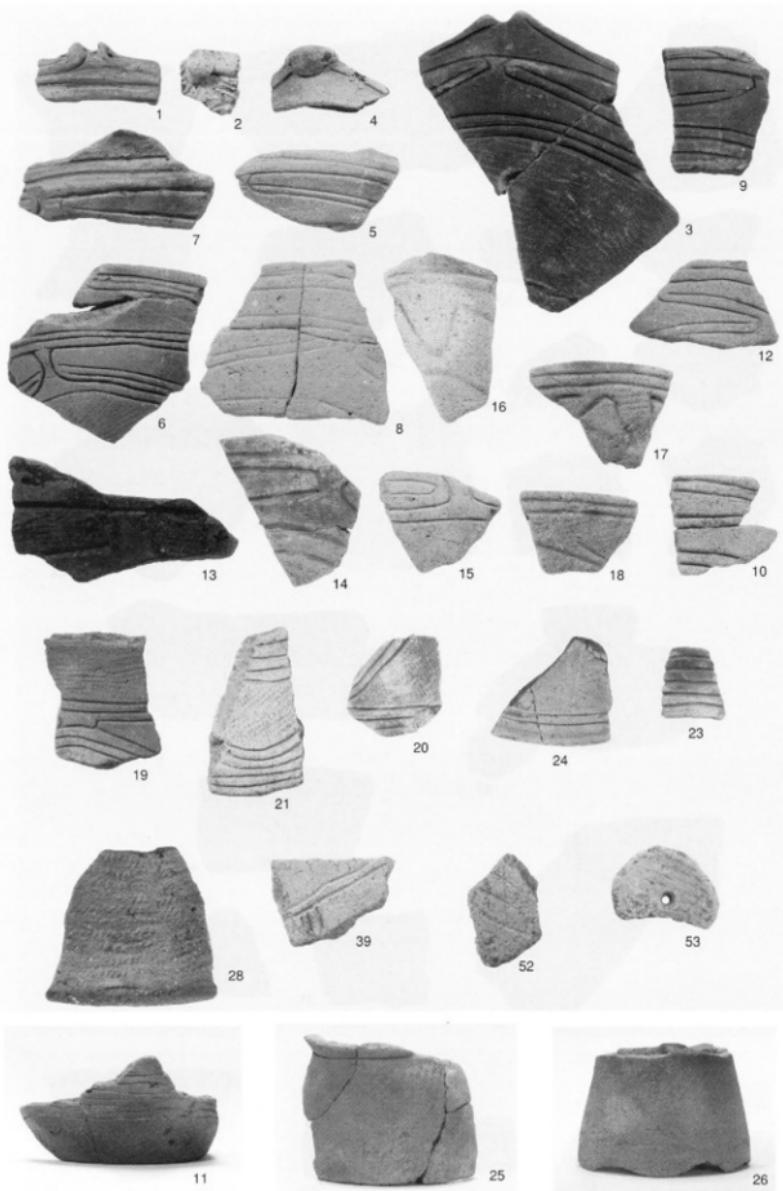


1号方形周溝検出（南から）

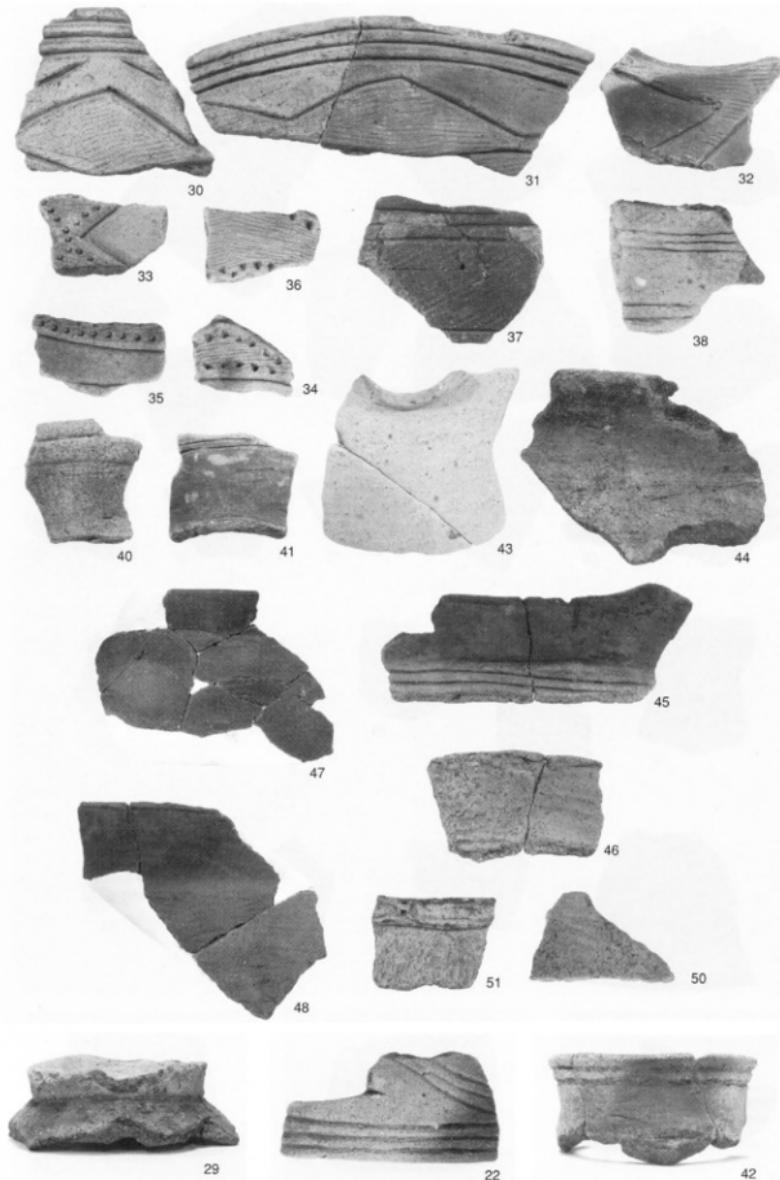


くつわ清水より流れ出る沢水

写真図版 24 調査状況・現地公開ほか



写真図版 25 出土遺物 (1)



写真図版 26 出土遺物 (2)



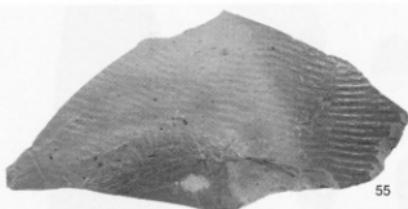
27



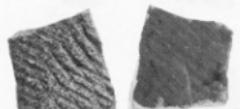
49



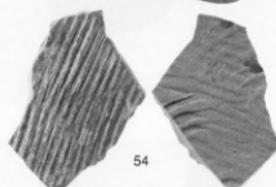
58



55



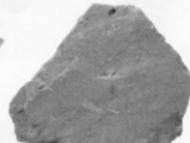
56



54



57



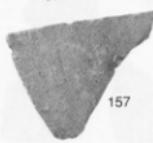
154



155



156



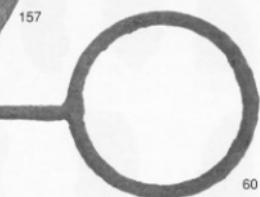
157



59



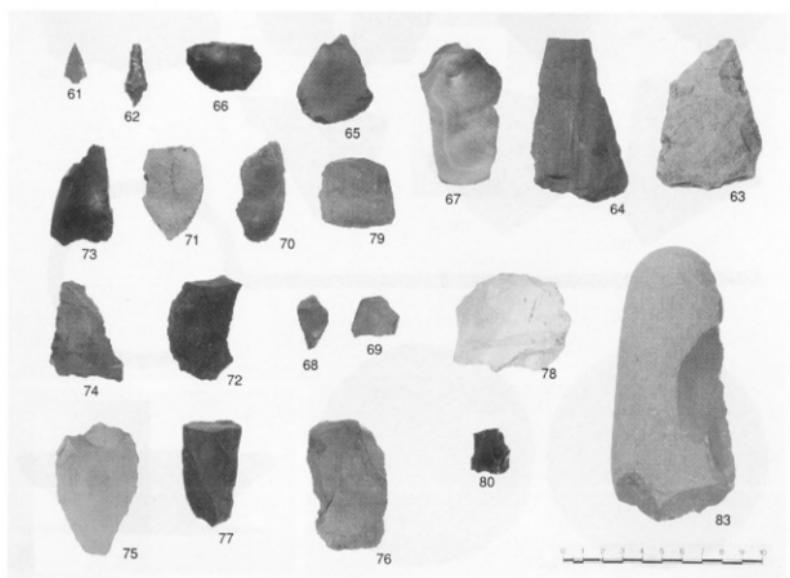
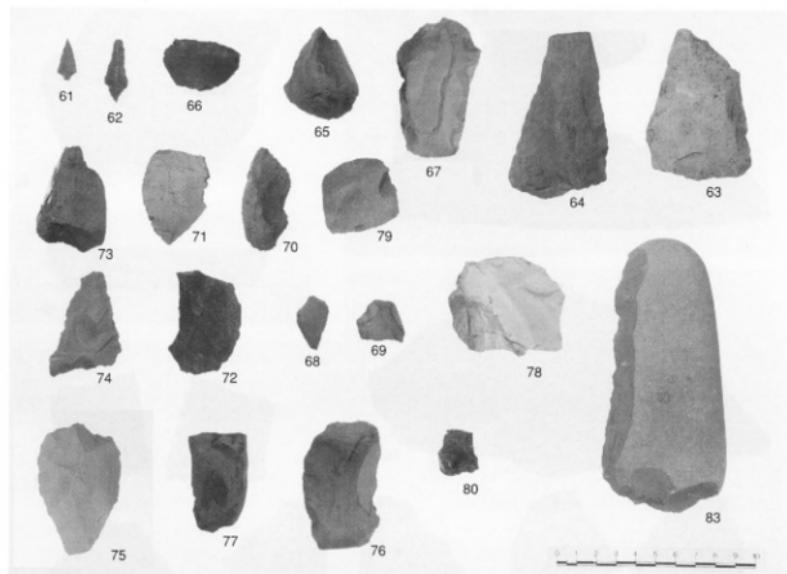
59



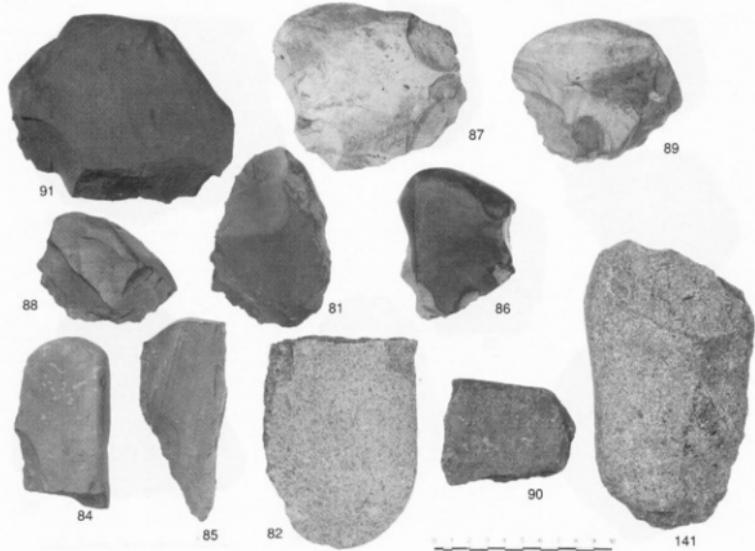
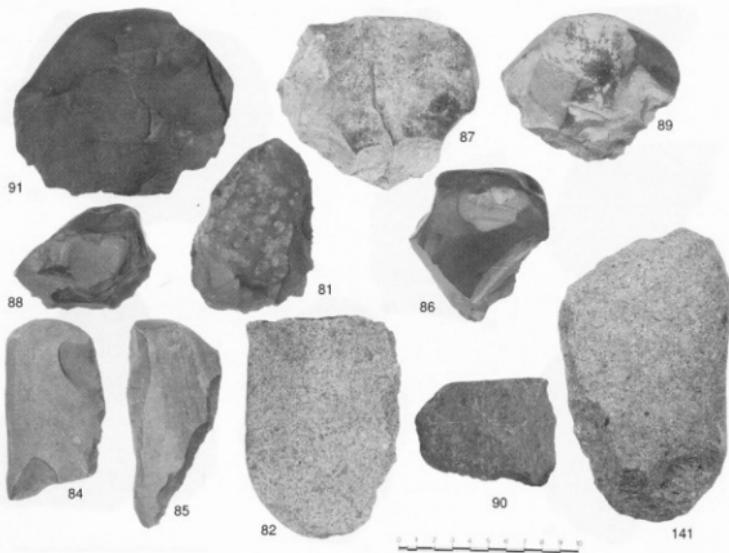
60



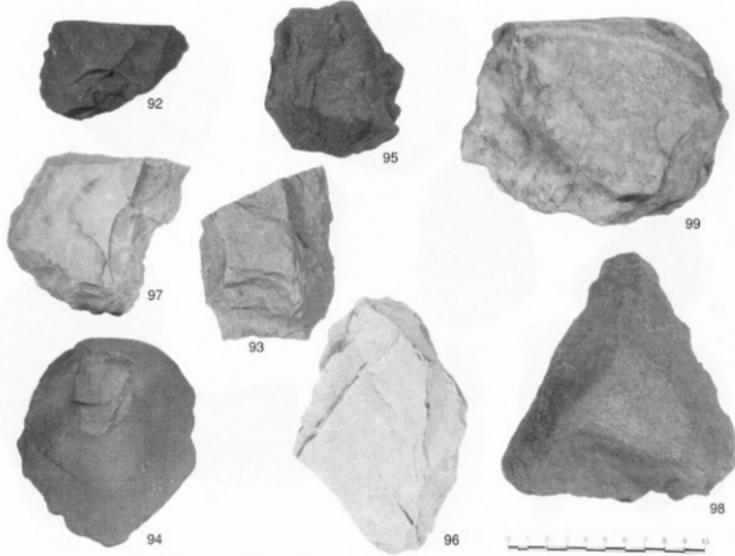
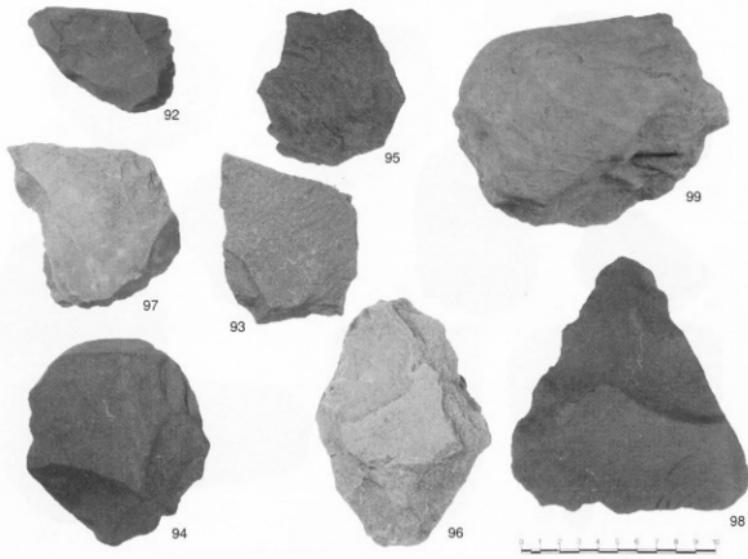
写真図版 27 出土遺物 (3)



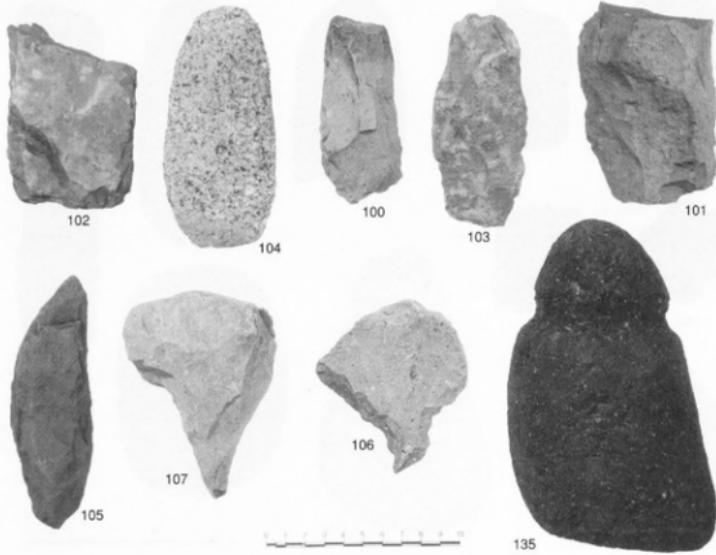
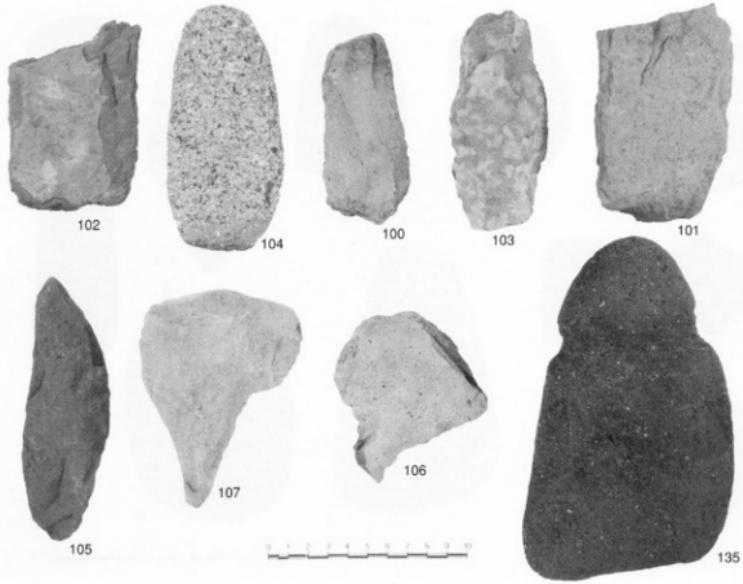
写真図版 28 出土遺物 (4)



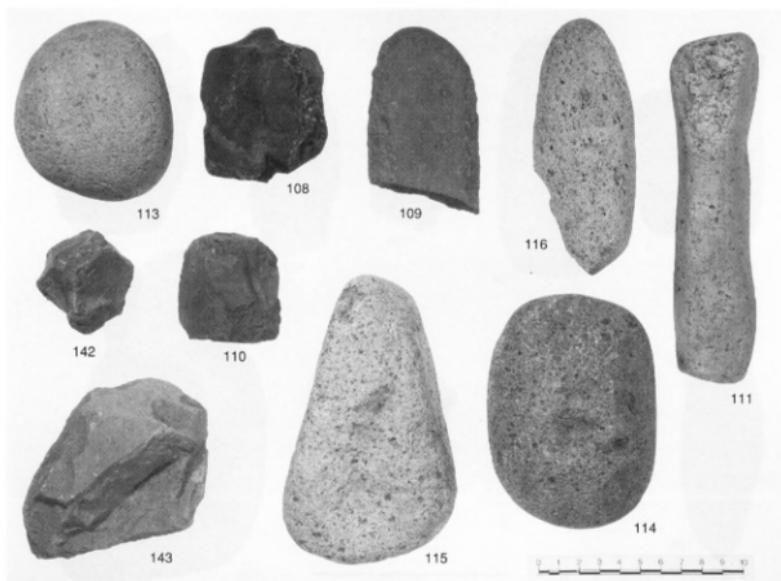
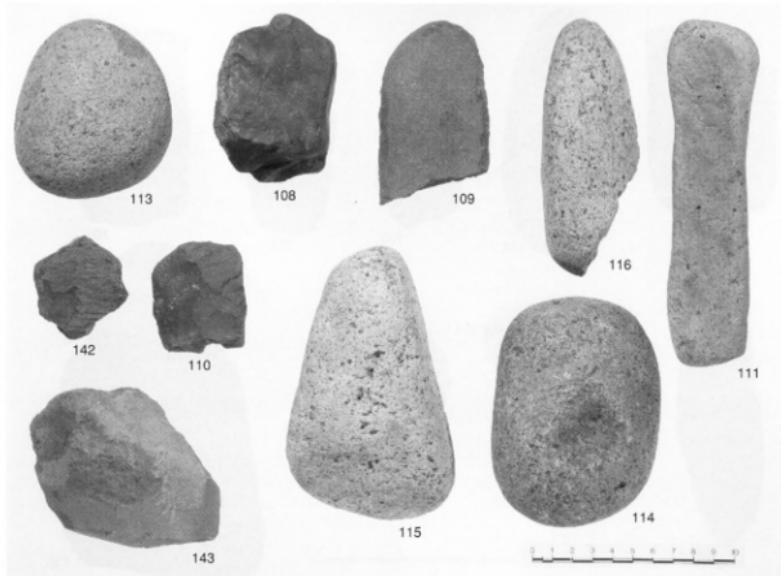
写真図版 29 出土遺物 (5)



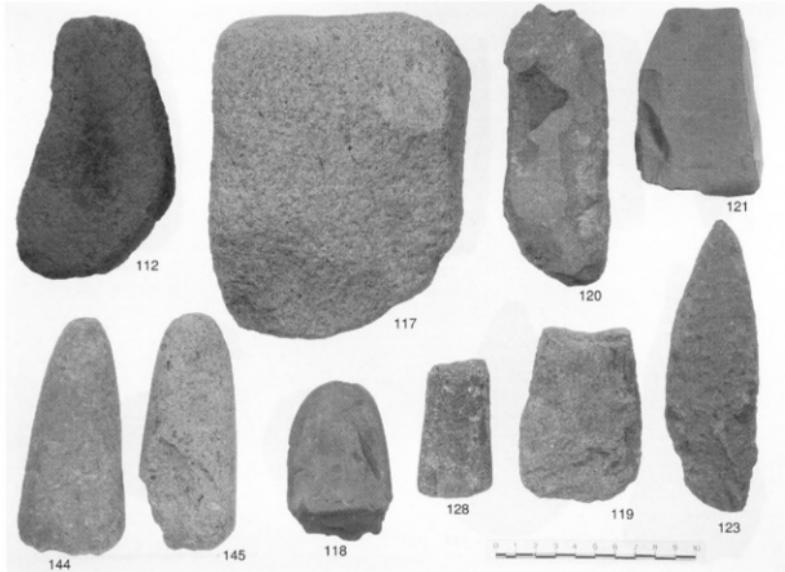
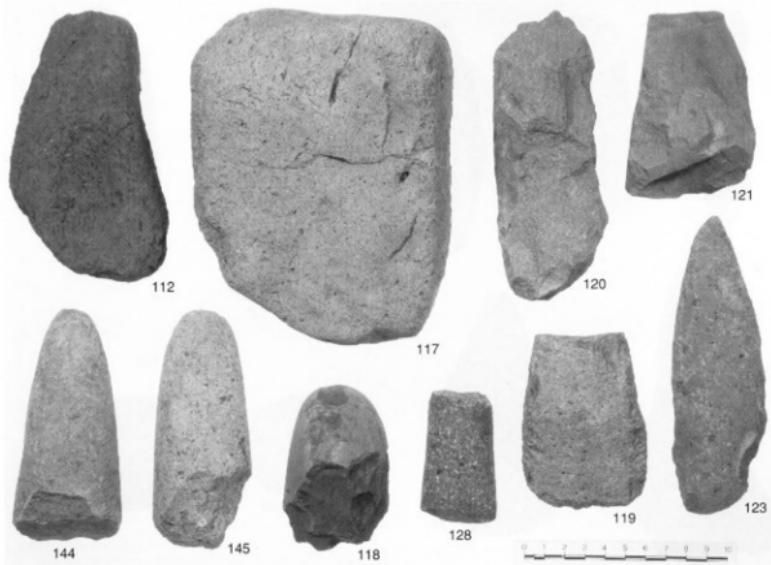
写真図版 30 出土遺物 (6)



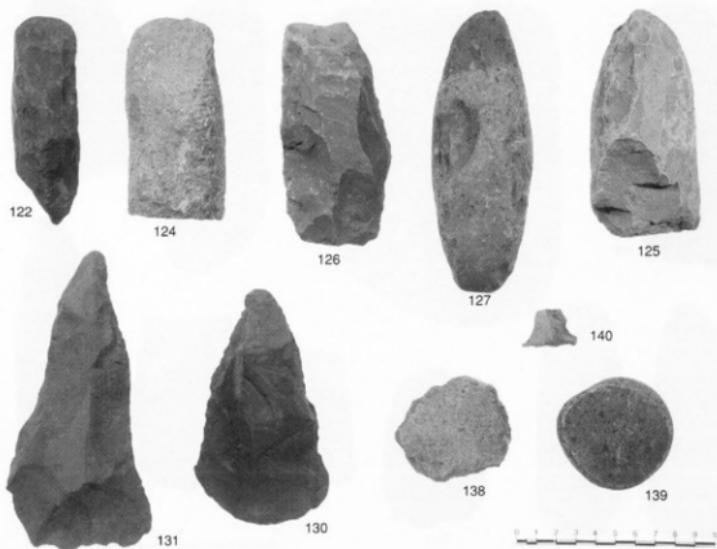
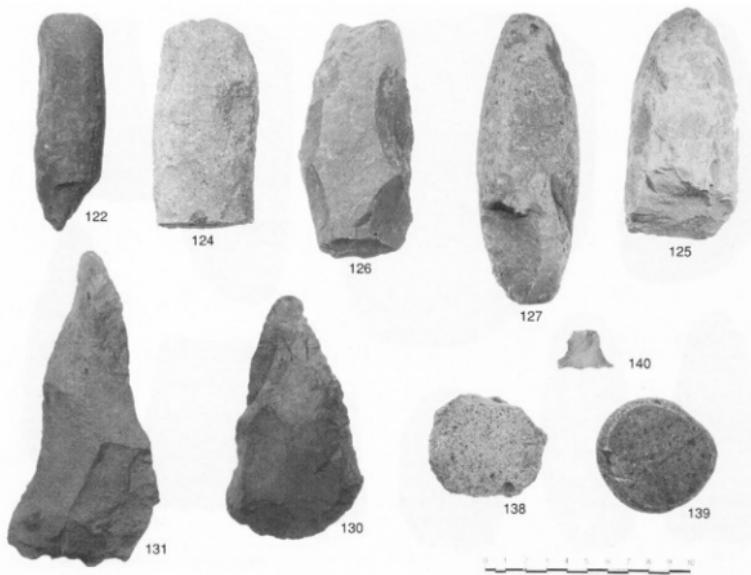
写真図版 31 出土遺物 (7)



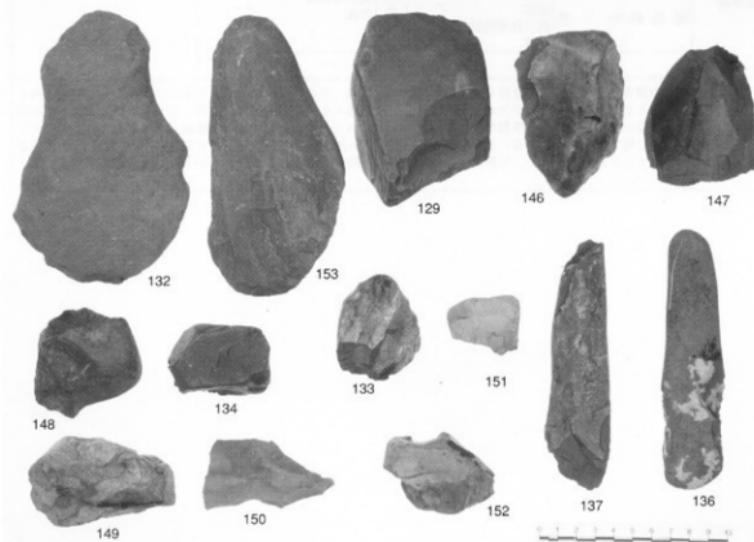
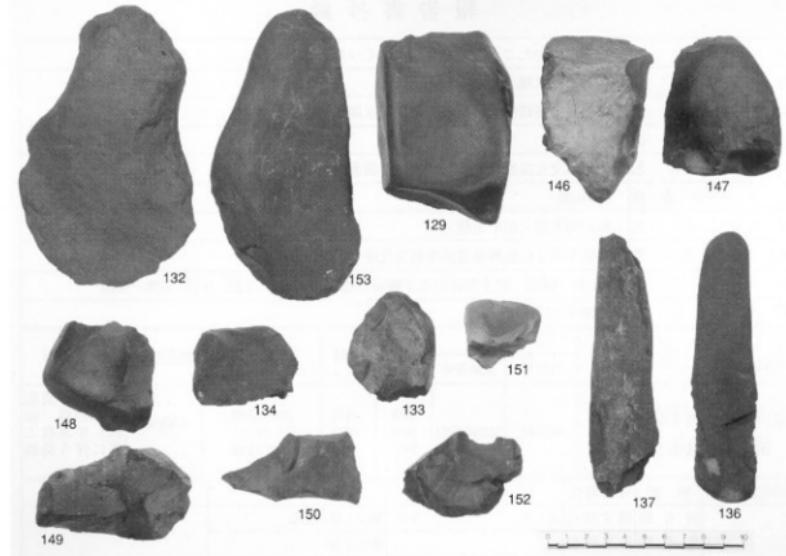
写真図版 32 出土遺物 (8)



写真図版 33 出土遺物 (9)



写真図版 34 出土遺物 (10)



写真図版 35 出土遺物 (11)

報告書抄録

ふりがな	なりたいわだとうていせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	成田岩田堂遺跡発掘調査報告書						
副書名	緊急地方道路整備事業成田更木地区関連遺跡発掘調査						
巻次							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第540集						
編著者名	杉沢昭太郎・田中美徳						
編集機関	財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001						
発行年月日	2008年11月28日						

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ° °	東經 ° ° °	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
成田岩田堂 遺跡	岩手県北上市 成田1地区ほか	03206	MTE46-1221	39度 20分 25秒	141度 07分 54秒	2007.07.02 ～ 2007.11.16	4,800m ²	主要地方道北上東和線（仮称）平成施工事に伴う発掘調査
所収遺跡名								
成田岩田堂 遺跡	狩り場	縄文時代	窟穴六	9基	縄文土器、石器			
	集落跡	弥生時代			弥生土器			
	墓域	平安時代	方形腰溝	1基	土師器、須恵器片			
	城館跡	中世	十畳 廻廊 掘立柱建物跡 溝塾	1条 1条 9棟 2条	国産陶磁器 古銭			
		時期不明	土坑	12基				
要約	今回の調査で、縄文時代には狩り場、弥生時代には集落、平安時代には墓域、中世には城館として利用されていました。特に中世の城館跡に関しては、層や上部が調査区外にも残っており、築の範囲も複数明らかになった。郭内からは多数の建物跡が見つかっており、なかには縄柱の建物跡もあることから、城内でも中心的な場であったといえる。成田藤内氏の居館があったと伝えられるがその可能性は高いであろう。圓溝跡は出土しなかったものの、和賀氏が二子城を築いた時代と考えるのが自然といえ、16世紀頃に位置づけておきたい。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第540集

成田岩田堂館遺跡発掘調査報告書

緊急地方道路整備事業成田更本地区関連遺跡発掘調査

印 刷 平成20年11月25日

發 行 平成20年11月28日

編 集 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電 話 (019) 638-9001

發 行 岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部

〒024-8520 岩手県北上市芳町2-8

電 話 (0197) 65-2738

脚 岩手県文化振興事業団

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号

電 話 (019) 651-2235

印 刷 (株)ジロー印刷企画

〒020-0066 岩手県盛岡市上田2丁目17-4

電 話 (019) 651-6644
